

平成 23 年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

一人暮らし高齢者・高齢者世帯の生活課題とその支援方策に関する調査研究

自立から要介護期への移行把握のための
アセスメント項目の抽出と効果的な支援方法に関する
基礎調査研究報告書

～有料老人ホームをフィールドとして～

<目次>

はじめに.....	1
第1章 調査研究概要.....	3
第1節 背景と目的.....	3
第2節 事業内容.....	4
第1項 調査の全体像.....	4
(1). 移行期の身体的・精神的変化に関する先行研究調査とアセスメント項目案の構築.....	4
(2). 移行期にある入居者に対する継続調査（パネル調査）.....	4
(3). 移行期における支援方法等に関する職員調査.....	4
(4). 移行期にあることを示す指標と支援方法の検討.....	4
第2項 検討委員会の設置.....	5
(1). 委員会.....	5
第3項 調査の内容.....	6
(1). グループインタビュー調査概要.....	6
(2). 指標項目アンケート調査概要.....	6
(3). 入居者職員アンケート調査概要.....	7
第3節 調査研究体制.....	8
第1項 委員会.....	8
(1). 委員会.....	8
(2). 作業部会.....	8
第2項 事務局.....	8
第2章 調査結果.....	9
第1節 アセスメント指標について.....	9
第1項 先行研究.....	9
第2項 ICF国際生活機能分類の応用.....	12
(1). ICFの考え方の整理.....	12
(2). 移行期評価アセスメント項目策におけるICFの応用.....	13
第3項 老研式活動能力指標との関係.....	14
第4項 グループインタビュー調査による気づきのポイントの抽出.....	15
(1). 調査内容の検討.....	15
(2). 調査結果（ポイントの抽出）.....	16
第5項 アンケート調査による気づきポイントの整理.....	21
(1). 指標選別のためのアンケート調査の検討.....	21
(2). 指標選別のためのアンケート調査の結果.....	22
第6項 入居者職員調査による気づきポイントの評価.....	31
(1). 調査対象者の状況.....	32
(2). 第一回調査における指標案の集計結果.....	38
(3). 第二回調査における指標案の集計結果.....	42
(4). 入居者調査と職員調査の分析結果からの指標候補項目の抽出.....	46
(5). 最適尺度法と二項ロジスティック法による分析.....	47
第2節 対応方策について.....	53
第1項 職員調査による対応案の整理.....	53
(1). 入居者の状態維持や生活の質の向上につなげるために現在実施していること.....	53
(2). 入居者の状態維持や生活の質の向上につなげるために今後実施しようと思うこと.....	55
第3章 まとめ.....	57
第1節 指標案と対応方策.....	57
(1). 抽出した項目の妥当性.....	57
(2). 項目の一般化.....	59
第2節 今後の課題.....	60
(1). 移行期レベルの確認.....	60

(2).	一般家庭での移行期測定の支援	60
第4章	参考資料	62
第1節	アンケート票	62
第1項	指標アンケート	62
第2項	第一回入居者職員アンケート調査票	69
(1).	入居者調査票	69
(2).	職員調査票	73
第3項	第二回入居者職員アンケート調査票	77
(1).	入居者調査票	77
(2).	職員調査票	79
第2節	アンケート集計表	81
第1項	指標アンケート	81
第2項	入居者アンケート	88
第3項	職員アンケート	95

はじめに

調査研究委員会委員長
和洋女子大学 岸田宏司

一般に移行期とは、医療において入院から在宅介護への移行を指すことが多く、在宅ケアにおける家族生活、家族支援の体制作り等が研究テーマとなることが多い。本研究で言うところの移行期は自立高齢者が要支援や軽度の要介護状態に移行するまでの期間を移行期と呼んでいる。医療における移行期と同様に高齢者の生活機能レベルが低下することで、高齢者を支える家族を始め、自立生活を支援する介護サービス事業者等の受け入れ準備が必要となる時期である。さらに、移行期において重要な点は、機能低下する高齢者の生活機能を支えるための準備に加え、要支援、要介護状態になることを予防することにある。ここでいう予防には、要支援や要介護にならないように支えることに加え、心身機能の低下をできるだけ早期に発見することで、自立生活を維持することが含まれている。

加齢による心身機能の低下は、防ぎようのない側面を持っているが、そこに積極的に家族や介護サービス事業者が関わることで、身体の機能低下はあっても、自立的な生活を続ける意欲や社会との関係性を維持し、高齢者のQOLが一気に低下することを予防するための取り組みである。

そのために本年度の研究では、自立期にある高齢者がどのようにして要支援、要介護に至るかを評価するためのアセスメント指標の作成を目指した。有料老人ホームで生活する自立高齢者、要支援高齢者を対象として、どのような変化が身体面、精神面、生活面において出ているかを捉えるための指標を抽出した。有料老人ホームは居宅で生活する高齢者とは異なり、常に生活を見守る専門スタッフとの関わりがあり、その微妙な変化の兆候を客観的に捉えやすい。その点に注目し、調査では自立や要支援状態の高齢者の生活ぶりを生活観察する立場にあるホーム職員から「振り返り法」を活用して、変化がどのようなところに現れるのかを明らかにした。調査では3施設 15名以上の職員から自立から要支援期、要支援期から要介護期への変化に関するアセスメントポイントを聴きとりし、全体で170のアセスメント項目を抽出した。

抽出した項目を用いて2度の現場実証調査を行い、蒐集したアセスメント項目の構造分析と項目選択を行い自立期と要支援へ移行を測定するアセスメント項目の絞り込みを行った。さらに、絞り込んだアセスメント項目を使い自立と要支援とを判別するのに寄与するアセスメント項目をロジスティック回帰分析によって導き出すことを試みた。

抽出されたアセスメント項目は居宅で生活する高齢者の変化を家族やその関係者が高齢者の変化にいち早く気付くためのチェック項目として活用することができる。しかし、これらのチェック項目は徒に加齢による心身機能の低下を早期に見つけ、身体の機能低下を予防させると言うだけに活用するのではない。移行期に至った時に家族があわてず、当事者である高齢者のQOLが心身の変化に対しても維持されるように支援することが重要である。加齢を前向きにとらえ、加齢を受容しながら生活の質を担保するためにこの指標を活用していただきたいのである。

今年度の研究においては、アセスメント項目の抽出とその精査に多くの時間を割いた。このアセスメント項目の課題は実際に高齢者の変化をどの程度把握し、実際の生活に活用できるかというフィージビリティスタディがまだ残されている。高齢者と住む家族が、むやみに高齢者の心身機能の低下を恐れず、老化を見守りながら生活を継続できるような指標が今後構成されることを期待している。

最後になったが、この調査の趣旨に共感していただき調査に協力していただいた〈ゆうゆうの里〉の入居者の皆様と項目の抽出に長時間を割いていただいた職員の皆様方にここよりお礼を申し上げます。

第1章 調査研究概要

第1節 背景と目的

自立から要支援1, 2の状態へ移行していく時期（以下、移行期と表現する）は、身体の変化に応じて様々な生活上の不具合が発生する時期である。家族関係の変化、住居の改修、住み替え、費用の増加等のストレスも多いと考えられる。この移行期への関与の仕方としては、例えばデンマークなどでは、家庭医とソーシャルワーカーが連携して、地域の高齢者一人ひとりを継続して見ていく体制が組み立てられており、要介護度の重度化の防止、家族の負担軽減に効果を発揮している。

しかし、日本においては介護予防のためのポピュレーションアプローチは存在するものの、個々の生活にあわせて必要なサービスが提供される状況にない。介護の重度化を防いだり自立生活を維持したりするには、デンマークのように移行期にある人に医療介護の専門家が早期に関わることが重要である。例えば、初期の認知症であれば医療的支援や生活支援で、症状の緩和や進行の抑制が可能であることが明らかになっている。

本研究は、上記のような早期の関わりに導いていくために必要となる移行期であることを捉えるためのアセスメント指標を検討するものである。そのため、移行期にある高齢者を継続して観察しやすい有料老人ホームをフィールドとして実施することとする。具体的には、①移行期にある高齢者を見出す指標の抽出ならびに②要介護を予防する効果的な支援方法を明らかにするものである。

第2節 事業内容

第1項 調査の全体像

(1). 移行期の身体的・精神的変化に関する先行研究調査とアセスメント項目案の構築

自立期、要支援期等の身体状況、精神状況、人間関係、生活環境状況とその変化に関する先行研究について文献調査を行い整理する。

先行研究に現れる指標等を念頭におきつつ、職員グループインタビューを実施し、移行期アセスメント指標項目を検討する基本となる、「移行期の変化を捉えるポイント」を整理する。整理の際には、ICF機能分類を参考としつつ、職員等が利用しやすい分類整理を行うこととする。

なお、研究計画の段階では、この時点で、仮の指標案を設定することとしていたが、先行研究に他者が発見するための指標がほとんどないことから、グループインタビューの結果を受けてアセスメント指標の案を作成することとした。また、具体的な生活感のある指標である方が、職員（ひいては一般の方々）が活用しやすいと考えてICF機能分類の項目そのものを指標として使用するのではなく、その分類法について参考とすることとした。

(2). 移行期にある入居者に対する継続調査（パネル調査）

上記で作成したアセスメント指標案が対象者の状況を適切に把握しているかを検証するため、有料老人ホームの入居者を対象とし、アセスメント項目等を用いたアンケート調査を複数回（2回）実施する（パネル調査）。

(3). 移行期における支援方法等に関する職員調査

上記にあわせて、担当する職員に対して対象者別に上記と同様の調査を実施し、対象者に関する職員の評価を確認するとともに、調査時点でどのようなサービスを提供しているかを把握する調査（2回）を実施する。

(4). 移行期にあることを示す指標と支援方法の検討

2回の調査を通じて、健常な高齢者と移行期にある高齢者を判別するためのアセスメント項目の抽出を行うとともに、アセスメント項目全体としての有効性を評価する。具体的には、日常的に支援を行っている職員の判断に近い評価結果が得られるかどうかなどによって評価する。

また、調査結果から移行期の支援方法として有効と考えられるものを抽出する。

なお、研究計画の段階では、移行期にあると考えられる入居者に（本人了解のもとで）支援を一定期間実施し、職員による評価から有効性を評価することとしていたが、グループインタビューの結果、移行期特にその初期段階では、見守りや会話を行うといった支援方法が中心であることがわかり、その効果を見るには、相当の長期間にわたる継続調査を必要とすると考えられたため、本年度については、効果的と考えられる支援方法を整理することにとどめた。

第2項 検討委員会の設置

(1). 委員会

① 第一回委員会

- 開催日：8月5日（金）10:00～
- 開催場所：財団法人 日本老人福祉財団会議室
- 検討内容
 - ・ 調査研究概要の説明
 - ・ 研究スケジュールについて

② 第二回委員会

- 開催日：9月5日（月）16:00～
- 開催場所：財団法人 日本老人福祉財団会議室
- 検討内容
 - ・ 移行期把握のための観察のポイントに関するグループインタビュー調査の検討

③ 第三回委員会

- 開催日：11月8日（火）17:00～
- 開催場所：財団法人 日本老人福祉財団会議室
- 検討内容
 - ・ 移行期把握のための観察のポイントに関するグループインタビュー調査結果について整理方法に関する検討

④ 第四回委員会

- 開催日：1月18日（水）15:00～
- 開催場所：財団法人 日本老人福祉財団会議室
- 検討内容
 - ・ 移行期把握のための指標に関するアンケート調査の検討
 - ・ 移行期把握のための指標を用いた入居者職員調査の検討

⑤ 第五回委員会

- 開催日：2月28日（火）15:00～
- 開催場所：財団法人 日本老人福祉財団会議室
- 検討内容
 - ・ 移行期把握のための指標に関するアンケート調査結果の検討
 - ・ 移行期把握のための指標を用いた入居者職員調査結果の検討

⑥ 第六回委員会

- 開催日：3月19日（月）16:00～
- 開催場所：財団法人 日本老人福祉財団会議室
- 検討内容
 - ・ 報告書の検討

第3項 調査の内容

(1). グループインタビュー調査概要

① 調査の目的

- ・ 移行期測定アセスメント指標を作成するにあたり、現場の実態に即した利用しやすいものとするため、施設職員から、「職場での気づき」、「失敗談」など、具体的に話してもらい、その言葉を収集分析して、指標作成に活かしていくことを目的とする。

② 調査対象

- ・ 対象施設：浜松〈ゆうゆうの里〉、湯河原〈ゆうゆうの里〉、佐倉〈ゆうゆうの里〉
- ・ 対象職員：ケアサービス課、生活サービス課、生コミュニティサービス、食事サービス課等の主任・課長等、入居者の変化について気づきの出来る職員（各施設 4～5名）

③ 調査時期

- ・ 浜松施設：10月13日
- ・ 佐倉施設：10月28日
- ・ 湯河原施設：10月31日

④ 調査方法、項目

- ・ グループインタビュー調査
- ・ 調査項目：注意して観察していること、自立者の変化に気づく点、要支援者の変化に気づく点、後から気づく変化のポイント 等

(2). 指標項目アンケート調査概要

① 調査の目的

- ・ グループインタビュー調査で抽出した、移行期測定アセスメント指標について、発生する時期、重要性等を把握する

② 調査対象

- ・対象施設：浜松、湯河原、佐倉
- ・対象職員：生活サービスおよびコミュニティの職員 100 名

③ 調査時期

- ・平成 24 年 2 月 12 日（日）～2 月 17 日（金）

④ 調査方法

- ・郵送配布、郵送回収 質問紙法

(3). 入居者職員アンケート調査概要

① 調査の目的

- ・グループインタビュー調査および上記アンケートで抽出した、移行期測定アセスメント指標を用いて、入居者と職員にアンケートを実施し、その反応を確認する。

② 調査対象

- ・対象施設：浜松、湯河原、佐倉
- ・対象者：
 - ・入居者：各施設 20 名（自立の入居者 10 名、移行期と思われる入居者 10 名）計 60 名
 - ・職員：上記入居者を担当し、状況を把握している職員

③ 調査時期

- ・第一回：平成 24 年 2 月 15 日（水）～2 月 21 日（火）
- ・第二回：平成 24 年 3 月 5 日（月）～3 月 9 日（金）

④ 調査方法

- ・郵送配布、郵送回収 質問紙法

第3節 調査研究体制

第1項 委員会

(1). 委員会

岸田宏司（和洋女子大学 家政学部生活環境学科教授） 【委員長】

田島誠一（日本老人福祉財団 理事長）

井上智紀（ニッセイ基礎研究所 研究員）

小野信夫（日本老人福祉財団 サービス支援部課長）

(2). 作業部会

岸田宏司（和洋女子大学 家政学部生活環境学科教授）

井上智紀（ニッセイ基礎研究所 研究員）

小野信夫（日本老人福祉財団 サービス支援部課長）

佐野仁美（日本老人福祉財団 浜松〈ゆうゆうの里〉職員）

第2項 事務局

小野信夫（日本老人福祉財団 サービス支援部課長）

田中寿之（日本老人福祉財団 サービス支援部主任）

安藤真穂（日本老人福祉財団 サービス支援部職員）

第2章 調査結果

第1節 アセスメント指標について

第1項 先行研究

有料老人ホームにおける生活の変化を捉えた研究として、小川(1998,1999)の研究¹がある。

民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化について、自室や共用空間等の利用実態と合わせて調査したものである。15年間に4回の調査を実施して分析している。

この結果をみると、食堂の利用について、入居当初は、食堂を利用するものの、一旦減少し、健康状態の変化とは関係は認められないものの、経年的に、自炊等を経て、自室に運んで食事を食べる形式となり、その後、食堂利用に至るという変化がみられるとしている。また、15年間で、一人あたりの外出先に多様性が明らかに縮小していること。余暇活動は、静的なものよりも動的なものが著しく減少すること。などが明らかにされている。

木村²らは、高齢者が、その人らしい生活を営むこと、自分の意思で自らの生活を選択していくことが、高次の活動能力を低下させないことにつながる。そのためには、病気や、視力・能力の低下という老いに直面した時に、どのように高齢者が老化を受け止め、対処していくかが高齢者の生活を大きく左右すると考えられる。しかし、老いと向き合う対処についての定量的検討はほとんど行われていない。そこで、老いと向き合う対処が高齢者の生活活動能力に及ぼす影響を明らかにする第一歩として、老いと向き合う対処尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討している。

この結果、信頼性、妥当性のある尺度として、以下の11項目を導出している。

- ・現在の自分の体の状態をきちんと把握しようとしている。
- ・無理をして自分の体を壊すことがないように、無理をしないようにしている。
- ・必要があれば友人や家族など身近な人に相談できる状況にしている。
- ・自分から必要な情報を積極的に収集するようにしている。
- ・人の手を借りなくても無理をせず自分でできるように工夫をしている。
- ・辛い状況にあっても物事の明るい面を見ようとしている。
- ・周囲の人の自分に対する手助けの気持ちを受け入れようとしている。
- ・大切な友人との付き合いや、趣味などの楽しみは続けられるようにしている。
- ・必要に応じて、医療機関や公的機関あるいは専門機関を利用しようと思っている。
- ・年をとった自分を受け入れようとしている。
- ・今より体の機能や気力が低下した時の対策を考えている。

¹ 小川裕子：有料老人ホーム入居者の外出行動、趣味活動と共同施設の利用状況の変化 民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化に関する研究 その1 その2、日本建築学会計画系論文集 第507号 87-94、1998年5月、第515号 121-128 1999年1月

² 木村紗矢香・松田修：老いと向き合う対処尺度の作成と検討-信頼性と妥当性の検討- 東京学芸大学紀要1部門 56 pp.173~178, 2005

藤原³らは、老研式活動能力指標を用いて、個人レベル能力評価を行い、「介護予防事業」等の保険事業に活用する際の基礎資料を得ることを目的とした研究を行なっている。ここで用いられた老研式活動能力指標は、以下の通りである。

その結果、生活機能のほぼ自立した高齢者においては、老研式活動能力指標の総得点および「知的能動性」「社会的役割」における1点の変動は、測定誤差範囲である可能性があるが、総得点とこれら2つの下位尺度では2点以上、「手段的自立」では1点以上の変動は、測定誤差とは言いがたい変化であるとしている。そして、地域高齢者の生活機能の評価においてこれらの変化を観察した場合は、生活背景を含めてその要因を明らかにし、適切な個別指導に結びつけることが望まれるとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ①バスや電車など公共交通機関を使って外出できますか？ ②日用品の買い物ができますか？ ③自分で食事の用意ができますか？ ④請求書などの支払いができますか？ ⑤預貯金の出し入れができますか？ 	手段的 ADL
<ul style="list-style-type: none"> ⑥年金などの書類が書けますか？ ⑦新聞を読みますか？ ⑧雑誌・書籍を読みますか？ ⑨健康に関心がありますか？ ⑩友人を訪問しますか？ 	知的 ADL
<ul style="list-style-type: none"> ⑪家族の相談にのりますか？ ⑫病人を見舞いますか？ ⑬若い人に話しかけますか？ 	社会的 ADL

³ 藤原、新海、天野、渡辺、熊谷、高林、吉田、星、田中、森田、芳賀：自立高齢者における老研式活動能力指標得点の変動 生活機能の個別評価に向けた検討、日本公衛誌 第50巻 第4号 平成15年4月15日

「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル」分担研究班（主任研究者 東京都老人総合福祉研究所副所長 鈴木隆雄氏）による標記マニュアルには、介護予防のための生活機能評価として、基本チェックリスト、生活機能チェックと生活機能検査を実施する形となっている。このうち、生活機能低下の可能性を把握するものとして、以下の「基本チェックリスト」が設定されている。

1. バスや電車で1人で外出していますか	
2. 日用品の買物をしていますか	
3. 預貯金の出し入れをしていますか	
4. 友人の家を訪ねていますか	
5. 家族や友人の相談にのっていますか	
6. 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	運動
7. 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	
8. 15分位続けて歩いていますか	
9. この1年間に転んだことがありますか	
10. 転倒に対する不安は大きいですか	
11. 6ヵ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	栄養
12. 身長 cm 体重 kg (BMI=)	
13. 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	口腔
14. お茶や汁物等でむせることがありますか	
15. 口の渇きが気になりますか	
16. 週に1回以上は外出していますか	閉じこもり
17. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	
18. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	認知症
19. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	
20. 今日が何月何日かわからない時がありますか	
21. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	うつ
22. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	
23. (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	
24. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	
25. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	

以上の先行研究を見ると、いずれも、基本的には本人に記入していただくことを基本として考えられたものであり、他人が発見するという視点で開発された指標は、ほとんど無いように思われる。

第2項 ICF 国際生活機能分類の応用

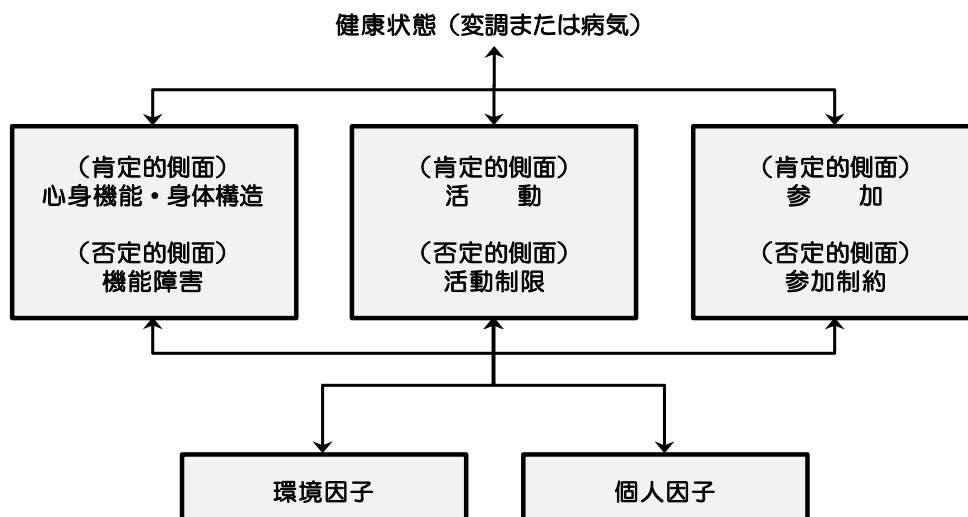
(1). ICF の考え方の整理

世界保健機関（WHO：World Health Organization）は、世界保健機関憲章に基づき、健康と保健に関する諸専門分野及び諸科学分野にまたがる国際的な情報交換を可能にする標準的な共通言語を提供する目的で、国際疾病分類（ICD-10：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems-第10回目の修正版）と国際生活機能分類（ICF：International Classification of Functioning, Disability and Health）を作成した。

ICFは1980年に作成された国際障害分類（ICIDH：International Classification of Impairments, Disabilities, and Handicaps）を改訂して作成されたものである。その改訂点は、ICIDHが、身体機能の障害に着目し、身体機能の障害を起因して生じる「生活機能の障害」や「社会的不利」に焦点を当て、どちらかといえば障害の否定的側面に焦点を当てた機能分類であった。それに対してICFでは全ての人に関する分類とし、肯定的側面と環境因子という観念を加えた点である。すなわち、ICFの目的は「障害者」を分類するのではなく、普遍的な人間の様々な生命・生活に関する機能を分類するものであり、「障害」という言葉の偏見をなくし、全く新しい観点から「障害」をありのまま理解するとともに、「障害」を「個人の問題（医学モデル）」としてだけでなく、「社会の問題（社会モデル）」としてとらえることにある。

分類		内容
肯 定 的 側 面	心身機能	身体系の生理的機能（心理的機能を含む）である。
	身体構造	器官・肢体とその構成部分などの、身体の解剖学的部分である。
	活動	課題や行為の個人による遂行のことである。
	参加	生活・人生場面への関わりのことである。
	環境因子	人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的環境、人々の社会的な態度による環境を構成する因子のことである。
	個人因子	個人の人生や生活の特別な背景であり、健康状態や健康状況以外のその人の特徴からなる。
否 定 的 側 面	機能障害 (構造障害を含む)	著しい変異や喪失などといった、心身機能または身体構造上の問題である。
	活動制限	個人が活動を行うときに生じる難しさのことである。
	参加制約	個人が何らかの生活・人生場面にかかわるときに経験する難しさのことである。

図 ICFの概念図



(2). 移行期評価アセスメント項目策における ICF の応用

本研究においても移行期を評価する視点は、高齢者の生活全般であり、心身機能の低下と障害をアセスメントし、その結果生じる社会的不利や機能障害を支援することは目的としていない。アセスメント項目を導き出す基準として、ICFの「心身機能・身体構造」、「活動」、「参加」の3つの視点に配慮し、抽出するアセスメント項目がそれぞれの領域に分布しているのかを検証しながら抽出した。

なお、ここでの環境要因は有料老人ホームに住む高齢者を対象としていることから著しい環境差はない。個人因子は入居者の個別の生活履歴を始め多くの差がある。アセスメント項目の抽出においてはこれらの個人要因に起因する特殊要因も含めて蒐集した。今回の調査では1次調査、2次調査を行っているが、これらの調査は入居者から導き出したアセスメント項目が個別性因子の強さを評価し、一般的なアセスメント項目として利用が可能かの検証を行っている。

第3項 老研式活動能力指標との関係

老研式活動能力指標⁴（TMIG Index of Competence）は、東京都老人総合研究所の古谷野、柴田らが開発した活動能力の体系で、最も多く日本で活用されている。日常生活行動（ADL）の測定項目だけではとらえられない高次の生活能力を評価することが目的で開発された。老研式活動能力指標は、「手段的自立」「知的能動性」「社会的役割」の3つの活動能力を測定するもので、13項目で構成されている。質問紙では○×方式で最高点が13点となる。この尺度ではIADLの他に、知的能動性、社会的役割に関する項目で構成されており、高齢者の生活全体を把握できるように工夫されている。さらに、この尺度は、WHOの国際機能分類ができる前に、IADL以外の社会性、認知性に着目した数少ない指標となっている。

本研究では老研式活動能力指標は、先のICFの機能分類と同様にアセスメント項目の蒐集の際の抽出軸として参考とした。また、老研式活動能力指標は定義された領域でどの程度の機能低下が生じているかを分析するものとして有効である。その老健式活動能力指標と、移行期の先行指標を明らかにする本研究アセスメント項目との間に整合性と妥当性があるかどうかを確認する必要があると考え、本研究では項目選択を行うアンケート調査に老研式活動能力指標の項目を加え、集計分析の参考とした。

⁴ 1) 古谷野亘：QOLなどを測定するための測度（1）．老年精神医学雑誌，7：315－321（1996）．

2) 古谷野亘，柴田博，中里克治，芳賀博ほか：地域老人における活動能力の測定；老研式活動能力指標の開発．日本公衆衛生雑誌，34：109－114（1987）．

3) 古谷野亘，橋本廸生，府川哲夫，柴田博ほか：地域老人の生活機能；老研式活動能力指標による測定値の分布．日本公衆衛生雑誌，40：468－478（1993）．

4) 古谷野亘：QOLなどを測定するための測度（2）．老年精神医学雑誌，7：431－441（1996）．

第4項 グループインタビュー調査による気づきのポイントの抽出

(1). 調査内容の検討

自立から要支援に移行していく時期であり、基本的には自立的な日常生活を営む高齢者を対象とするため、上記の先行研究において、その指標を活用する中心となるのは、本人を想定していることがほとんどであった。

自立者である以上、自分でチェックポイントにチェックすることは可能であり、その後の生活に気をつけてもらう意味でも、本人がこうした指標を用いて自己チェックを行うことは非常に重要なことである。

ただ、自立度判定のようなチェック項目を自覚的に主体的に自分で受けようとする、あるいは、そのような機会を作ることができる高齢者は良いが、一方で、自立して生活しつつも、他人との関わりが少ない高齢者や、自分ではこうしたチェック項目を受けようとならない高齢者の変化を把握していくことも重要なことであると考えられる。

このような方々には、周囲の人々による見守りや観察が不可欠であり、本研究においては、最終的には、地域の方々が高齢者をさり気なく見守っていくに際しての視点やポイントを取りまとめることとしている。そのために、まず、長期にわたり自立高齢者を見守り、要支援期への移行の時期も継続して観察することができる有料老人ホームで用いることが出来る指標を作成することを本年度の目標とした。

そこで指標を作成する第一のステップとして、本人ではなく他者の視点からどのような変化に気づくのか どのような点に自立から要支援への変化を感じるのかについて、有料老人ホームの職員を集めて、グループインタビューを実施し、そのポイントを拾い集めることとした。

具体的には、以下のような内容でグループインタビューを行った。

なお、本研究におけるメインテーマは自立から要支援への移行の時期についてであるが、このグループインタビューでは、要支援期から要介護期への移行についても、あわせて調査を行った。

【インタビュー項目】

① ご入居者について、注意して観察していること（視点）は？

例：食事の量、衣服の状態(乱れの有無など)、自室での滞留時間、外出頻度、話の内容(繰り返しの有無)、社会性の状態(人との付き合い)、精神状態(うつ状態)、排泄頻度、通院状況、家族との接触頻度状態、動作の依存度（移動、トイレ、入浴など）、その他日常生活においてどういう点に注目されているかを上げていただきたい。

② 今までに、自立状態だったご入居者が、これから少し気をつけて観察しなければいけないかな。と思うような変化に気づいたことはありますか。（そのとき気になった変化とはどのようなものですか。）

例：いわゆるクリティカルポイントのことで、「最近よく物忘れをするようになった」、「自分から話しかけてこなくなった」等でお気づきのことを教えていただきたい。

③ 要支援状態の方が、要介護状態になるのではないかと感じる変化は？

例：健康状態(疾病状況、既往歴など)、ADL、IADL、コミュニケーション能力、認知力、社会とのかかわり、排泄関係、食事摂取状況、居室の状況等で要介護に移行する際の注目ポイントを教えていただきたい(個人差はあると考えられるが共通的な点を中心に)。

④ その時には気づかなかったが、後で考えると アレではないかという変化のポイントのようなものはありますか。

例：自分の死んだ後のことを急に話したり、昔の友人、家族、親戚のことを頻繁に話したり等、身体機能が低下した変化の象徴となるような出来事をお話してください。

⑤ その他

* 移行期を早期に発見するうえで、気になることが何かあればお知らせください。

(2). 調査結果（ポイントの抽出）

財団法人日本老人福祉財団の浜松〈ゆうゆうの里〉、湯河原〈ゆうゆうの里〉、佐倉〈ゆうゆうの里〉の3施設において、各施設職員に対するグループインタビューを実施し、その発言の中から、自立から要支援期、要支援期から要介護期への変化を気づくポイントを整理し、全体で170の項目を抽出した。

指標の利用者は、職員となるため、職員の発言をできるだけ活かした形で整理している。

発言を整理すると、まず全体的な変化に関することとして、生活のリズムに関する変化というポイントが挙げられた。

また、個別具体的な生活動作、家事等において、細かな気づきのポイントを収集した。特に、食事、歩行、外出、コミュニケーション、整容といった項目で、多くポイントを抽出し、ICFの分類等を参考としつつ、整理を行った。

これらの項目は、職員が日々の業務の中の入居者と継続して関わるなかで、その変化を捉えたものであることに特徴がある。一度見ただけでは、気づきにくいような変化も捉えられていると同時に、外部からの観察で発見しやすい項目を含んでいると考えられる。

具体的には、以下の表の通りである。

1 生活全般での変化の気づきのポイント（今までと違うという、どこか違和感を感じるポイント）

1-1生活リズム	1-1-1生活リズム(サイクル、スケジュール)の乱れが見られる(単発でない繰り返し見られる乱れ)
	1-1-2生活リズム(サイクル、スケジュール)が崩れる(一日の生活が自分で創り上げられない)
1-2こだわり	1-2-1こだわりがなくなる 気にしなくなる
	1-2-2 こだわりが多くなる
1-3その他全般的变化	1-3-1今まで自立生活をしていた人が、何かと頼り始める
	1-3-2今までやっていたことをやらなくなる
	1-3-3いままでやらなかったことを、強くこだわりをもちやるようになった
	1-3-4行動範囲が狭くなる
	1-3-5同じ事を繰り返す

2 基本動作に関する変化の気づきのポイント

2-1眠る	2-1-1就寝儀式がなくなる	
	2-1-2就寝儀式が増える	
2-2食べる	2-2-1量が変わる(減る)	
	2-2-2ペースが変わる	
	2-2-3食事の合図(チャイム)の誤作動があっても、そのことに気づかず食堂にやってくる	
	2-2-4食事のキャンセルが増える	
	2-2-5食事時刻の不安定化(食事の時刻、いつも早い人が来ない。)	
	2-2-6食事パターン(食堂に来る頻度の変化)	
	2-2-7食事行動の変化	2-2-7-1好きなものだけを食べる
		2-2-7-2固いものを食べず食べやすいものだけを食べる
		2-2-7-3好みが変わる(いつもパン食の方が和食にならぶ、肉を食べた方が食べなくなる、魚がくさいから嫌いなどと言って食べなくなる)
		2-2-7-4(好みの変化というわけではなく、)今までと違う食べ方をする(パンに醤油をかける など)
	2-2-8むせ込むことが多くなる	
	2-2-9食べたことがわからなくなる	
	2-2-10食事時の居眠り	
	2-2-11入れ歯が合わなくなってくる	
	2-2-12食べこぼしが目立つ	
2-2-13膳を持てなくなる		
2-2-14食堂で自分の席がわからなくなる。		
2-2-15食堂で配膳を間違える		
2-3排泄する	2-3-1トイレに間に合わなくなる。	
	2-3-2失禁に気づかなくなる。(尿意に鈍感になる。)	
	2-3-3トイレができなくなる(便座に座ることができなくなる)	
	2-3-4ポータブルトイレが使えなくなる	
	2-3-5尿漏れを頻繁におこす	

2-4移動する(歩行等)	2-4-1歩行状態	2-4-1-1立ち話中に直ぐに手すりにつかまる
		2-4-1-2壁伝いに歩く
		2-4-1-3物につかまる
		2-4-1-4歩く速さ(ゆっくりになる)
		2-4-1-5足の出、あげ方の変化(歩幅が狭くなる 引きずる)
		2-4-1-6足音の変化
		2-4-1-7傾く ふらつき
		2-4-1-8階段を怖がる(嫌がる)
		2-4-1-9杖を使うようになる
	2-4-2転倒	2-4-2-1顔などのアザ、擦り傷などから
		2-4-2-2転倒事故の間隔が短い(対策を考える前にまた転んでしまう。)
		2-4-2-3振り向くときにふらつき、転倒。立位保持が難しい そのことに自分で気づかない
		2-4-2-4自宅内での転倒が増える アザが出来ている
	2-4-3移動の途中の居眠り	
2-5外出	2-5-1閉じこもりがちになる。	
	2-5-2部屋にいられなくなる頻回に部屋の外に出てくる	
	2-5-3外出をしなくなり、ダイルーム等で過ごす	
	2-5-4迷子になる	
	2-5-5ウロウロしている。	
	2-5-6夜間に歩く	
	2-5-7いつもと違う時間帯(ふつうなら、ないような生活時間帯)に隣人に会いに行く	
	2-5-8外出先で忘れ物をしてきて、そのことに連絡があるまで気がつかないことが複数回みられるようになる	
2-6バーバルコミュニケーション(話す・会話する)	2-6-1声の質が変わる(電話の声のトーンが今までと違う。)	
	2-6-2発言に覇気がない。(攻撃的であった方が穏やかになる。淡々と話す)	
	2-6-3発言内容の変化	2-6-3-1「わからなくなっちゃった」という言葉がでる
		2-6-3-2同じ会話を繰り返す
		2-6-3-3お金がなくなった、あるのか といった不安を訴える (まず お金の心配が先にでる。)
		2-6-3-4住んでいていいのか 「追い出さないでほしい」と訴える
2-6-4発言の減少		
2-6-5こちらの挨拶に対する返事の仕方がいつもと違う		
2-7ノンバーバルコミュニケーション(意思の表出)	2-7-1表情	2-7-1-1表情が乏しくなる
		2-7-1-2陰しい顔になっている 眉間にシワがよっている
		2-7-1-3不安な表情(目が動く、泳ぐ これでもいいのか?という表情と動き)
	2-7-2意欲・気分	2-7-2-1気分の落ち込みが大きくなる
		2-7-2-2弱気になってくる
		2-7-2-3攻撃的になってくる
2-7-2-4急に怒り出すようになる(男性)		
2-7-2-5できないことを出来るだけ隠すようになる(女性)		
2-8入浴	2-8-1体臭がする:油のような臭(入浴していない、入浴が億劫になっている)	
	2-8-2衣類を間違える。	
	2-8-3衣服や靴を着用する。	
	2-8-4履物を間違える。	
	2-8-5どこに服を入れたかわからない。	
	2-8-6洗えない。石鹸を付けたまま入浴する。	
	2-8-7便汚染。	
	2-8-8入浴の準備ができない(タオルだけ持参し、タオルを忘れる)	
	2-8-9入浴介助が必要になる	
2-9整容	2-9-1髪・髭の整容ができていない	2-9-1-1乱れ 伸び放題
		2-9-1-2白髪が目立つ(髪を染めない)
		2-9-1-3かつらがズレている
		2-9-1-4無精髭
		2-9-1-5頻回に頬・顎に傷をみかけるようになった
		2-9-1-6美容院(床屋)に行く感覚がなくなる
	2-9-2爪が伸びている(特に足指)	

	2-9-3歯の汚れ(入れ歯の管理ができていない)
	2-9-4口臭が強くなる
	2-9-5 (女性) 化粧が上手に行かなくなる
	2-9-5-1ファンデーションにムラがある(顔の横が塗れない、隠そうとしたシミが隠せない)
	2-9-5-2口紅が上手く塗れていない
	2-9-5-3化粧していない
2-10更衣	2-10-1-1同じ衣類を続けて着ている。
	2-10-1-2一日中同じ服装 寝間着が着替えられない
	2-10-1-3季節感の無い服装(夏にセーター、真冬に素足)
	2-10-1-4寝間着のような状態
	2-10-1-5服の綻び(ストッキングが切れていても気づかない)
	2-10-1-6衣類の汚れ(男性の場合、革靴やベルトをしていてもズボンが汚れている。)
	2-10-1-7服の乱れ(シャツがズボンから出ている)
	2-10-1-8履物がおかしい(冬場にサンダルなど)
	2-10-1-9衣服に季節感がなくなる
	2-10-2衣類臭がする(汚れの匂い、尿臭)
2-11体調管理	3-8-1自分の体調がわからない 顔色がわるく熱があっても気づかない
2-12服薬管理	2-11-1薬を薬局に取りにいけない。
	2-11-2薬の管理ができない:どこにおいたかわからなくなる。
	2-11-3薬の管理ができない:薬をよく飲み間違える 飲んだかどうか忘れる
	2-11-4薬の管理ができない:勝手に薬を飲まなくなる

3家事に関する変化の気づきのポイント

3-1買い物	3-1-1店のものをもっていってしまう
	3-1-2同じものを何度も購入する
	3-1-3散財する(服などを買いまくる、通販の品物がやたらと届くようになる)
	3-1-4贈り物を同じ所に複数個おくってしまう
	3-1-5買い物に行かなくなる
3-2調理	3-2-1食品の賞味期限管理ができなくなる
	3-2-2食事を作るのが億劫になり、食堂利用に切り替わる
	3-2-3鍋(オーブントースター、電子レンジ)を焦がす
	3-2-4料理の手順がわからなくなる
	3-2-5同じメニューばかり作る
3-3洗濯	3-3-1大きなものは洗濯するが、小さなもの(下着など)は洗濯せず、しまい込む。
	3-3-2洗濯をしなくなる(できなくなる。)
3-4掃除	3-4-1部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない。
	3-4-2部屋の掃除ができない
	3-4-3整頓してあるのに掃除していない
	3-4-4埃のたまっているところがある
	3-4-5トイレが汚い(尿汚染)
	3-4-6トイレの臭い(排泄臭)
	3-4-7部屋の臭い(排泄臭以外)
3-5整理整頓	3-5-1衣服が散らかっている
	3-5-2衣類や寝具(シーツ等)の交換が出来ていない
	3-5-3流し台に洗い物が溜まっている
	3-5-4生ゴミの臭い
	3-5-5室内に臭いがあり、コバエなどがみられる。
	3-5-6身の回りの整理を始める(迷惑を掛けたくないという発言が増え、タンスの中を整理し始める)
	3-5-7新聞を読まずに積んだまま
	3-5-8書類の整理ができない
3-6物品管理	3-6-1仏壇などの管理をしなくなる(閉じっぱなし。あるいは開けっ放しで埃が溜まっている。など)
	3-6-2造花を利用していても、季節に合わない造花のままになっている
	3-6-3書類が並べてある(忘れてはいけないという観念か)
	3-6-4書類に多くのメモ書きがある。

	3-6-5印鑑や保証証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない
	3-6-6どこに物を置いておくかといったこだわりがなくなる(歯ブラシはここ、コップはここといったもの)
3-7金銭管理	3-7-1買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう
	3-7-2お金の管理ができない
3-9スケジュール管理	3-9-1曜日、時間を気にしなくなる
	3-9-2約束を忘れる(行事など)
	3-9-3カレンダーに経過日を記録する×印が付けられなくなる(日時がわからない)

4物の操作・運転に関する変化の気づきのポイント

4-1自動車運転 (特に男性自動車運転へのこだわり)	4-1-1自動車の傷、ぶつけた跡
	4-1-2駐車場への駐車が困難 斜めになっている。
	4-1-3車の鍵が開けられない。
	4-1-4運転して道に迷う
	4-1-5何度も車の鍵をなくす。
4-2電話	4-2-1電話の操作がわからなくなる(ゼロ発進ができない。壊れたと発言する。)
	4-2-2(家族への)電話が頻回になる
4-3その他	4-3-1電気器具のつけっぱなしがある
	4-3-2照明のつけっぱなしがある
	4-3-3居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある(例えば、ティッシュを横から開けている。)
	4-3-4照明を点けない(電球が切れていてもそのまま)
	4-3-5カーテンを開けない(部屋が暗くてもそのまま)
	4-3-6漏水を起こす(頻回)使用方法がわからなくなるというのではなく、していることを忘れる
	4-3-7火災報知機を鳴らしてしまう(頻回)使用方法がわからなくなるというのではなく、していることを忘れる
	4-3-8緊急コールが頻回になる
	4-3-9緊急コールを自分で押せなくなってくる
	4-3-10記入用紙への記入ができなくなる(例えば、食事申し込みを何度も間違える)。

5人間関係に関する変化の気づきのポイント

5-1人間関係	5-1-1家族を煙たがる	
	5-1-2食堂で食事を一人で食べるようになる	
	5-1-31対1の会話が続くものの、複数の仲間の中に入れなくなる	
	5-1-4被害妄想がある(些細なことが他人のせいになる)	5-1-4-1異音がする。音がうるさい
		5-1-4-2物取られ妄想(メガネ、鍵 がなくなる。自分が別な場所においたのを勘違い理解できず盗られたと認識 お菓子がなくなったという場合もある)
		5-1-4-3「誰かに監視されている」と言う。
		5-1-4-4その他の被害妄想がある。

第5項 アンケート調査による気づきポイントの整理

(1). 指標選別のためのアンケート調査の検討

前項で抽出した 170 項目のポイントは、前述のとおり、職員が入居者の変化に気づくポイントを整理したものであり、自立から要支援のポイントだけでなく、要支援から要介護期への気づきのポイントも含んでいる。

また、そのポイントが多くの高齢者に見られるのか、あるいは、その後の経緯に影響しそうなポイントなのかについては、不明確である。

本研究では、この抽出されたポイントについて、日頃、自立から要支援、要介護まで多くの高齢者と継続的に関わっている有料老人ホームの職員、特に、自立期から軽度の要介護期までを担当する職員（生活サービス課職員）100名に対し、アンケート調査を実施し、以下の視点についての各ポイントの評価を尋ねた。

<評価の視点>

- 【観察のタイミング】どのような時期に観察されるようになるか
 - 1 自立から要支援への移行期の初期（最近まで自立だった方に観察される）
 - 2 自立から要支援への移行期中期頃
 - 3 自立から要支援への移行期の後期（そろそろ要支援かもしれないと思う方に観察される）
 - 4 要支援の時期
 - 5 要介護の時期
- 【観察の一般性の有無】多くの方に現れる事（観察することができること）か
 - 1 ほとんどの方に共通して現れるように思う
 - 2 多くの方に共通して現れることだと思う
 - 3 半数程度の方に現れることだと思う
 - 4 少ないが一定程度の方に現れることだと思う
 - 5 ほとんど見たことがない
- 【変化の速度】その後の自立度低下の進み具合はどのようなものか
 - 1 非常に急激に低下していく
 - 2 早く低下していく
 - 3 低下していく
 - 4 ゆっくりと低下する
 - 5 ほとんど低下しない
- 【関係の多さ】他の変化ポイントとどの程度関係しているか
 - 1 多くの他ポイントと関係がある
 - 2 少数の他のポイントと関係がある
 - 3 ほとんど他のポイントと関係しない
- 【発生の要因】なぜ起こるか。関係のあるものはどれか。（MA）
 - A 身体機能
 - B 精神機能
 - C 認知機能
 - D 生活環境

(2). 指標選別のためのアンケート調査の結果

アンケート調査の結果、以下のような内容が明らかになった。

① 観察のタイミングについて

ヒアリングから抽出された気づきのポイントについて、その観察されるタイミングを、職員 100 名に確認した結果、自立から要支援前の時期に観察されるポイントが 42 ポイント、残りの 128 ポイントについては、要支援期あるいは要介護期に観察されることが多いポイントと評価された。（*なお、ここで選択の基準は、職員の回答のうち最多回答の選択肢（最頻値）が 3 以下、かつ、平均値で 3 未満であることとした。（選択肢 1~3 が移行期（自立~要支援期前）に当たる））

【移行期の変化の気づきのポイント】

PT148 駐車場への駐車が困難・斜めになっている
PT147 自動車の傷、ぶつけた跡
PT124 埃のたまっているところがある
PT142 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう
PT164 家族を煙たがる
PT38 歩く速さ（ゆっくりになる）
PT91 ファンデーションにムラがある
PT121 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない
PT165 食堂で食事を一人で食べるようになる
PT57 声の質が変わる
PT137 造花を利用していても、季節に合わない造花のままになっている
PT93 化粧していない
PT83 白髪が目立つ（髪を染めない）
PT92 口紅が上手く塗れていない
PT40 足音の変化
PT58 発言に覇気がない（攻撃的であった方が穏やかになる、淡々と話す）
PT12 量が変わる（減る）
PT13 ペースが変わる
PT138 書類が並べてある（忘れてはいけないという観念か）
PT139 書類に多くのメモ書きがある
PT133 身の回りの整理を始める
PT1 生活リズムの乱れが見られる（単発でない繰り返し見られる乱れ）
PT155 照明のつけっぱなしがある
PT69 弱気になってくる
PT15 食事のキャンセルが増える
PT128 衣服が散らかっている
PT85 無精髭
PT123 整頓してあるのに掃除していない
PT130 流し台に洗い物が溜まっている
PT156 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある
PT154 電気器具のつけっぱなしがある
PT17 食事パターン（食堂に来る頻度の変化）
PT131 生ゴミの臭い
PT5 今まで自立生活をしていた人が、何かと頼り始める
PT134 新聞を読まずに積んだまま
PT140 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない
PT64 こちらの挨拶に対する返事の仕方がいつもと違う
PT135 書類の整理ができない
PT35 立ち話中に直ぐに手すりにつかまる
PT136 仏壇などの管理をしなくなる
PT49 閉じこもりがちになる
PT129 衣類や寝具（シーツ等）の交換が出来ていない

ここでは、本調査の目的である自立から要支援期前まで（移行期）の変化のポイントを指標化していくため、上記の 42 のポイントについて、その特徴を確認することとする。

② 観察の一般性の有無

上記 42 のポイントについて、当該ポイントが一般的に観察されるものかどうかを評価してもらった結果、これら項目のうち、「生活リズムの乱れが見られる」「歩く速さ（ゆっくりになる）」「印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない」等のポイントが、一般的に観察されるものとして評価された。

他方、「家族を煙たがる」「声の質が変わる」といったポイントは、相対的に見て、一般性が低いと評価されていることが分かる。

ただし、移行期を把握する指標として考えた場合、一般的に見ることが出来ず一部の方々にはしか観察されない変化であっても、その後の変化の速さや他の項目との関係の多さなどがあれば、重要な指標と考えられるため、一般性の高さだけから指標を選別することはしないようにした。

*表の平均値は、回答選択肢番号を平均したものであり、この値が低い方が、一般性が高いと評価されていることを示す。

POINT	平均値
PT1 生活リズムの乱れが見られる（単発でない繰り返し見られる乱れ）	2.2268
PT38 歩く速さ（ゆっくりになる）	2.2424
PT140 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	2.5758
PT124 埃のたまっているところがある	2.6186
PT35 立ち話中に直ぐに手すりにつかまる	2.6327
PT69 弱気になってくる	2.7263
PT135 書類の整理ができない	2.7755
PT155 照明のつけっぱなしがある	2.8021
PT129 衣類や寝具（シーツ等）の交換が出来ていない	2.8367
PT154 電気器具のつけっぱなしがある	2.8632
PT12 量が変わる（減る）	2.8776
PT5 今まで自立生活をしていた人が、何かと頼り始める	2.8854
PT13 ペースが変わる	2.8980
PT128 衣服が散らかっている	2.9175
PT130 流し台に洗い物が溜まっている	2.9184
PT83 白髪が目立つ（髪を染めない）	2.9394
PT40 足音の変化	2.9592
PT136 仏壇などの管理をしなくなる	3.0303
PT131 生ゴミの臭い	3.0306
PT121 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない	3.0521
PT49 閉じこもりがちになる	3.0800
PT139 書類に多くのメモ書きがある	3.0909
PT93 化粧していない	3.1020
PT85 無精髭	3.1111
PT134 新聞を読まずに積んだまま	3.1122
PT123 整頓してあるのに掃除していない	3.1443
PT142 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	3.1633
PT138 書類が並べてある（忘れてはいけないという観念か）	3.1919
PT92 口紅が上手く塗れていない	3.2929
PT133 身の回りの整理を始める	3.2959
PT148 駐車場への駐車が困難・斜めになっている	3.3158
PT91 ファンデーションにムラがある	3.3232
PT137 造花を利用していても、季節に合わない造花のままになっている	3.3232
PT17 食事パターン（食堂に来る頻度の変化）	3.3333
PT147 自動車の傷、ぶつけた跡	3.4063
PT64 こちらの挨拶に対する返事の仕方がいつもと違う	3.4330
PT15 食事のキャンセルが増える	3.4536
PT58 発言に覇気がない（攻撃的であった方が穏やかになる、淡々と話す）	3.4694
PT156 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある	3.5217
PT165 食堂で食事を一人で食べるようになる	3.6495
PT57 声の質が変わる	3.7010
PT164 家族を煙たがる	3.7938

③ 変化の速度

当該ポイントが観察されると、その後自立度の変化がどのようなものとなるか、急速に低下するのか、その後もゆっくりと低下するのかを評価してもらった。

その結果、全体として急激に低下していくというものではないものの「閉じこもりがちになる」「生活リズムの乱れがみられる」「書類の整理ができない」「何かと頼り始める」といったポイントは、これら 42 項目の中では相対的に早めに「低下していく」ポイントとして捉えられている。一方、「声の質が変わる」「足音の変化」「立ち話中に直ぐに手すりにつかまる」「歩く速さ（ゆっくりになる）」「ファンデーションにムラがある」といった項目は、どちらかと言えばゆっくりと低下するポイントとして評価されている。

*表の平均値は、回答選択肢番号を平均したものであり、この値が低い方が、変化の速度が早いと評価されていることを示す。

POINT	平均値
PT49 閉じこもりがちになる	3.0800
PT1 生活リズムの乱れが見られる（単発でない繰り返し見られる乱れ）	3.1856
PT135 書類の整理ができない	3.2347
PT5 今まで自立生活をしてきた人が、何かと頼り始める	3.2474
PT140 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	3.2626
PT129 衣類や寝具（シーツ等）の交換が出来ていない	3.2755
PT130 流し台に洗い物が溜まっている	3.2755
PT131 生ゴミの臭い	3.2784
PT128 衣服が散らかっている	3.2990
PT134 新聞を読まずに積んだまま	3.3061
PT154 電気器具のつけっぱなしがある	3.3404
PT69 弱気になってくる	3.3438
PT17 食事パターン（食堂に来る頻度の変化）	3.3469
PT85 無精髭	3.3939
PT12 量が変わる（減る）	3.4021
PT155 照明のつけっぱなしがある	3.4362
PT123 整頓してあるのに掃除していない	3.4388
PT121 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない	3.4536
PT136 仏壇などの管理をしなくなる	3.4545
PT139 書類に多くのメモ書きがある	3.4646
PT133 身の回りの整理を始める	3.4694
PT13 ペースが変わる	3.4796
PT64 こちらの挨拶に対する返事の仕方がいつもと違う	3.4948
PT138 書類が並べてある（忘れてはいけないという観念か）	3.4949
PT93 化粧していない	3.5102
PT156 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある	3.5269
PT83 白髪が目立つ（髪を染めない）	3.5306
PT15 食事のキャンセルが増える	3.5312
PT124 埃のたまっているところがある	3.5361
PT148 駐車場への駐車が困難・斜めになっている	3.5426
PT137 造花を利用していても、季節に合わない造花のままになっている	3.5510
PT164 家族を煙たがる	3.5567
PT142 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	3.5612
PT58 発言に覇気がない（攻撃的であった方が穏やかになる、淡々と話す）	3.5816
PT165 食堂で食事を一人で食べるようになる	3.5833
PT92 口紅が上手く塗れていない	3.5918
PT147 自動車の傷、ぶつけた跡	3.5957
PT91 ファンデーションにムラがある	3.6122
PT38 歩く速さ（ゆっくりになる）	3.6289
PT35 立ち話中に直ぐに手すりにつかまる	3.6429
PT40 足音の変化	3.6804
PT57 声の質が変わる	3.8247

④ 関係の多さ

42 のポイントについて、これらが他のポイントとどの程度関係しているのか、他のポイントとの関係が多いのか少ないのかで評価をしてもらった。

その結果、「生活リズムの乱れが見られる」「今まで自立生活をしていた人が、何かと頼り始める」といった項目は、相対的に多くのポイントと関係があると評価されており、「口紅が上手く塗れていない」「声の質が変わる」といった項目は、少数のポイントと関係があると評価されている。

*表の平均値は、回答選択肢番号を平均したものであり、この値が低い方が、他の項目と関係が多いと評価されていることを示す。

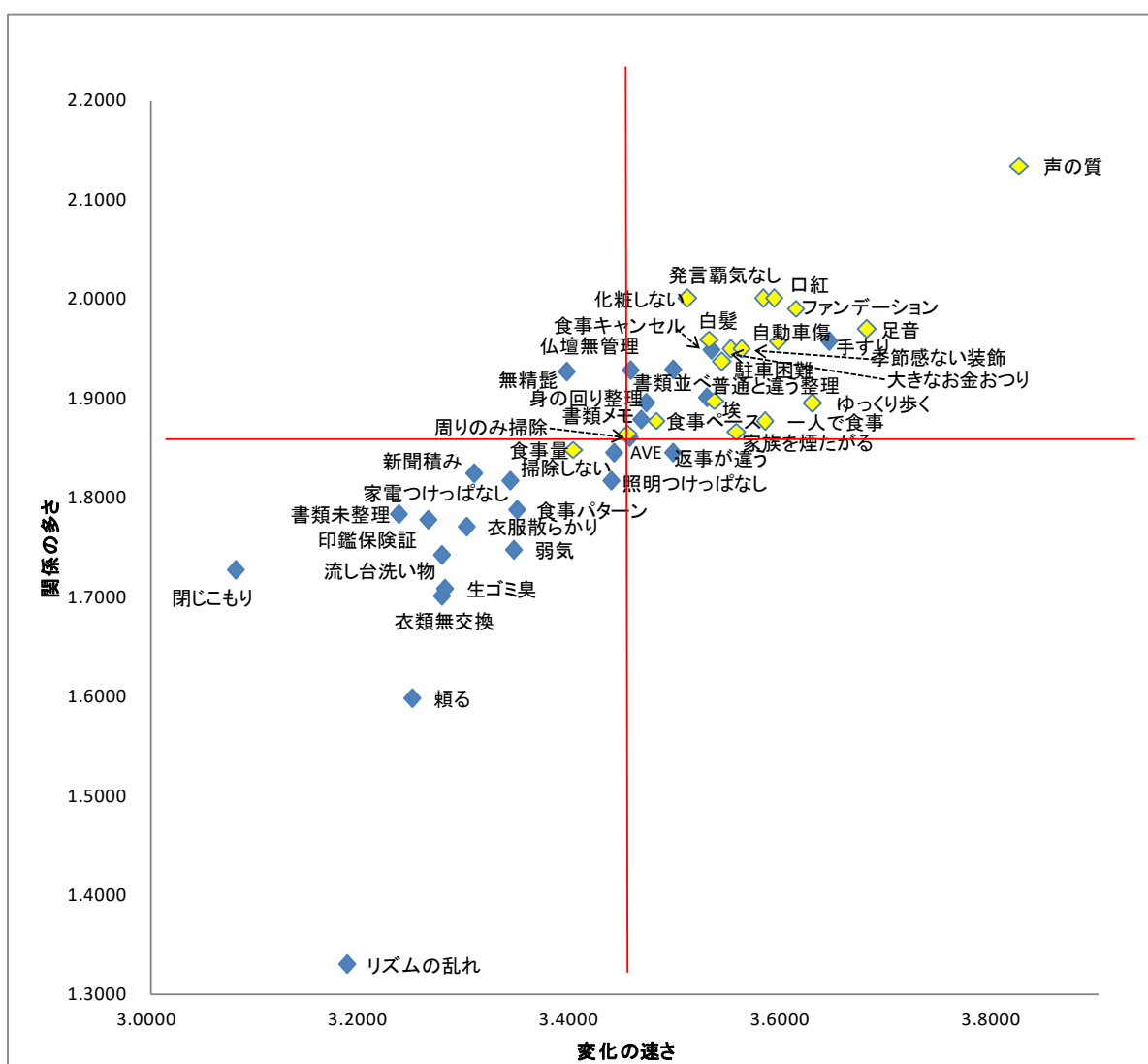
POINT	平均値
PT1 生活リズムの乱れが見られる（単発でない繰り返し見られる乱れ）	1.3299
PT5 今まで自立生活をしてきた人が、何かと頼り始める	1.5979
PT129 衣類や寝具（シーツ等）の交換が出来ていない	1.7010
PT131 生ゴミの臭い	1.7083
PT49 閉じこもりがちになる	1.7273
PT130 流し台に洗い物が溜まっている	1.7423
PT69 弱気になってくる	1.7474
PT128 衣服が散らかっている	1.7708
PT140 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	1.7778
PT135 書類の整理ができない	1.7835
PT17 食事パターン（食堂に来る頻度の変化）	1.7879
PT154 電気器具のつけっぱなしがある	1.8172
PT155 照明のつけっぱなしがある	1.8172
PT134 新聞を読まずに積んだまま	1.8247
PT123 整頓してあるのに掃除していない	1.8454
PT64 こちらの挨拶に対する返事の仕方がいつもと違う	1.8454
PT12 量が変わる（減る）	1.8485
PT121 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない	1.8646
PT164 家族を煙たがる	1.8660
PT165 食堂で食事を一人で食べるようになる	1.8763
PT13 ペースが変わる	1.8776
PT139 書類に多くのメモ書きがある	1.8788
PT38 歩く速さ（ゆっくりになる）	1.8947
PT133 身の回りの整理を始める	1.8958
PT124 埃のたまっているところがある	1.8969
PT156 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある	1.9011
PT85 無精髭	1.9271
PT136 仏壇などの管理をしなくなる	1.9286
PT138 書類が並べてある（忘れてはいけないという観念か）	1.9293
PT148 駐車場への駐車が困難・斜めになっている	1.9362
PT15 食事のキャンセルが増える	1.9490
PT137 造花を利用していても、季節に合わない造花のままになっている	1.9490
PT142 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	1.9490
PT147 自動車の傷、ぶつけた跡	1.9574
PT35 立ち話中に直ぐに手すりにつかまる	1.9579
PT83 白髪が目立つ（髪を染めない）	1.9592
PT40 足音の変化	1.9691
PT91 ファンデーションにムラがある	1.9898
PT93 化粧していない	2.0000
PT58 発言に覇気がない（攻撃的であった方が穏やかになる、淡々と話す）	2.0000
PT92 口紅が上手く塗れていない	2.0000
PT57 声の質が変わる	2.1340

変化の速さを横軸、関係の多さを縦軸として、各項目の平均値でプロットした散布図を作成した。

その結果、「閉じこもりがちになる」「リズムの乱れ」「頼る」といった項目が、変化が早く関係の多い項目であることが分かる。

一方、「声の質」「口紅」「ファンデーション」といった項目は、相対的に変化が遅く、関係も少ない項目として位置づけられていることが分かる。

なお、黄色いプロットは、職員が移行期の中でも、その初期に現れるとされている項目であり、それらは、ほぼ第一象限に集中している。初期に現れるポイントは、相対的にその後の変化は遅く、他の項目との関係が少ないものということができる。



⑤ 発生の要因

42 項目について、それぞれ何が原因となってこうした変化が現れると思うか、身体機能、精神機能、認知機能、生活環境の 4 つに区分して尋ねた。

移行期に現れる変化のポイントとして抽出された 42 項目について、その多くは認知機能の低下によると捉えられていることが分かる。

また、「生活リズムの乱れ」「閉じこもりがちになる」といった項目は「身体機能」「精神機能」「認知機能」の低下が重なりあって発生していると捉えられていると考えられる。

*身体機能、精神機能、認知機能については、職員の回答が 50%を超えるものを赤、生活環境については 40%を超えるものを黄色で表示。

	合計	発生の要因				
		身体機能	精神機能	認知機能	生活環境	無回答
PT1 生活リズムの乱れが見られる（単発でない繰り返し見られる乱れ）	100.0	62.0	69.0	84.0	35.0	5.0
PT5 今まで自立生活をしてきた人が、何かと頼り始める	100.0	70.0	63.0	50.0	41.0	4.0
PT12 食事の量が変わる（減る）	100.0	77.0	44.0	50.0	38.0	1.0
PT13 食事のペースが変わる	100.0	78.0	36.0	64.0	36.0	0.0
PT15 食事のキャンセルが増える	100.0	35.0	44.0	65.0	30.0	3.0
PT17 食事パターン（食堂に来る頻度の変化）	100.0	52.0	51.0	67.0	37.0	1.0
PT35 立ち話中に直ぐに手すりにつかまる	100.0	96.0	15.0	18.0	19.0	3.0
PT38 歩く速さ（ゆっくりになる）	100.0	95.0	19.0	24.0	23.0	3.0
PT40 足音の変化	100.0	96.0	16.0	27.0	14.0	2.0
PT49 閉じこもりがちになる	100.0	59.0	77.0	68.0	40.0	1.0
PT57 声の質が変わる	100.0	49.0	70.0	51.0	17.0	3.0
PT58 発言に覇気がない（攻撃的であった方が穏やかになる、淡々と話す）	100.0	49.0	80.0	67.0	13.0	3.0
PT64 こちらの挨拶に対する返事の仕方がいつもと違う	100.0	27.0	78.0	71.0	14.0	4.0
PT69 弱気になってくる	100.0	45.0	86.0	51.0	21.0	5.0
PT83 白髪が目立つ（髪を染めない）	100.0	45.0	50.0	73.0	26.0	2.0
PT85 無精髭	100.0	51.0	47.0	76.0	32.0	2.0
PT91 ファンデーションにムラがある	100.0	71.0	38.0	69.0	22.0	2.0
PT92 口紅が上手く塗れていない	100.0	73.0	30.0	70.0	18.0	1.0
PT93 化粧していない	100.0	57.0	50.0	69.0	34.0	3.0
PT121 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない	100.0	73.0	48.0	63.0	44.0	4.0
PT123 整頓してあるのに掃除していない	100.0	66.0	49.0	70.0	38.0	3.0
PT124 埃のたまっているところがある	100.0	69.0	39.0	64.0	43.0	4.0
PT128 衣服が散らかっている	100.0	69.0	47.0	76.0	44.0	4.0
PT129 衣類や寝具（シーツ等）の交換が出来ていない	100.0	76.0	38.0	73.0	41.0	3.0
PT130 流し台に洗い物が溜まっている	100.0	73.0	42.0	76.0	39.0	3.0
PT131 生ゴミの臭い	100.0	61.0	41.0	78.0	39.0	4.0
PT133 身の回りの整理を始める	100.0	43.0	57.0	65.0	34.0	4.0
PT134 新聞を読まずに積んだまま	100.0	35.0	60.0	81.0	36.0	3.0
PT135 書類の整理ができない	100.0	48.0	63.0	79.0	36.0	3.0
PT136 仏壇などの管理をしなくなる	100.0	56.0	46.0	80.0	35.0	1.0
PT137 造花を利用していても、季節に合わない造花のままになっている	100.0	32.0	43.0	82.0	31.0	3.0
PT138 書類が並べてある（忘れてはいけないという観念か）	100.0	26.0	58.0	75.0	23.0	2.0
PT139 書類に多くのメモ書きがある	100.0	23.0	56.0	78.0	22.0	1.0
PT140 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	100.0	25.0	44.0	90.0	28.0	1.0
PT142 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	100.0	23.0	44.0	80.0	21.0	2.0
PT147 自動車の傷、ぶつけた跡	100.0	84.0	33.0	61.0	13.0	8.0
PT148 駐車場への駐車が困難・斜めになっている	100.0	82.0	34.0	64.0	9.0	7.0
PT154 電気器具のつけっぱなしがある	100.0	28.0	38.0	75.0	23.0	7.0
PT155 照明のつけっぱなしがある	100.0	26.0	38.0	77.0	25.0	7.0
PT156 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある	100.0	22.0	47.0	75.0	20.0	8.0
PT164 家族を煙たがる	100.0	18.0	80.0	61.0	30.0	3.0
PT165 食堂で食事を一人で食べるようになる	100.0	25.0	78.0	59.0	31.0	3.0

第6項 入居者職員調査による気づきポイントの評価

ここでは、前項までの職員へのグループインタビューから抽出した移行期を捉える指標（ポイント）の案について、実際の入居者に対して使用した場合にどのような反応となるのか、確認する。

入居者と職員それぞれに同様の調査を実施し、職員には、調査対象者となっている入居者の特定の方について、回答してもらうように実施した。

本研究においては、今年度中アンケートを2回実施することにしてはいたが、グループインタビューで抽出された項目数が170項目と多く、1回のアンケート調査で確認するのは非常に負荷が高いと判断したため、項目の中から選別して、パネル調査の利点を活かして、2回に分けて実施することとした。

まず、第一回目のアンケートでは、分類された各項目群から、委員によって代表的と思われる項目を検討し、38の項目を抽出して実施した。

そして、2回目のアンケートでは、前項の職員に対する指標の評価のためのアンケートの結果から、出現の時期が移行期の前期から後期である42の項目（つまり、要支援期、要介護期であると判断されるものでないもの）を抽出して実施した。

指標の妥当性については、より長期的に継続した調査を実施したうえで検討を行わなければわからないため、ここでは、まず、職員の日頃の観察の中で、自立していると判断出来る入居者、移行期に差し掛かりつつあるのではないかと考えられる入居者を選定してもらい、それらの入居者について、指標を用いた場合にどのような反応を示すかを確認し、指標の絞り込みを行うこととする。

ここでは、まず、対象となった入居者の状況について確認し、その後、指標案についての回答状況を確認する。

(1). 調査対象者の状況

今回の調査対象者の属性、生活状況・生活意識は以下のとおりである。

① 性・年齢

- ・今回対象とした入居者は調査対象の3施設それぞれ20名の合計60名である。自立30名、移行期30名で、男性は21名、女性は38名である。

		合計	男性	女性	無回答
全体	N	60	21	38	1
	%	100.0	35.0	63.3	1.7
移行期	N	30	10	19	1
	%	100.0	33.3	63.3	3.3
自立	N	30	11	19	0
	%	100.0	36.7	63.3	0.0

		合計	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
全体	N	60	0	1	7	14	17	20	1
	%	100.0	0.0	1.7	11.7	23.3	28.3	33.3	1.7
移行期	N	30	0	0	0	3	9	17	1
	%	100.0	0.0	0.0	0.0	10.0	30.0	56.7	3.3
自立	N	30	0	1	7	11	8	3	0
	%	100.0	0.0	3.3	23.3	36.7	26.7	10.0	0.0

② 健康状態

- ・健康状態は、自立者は、「良くない」「あまり良くない」とする人は居らず、移行期も健康な人が多い。「良くない」は、「あまり良くない」をあわせて7名である。

		合計	良い	まあ良い	普通	あまり良くない	良くない	無回答
全体	N	60	10	21	22	3	4	0
	%	100.0	16.7	35.0	36.7	5.0	6.7	0.0
移行期	N	30	2	8	13	3	4	0
	%	100.0	6.7	26.7	43.3	10.0	13.3	0.0
自立	N	30	8	13	9	0	0	0
	%	100.0	26.7	43.3	30.0	0.0	0.0	0.0

③ 健康問題の日常生活への影響の有無

- ・健康問題が日常生活に影響するとしているのは、移行期の人で半数の15名、自立では4名である。

		合計	ある	ない	無回答
全体	N	60	19	41	0
	%	100.0	31.7	68.3	0.0
移行期	N	30	15	15	0
	%	100.0	50.0	50.0	0.0
自立	N	30	4	26	0
	%	100.0	13.3	86.7	0.0

④ 日常生活全般についての満足感

- ・自立者は、満足感を持っており、「やや不満である」を含め不満を持つ人はいない。
- ・移行日では、不満を持つ人は、「やや不満である」を含めて5名である。

		合計	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
全体	N	60	21	34	3	2	0
	%	100.0	35.0	56.7	5.0	3.3	0.0
移行期	N	30	7	18	3	2	0
	%	100.0	23.3	60.0	10.0	6.7	0.0
自立	N	30	14	16	0	0	0
	%	100.0	46.7	53.3	0.0	0.0	0.0

⑤ 生きがい

- ・自立者は、30名中20名が生きがいを十分感じており、多くは生きがいを感じている。
- ・移行期の人も、「あまり感じていない」は3名であり、多くは生きがいを感じている。

		合計	十分感じている	多少感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	無回答
全体	N	60	26	27	5	0	2	0
	%	100.0	43.3	45.0	8.3	0.0	3.3	0.0
移行期	N	30	6	19	3	0	2	0
	%	100.0	20.0	63.3	10.0	0.0	6.7	0.0
自立	N	30	20	8	2	0	0	0
	%	100.0	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0

⑥ 近所の人とのつきあい

- ・近所の人との付き合いについては、「付き合いはほとんどない」という人は、殆どいない。
- ・自立者では、「親しく付き合っている」が 18 名と多く、移行期の人では「あいさつする程度」が 19 名となっている。

		合計	親しくつきあっている	あいさつをする程度	付き合いはほとんどない	わからない	無回答
全体	N	60	27	31	1	0	1
	%	100.0	45.0	51.7	1.7	0.0	1.7
移行期	N	30	9	19	1	0	1
	%	100.0	30.0	63.3	3.3	0.0	3.3
自立	N	30	18	12	0	0	0
	%	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0

⑦ 親しい友人・仲間

- ・友人については、「沢山持っている」が自立者には 8 名いるものの、移行期の人にはいない。
- ・移行期の方は、「少しもっている」という人は 13 名と自立者よりも多くなっている。

		合計	沢山もっている	普通	少しもっている	友人・仲間はもっていない	無回答
全体	N	60	8	30	18	4	0
	%	100.0	13.3	50.0	30.0	6.7	0.0
移行期	N	30	0	14	13	3	0
	%	100.0	0.0	46.7	43.3	10.0	0.0
自立	N	30	8	16	5	1	0
	%	100.0	26.7	53.3	16.7	3.3	0.0

⑧ 将来の日常生活全般についての不安感

- ・将来の日常生活全般についての不安感は、「多少不安を感じる」を含めれば、移行期の人だけでなく自立者も不安を感じている人が多い。
- ・ただし、自立者については、不安を感じない人も 12 名いることが分かる。

		合計	とても不安を感じる	多少不安を感じる	不安は感じない	無回答
全体	N	60	4	34	21	1
	%	100.0	6.7	56.7	35.0	1.7
移行期	N	30	4	16	9	1
	%	100.0	13.3	53.3	30.0	3.3
自立	N	30	0	18	12	0
	%	100.0	0.0	60.0	40.0	0.0

⑨ おしゃれについての関心

- ・「ある程度おしゃれをしたい」という人が移行期の人も自立者も過半数を占める。
- ・自立者の場合は、「積極的におしゃれをしたい」というひとも5人いる。

		合計	積極的におしゃれをしたい	ある程度はおしゃれをしたい	あまり関心はない	関心はない	無回答
全体	N	60	6	35	12	7	0
	%	100.0	10.0	58.3	20.0	11.7	0.0
移行期	N	30	1	17	6	6	0
	%	100.0	3.3	56.7	20.0	20.0	0.0
自立	N	30	5	18	6	1	0
	%	100.0	16.7	60.0	20.0	3.3	0.0

⑩ 最近1カ月間の食事回数

- ・自立者、移行期の人ともにほとんど「毎日必ず3食を食べている」としている。

		合計	毎日かならず3食を食べている	週に1～2食、欠食することがある	週に3～6食、欠食することがある	週に7食以上、欠食することがある	無回答
全体	N	60	55	3	0	2	0
	%	100.0	91.7	5.0	0.0	3.3	0.0
移行期	N	30	28	1	0	1	0
	%	100.0	93.3	3.3	0.0	3.3	0.0
自立	N	30	27	2	0	1	0
	%	100.0	90.0	6.7	0.0	3.3	0.0

⑪ 外出頻度

- ・自立者は、「ほとんど毎日」が13名おり、「集に2～3日」以上外出している人がほとんどである。
- ・移行期の人は、外出頻度にバラツキがあり、「月に2日～3日以下」という人も5名いる。

		合計	ほとんど毎日	週に4～5日	週に2～3日	週に1日程度	月に2～3日以下	無回答
全体	N	60	19	12	18	6	5	0
	%	100.0	31.7	20.0	30.0	10.0	8.3	0.0
移行期	N	30	6	6	8	5	5	0
	%	100.0	20.0	20.0	26.7	16.7	16.7	0.0
自立	N	30	13	6	10	1	0	0
	%	100.0	43.3	20.0	33.3	3.3	0.0	0.0

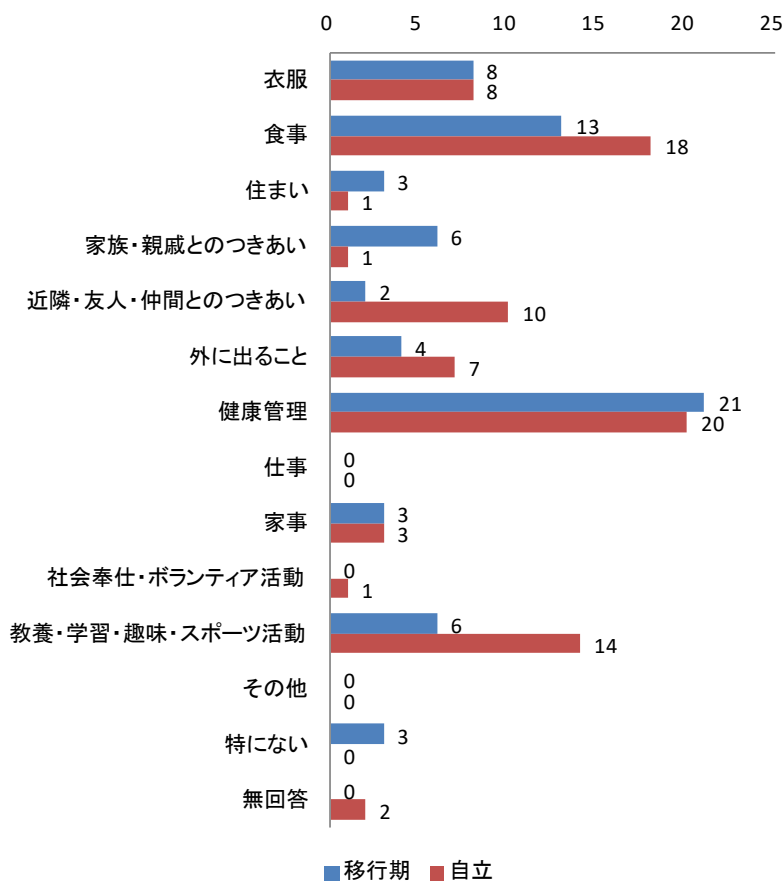
⑫ 外出についての積極性

- ・外出についての積極性については、積極的な方が多く、移行期の人でも「自分から積極的に外出する方である」という方が 17 名と過半数を占めている。一方、「外出することはほとんどない」人も 6 名となっている。

		合計	自分から積極的に外出する方である	家族や他人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である	家族や他人から誘われれば仕方なく外出する方である	家族や他人から誘われても極力外出はしない方である	外出することはほとんどない	無回答
全体	N	60	43	7	3	1	6	0
	%	100.0	71.7	11.7	5.0	1.7	10.0	0.0
移行期	N	30	17	3	3	1	6	0
	%	100.0	56.7	10.0	10.0	3.3	20.0	0.0
自立	N	30	26	4	0	0	0	0
	%	100.0	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0

⑬ 日常生活で特に心がけている点

- ・日常生活で特に心がけている点については、自立者、移行期の人ともに、「健康管理」「食事」について心がけている人が多い。
- ・自立者については、「教養・学習・趣味・スポーツ活動」14名や、「近隣・友人・仲間とのつきあい」10名なども多くなっている。



(2). 第一回調査における指標案の集計結果

① 自立期と移行期の差異の分析

- ・自立者の回答と移行期の人の回答に差が見られる項目は、移行期に移行する際に出現する項目である可能性が高いため、差異の大きな項目を把握することとした。（ここでは、5人以上の差が見られるものを差の大きなものとしている。）
- ・その結果、職員調査では、「行動範囲が狭くなる」「歩く時に頻繁に物につかまる」「歩く速さがゆっくりになった」「足の出やあげ方が今までと違う」「歩いている時にふらつきがある」「階段を怖がる」「閉じこもりがち」「洋服に無頓着になる」「買い物に行かなくなる」「行事などの約束を忘れる」の10項目の差が大きくなっている。

	全体	移行期	自立
合計	60	30	30
生活リズムの乱れが何度も見られる	1	1	0
こだわりがなくなる・気にしなくなる	2	2	0
行動範囲が狭くなる	13	11	2
同じ事を繰り返す	3	2	1
食事のペースが変わる	3	3	0
食べ物の好みが変わる	1	1	0
食事中にむせ込むことが多くなる	1	1	0
食べこぼしが目立つ	2	2	0
歩く時に頻繁に物につかまる	14	14	0
歩く速さがゆっくりになった	17	16	1
足の出やあげ方が今までと違う	13	12	1
歩いている時にふらつきがある	9	9	0
階段を怖がる	11	11	0
閉じこもりがち	6	6	0
外出先で忘れ物をして連絡があるまで気がつかないことが複数回みられる	1	1	0
声の質が今までと違う	1	1	0
同じ会話を繰り返す	6	4	2
表情がとぼしくなる	1	1	0
気分の落ち込みが大きくなる	3	2	1
体臭が強くなる	0	0	0
髪・髭の整容ができていない	1	1	0
口臭が強くなる	0	0	0
化粧が上手く行かなくなる	0	0	0
洋服に無頓着になる	5	5	0
衣類臭がする	2	2	0
薬をよく飲み間違える・飲んだかどうか忘れる	4	4	0
店で同じものを何度も購入する	1	1	0
買い物に行かなくなる	5	5	0
同じメニューの料理ばかり作る	1	1	0
部屋の掃除ができない	6	5	1
流し台に洗い物が溜まっている	1	1	0
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが直ぐに出てこない	4	3	1
買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	2	2	0
行事などの約束を忘れる	5	5	0
駐車場への駐車が困難・斜めになっている	1	1	0
家族への電話が頻回になる	0	0	0
照明を点けない	0	0	0
家族を煙たがる	1	0	1

- 一方、入居者の調査では、「こだわりがなくなった」「行動範囲が狭くなった」「同じ事を繰り返す」「食事中にむせ込むことが多くなった」「食べこぼすことが時々ある」「歩く時に頻繁に物につかまる」「歩く速さがゆっくりになった」「足の出やあげ方が今までと違う」「歩いている時にふらつくことがある」「階段が怖い」「閉じこもりがち」「声の質が今までと違うように感じる」「同じ会話を繰り返す」「表情がとぼしいかもしれない」「気分の落ち込みが大きい」「部屋の掃除が億劫」の16項目の差が大きい。

POINT	全体	移行期	自立
合計	60	30	30
生活リズムが乱れてきた	4	4	0
こだわりがなくなった	24	15	9
行動範囲が狭くなった	32	24	8
同じ事を繰り返す	10	9	1
食事のペースが変わった	7	4	3
食べ物の好みが変わった	6	4	2
食事中にむせ込むことが多くなった	11	9	2
食べこぼすことが時々ある	19	13	6
歩く時に頻繁に物につかまる	20	16	4
歩く速さがゆっくりになった	32	20	12
足の出やあげ方が今までと違う	29	20	9
歩いている時にふらつくことがある	19	14	5
階段が怖い	22	15	7
閉じこもりがち	8	8	0
外出先で忘れ物をして連絡があるまで気がつかないことが何度もある	2	1	1
声の質が今までと違うように感じる	11	9	2
同じ会話を繰り返す	9	7	2
表情がとぼしいかもしれない	8	7	1
気分の落ち込みが大きい	7	7	0
体臭が強くなった気がする	3	2	1
髪・髭を整えるのが億劫	4	4	0
口臭が強くなった気がする	5	2	3
化粧が上手く行かない	4	2	2
洋服に無頓着になった	7	5	2
薬をよく飲み間違える・飲んだかどうか忘れる	4	3	1
店で同じものを何度も購入してしまった	1	1	0
買い物に行かなくなる	8	8	0
同じメニューの料理ばかり作る	3	1	2
部屋の掃除が億劫	33	21	12
流し台に洗い物が溜まっている	2	2	0
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが直ぐに出てこない	3	2	1
買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	9	5	4
行事などの約束を忘れる	2	2	0
駐車場への駐車が困難に感じられる	1	1	0
家族に頻繁に電話をする	10	5	5
照明を点けずに過ごすことがある	2	2	0
家族と合うのが嫌になってきた	0	0	0

② 入居者調査と職員調査の比較の分析

- ・入居者調査と職員調査の結果を見ると、以下の項目で、共通して、自立期と移行期の差異が大きくなっている。

行動範囲が狭くなる
歩く時に頻繁に物につかまる
歩く速度がゆっくりになった
足の出やあげ方が今までと違う
歩いている時にふらつきがある
階段を怖がる
閉じこもりがち

- ・また、職員調査と比べて、入居者調査の回答が多く、その回答の差が大きい項目については、職員が気づきにくいものの、本人が変化を感じやすいものとも考えられるため、その項目をみると、以下の緑色の項目となった。
- ・①の移行期に増加する項目に加えて、「口臭が強くなった気がする」「買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう」「家族に頻繁に電話をする」の3項目が入居者と職員の差の大きな項目として挙げられる。（表中、☆印のある項目）

入居者回答数と職員回答数の差

	全体	移行期	自立
生活リズムが乱れてきた	3	3	0
こだわりがなくなった	22	13	9
行動範囲が狭くなった	19	13	6
同じ事を繰り返す	7	7	0
食事のペースが変わった	4	1	3
食べ物の好みが変わった	5	3	2
食事中にむせ込むことが多くなった	10	8	2
食べこぼすことが時々ある	17	11	6
歩く時に頻繁に物につかまる	6	2	4
歩く速さがゆっくりになった	15	4	11
足の出やあげ方が今までと違う	16	8	8
歩いている時にふらつくことがある	10	5	5
階段が怖い	11	4	7
閉じこもりがち	2	2	0
外出先で忘れ物をして連絡があるまで気がつかないことが何度もある	1	0	1
声の質が今までと違うように感じる	10	8	2
同じ会話を繰り返す	3	3	0
表情がとぼしいかもしれない	7	6	1
気分の落ち込みが大きい	4	5	-1
体臭が強くなった気がする	3	2	1
髪・髭を整えるのが億劫	3	3	0
口臭が強くなった気がする☆	5	2	3
化粧が上手く行かない	4	2	2
洋服に無頓着になった	2	0	2
	-2	-2	0
薬をよく飲み間違える・飲んだかどうか忘れる	0	-1	1
店で同じものを何度も購入してしまった	0	0	0
買い物に行かなくなる	3	3	0
同じメニューの料理ばかり作る	2	0	2
部屋の掃除が億劫	27	16	11
流し台に洗い物が溜まっている	1	1	0
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが直ぐに出てこない	-1	-1	0
買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう☆	7	3	4
行事などの約束を忘れる	-3	-3	0
駐車場への駐車が困難に感じられる	0	0	0
家族に頻繁に電話をする☆	10	5	5
照明を点けずに過ごすことがある	2	2	0
家族と合うのが嫌になってきた	-1	0	-1

(3). 第二回調査における指標案の集計結果

① 自立期と移行期の差異の分析

- 自立者の回答と移行期の人の回答に差が見られる項目は、移行期に移行する際に出現する項目である可能性が高いため、差異の大きな項目を把握することとした。（ここでは、5人以上の差が見られるものを差の大きなものとしている。）
- その結果、職員調査では、「立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった」「歩く速さがゆっくりになった」「閉じこもりがちになっている」「弱気になってきた」「自分の居場所の周りしか掃除しない」「埃のたまっているところがある」の6項目の差が大きくなっている。

	全体	移行期	自立
合計	60	30	30
生活リズムが乱れてきた	1	1	0
今まで自立生活をしていたのに、何かと頼り始めた	6	4	2
食事の量が変わった（減った）	4	4	0
食事のペースが変わった	3	3	0
食事のキャンセルが増えた	1	1	0
食事パターン（食堂に来る頻度）が変わった	3	2	1
立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	11	10	1
歩く速さがゆっくりになった	17	13	4
足音が変わってきた	4	4	0
閉じこもりがちになっている	7	7	0
声の質が今までと違うように感じる	0	0	0
発言に覇気がない	4	3	1
こちらの挨拶に対する返事の仕方が今までと違ってきた	0	0	0
弱気になってきた	6	6	0
白髪が目立つ	15	8	7
無精髭がある	2	2	0
ファンデーションにムラがある	0	0	0
口紅が上手く塗れていない	1	1	0
化粧していない	11	7	4
自分の居場所の周りしか掃除しない	8	7	1
整頓はするものの掃除はしていない	2	2	0
埃のたまっているところがある	8	7	1
衣服が散らかっている	3	3	0
衣類や寝具の交換が出来ていない	3	3	0
流し台に洗い物が溜まっている	2	2	0
室内に生ゴミの臭いがする	0	0	0
身の回りの整理を始めた	3	3	0
新聞を読まずに積んだままになっている	1	1	0
書類の整理ができなくなってきた	1	1	0
仏壇などの管理をしなくなってきた	0	0	0
季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	4	4	0
書類が並べてある	3	2	1
書類に多くのメモ書きがある	4	2	2
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	1	1	0
買物の時、額の大きなお金を出して釣りをもらう	2	2	0
自動車に傷やぶつけた跡がある	3	0	3
駐車場への駐車が困難・斜めになっている	4	1	3
電気器具のつけっぱなしがある	1	1	0
照明のつけっぱなしがある	1	1	0
居室内はきれいに整理されているが、1箇所だけ普通と異なるところがある	1	1	0
家族を煙たがる	2	1	1
食堂で食事を一人で食べるようになった	1	0	1

- 一方、入居者の調査では、「最近は何かと頼ることが多くなってきた」「立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった」「自分の足音が変わってきたように思う」「閉じこもりがちになっている」「弱気になってきた」「自分の居場所の周りしか掃除しない」「整頓はするものの掃除はしていない」「衣類や寝具の交換が出来ていない」「書類の整理が面倒になってきた」「季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった」の10項目の差が大きい。

	全体	移行期	自立
合計	60	30	30
生活リズムが乱れてきた	4	3	1
最近は何かと頼ることが多くなってきた	12	10	2
食事の量が変わった(減った)	13	8	5
食事のペースが変わった	5	3	2
食事のキャンセルが増えた	5	2	3
食事パターン(食堂に行く頻度)が変わった	10	7	3
立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	11	10	1
歩く速さがゆっくりになった	28	15	13
自分の足音が変わってきたように思う	11	8	3
閉じこもりがちになっている	7	6	1
声の質が今までと違うように感じる	5	2	3
発言に元気・覇気がないと言われるようになった	2	2	0
挨拶されたときに返事するのが面倒に感じるようになってきた	0	0	0
弱気になってきた	11	10	1
髪を染めないようになった	10	6	4
髭を剃るのが面倒に感じる	4	4	0
ファンデーションが上手く塗れない	1	0	1
口紅が上手く塗れない	0	0	0
化粧が億劫	11	7	4
自分の居場所の周りしか掃除しない	15	11	4
整頓はするものの掃除はしていない	16	13	3
埃のたまっているところがある	26	15	11
衣服が散らかっている	7	4	3
衣類や寝具の交換が出来ていない	5	5	0
流し台に洗い物が溜まっている	3	3	0
生ゴミなど捨てるのを忘れて、たまってしまうことがある	0	0	0
新聞を読まずに積んだままになっている	2	2	0
書類の整理が面倒になってきた	18	14	4
仏壇などの管理が大変になってきた	6	5	1
季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	13	12	1
忘れないように書類を並べている	27	12	15
書類に多くのメモ書きをしている	24	10	14
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	3	3	0
買物の時、額の大きなお金を出して釣りをもらう	9	6	3
自動車に傷やぶつけた跡がある	4	1	3
自動車を駐車場に駐車するのが、大変になってきた	2	2	0
電気器具をつけっぱなしにしてしまうことが時々ある	2	2	0
照明をつけっぱなしにしてしまうことが時々ある	10	6	4
家族と合うのが嫌になってきた	1	1	0
食堂で食事を一人で食べるようになった	6	3	3

② 入居者調査と職員調査の差異の分析

- ・第二回目の入居者調査と職員調査の結果を見ると、以下の項目で、共通して、自立期と移行期の差異が大きくなっている。

立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった
閉じこもりがちになっている
弱気になってきた
自分の居場所の周りしか掃除しない

- ・また、職員調査と比べて、入居者調査の回答が多く、その回答の差が大きい項目については、職員が気づきにくいものの、本人が変化を感じやすいものとも考えられるため、その項目をみると、以下の緑色の項目となった。
- ・前述の①の移行期に増加する項目に加えて、「食事の量が変わった（減った）」「食事パターン（食堂に行く頻度）が変わった」「声の質が今までと違うように感じる」「仏壇などの管理が大変になってきた」「忘れないように書類を並べている」「書類に多くのメモ書きをしている」「買物の時、額の大きなお金を出して釣りをもらう」「照明をつけっぱなしにしてしまうことが時々ある」「食堂で食事を一人で食べるようになった」の9項目が入居者と職員の差の大きな項目でとなっている。（表中、☆印の項目）

入居者回答数と職員回答数の差

	全体	移行期	自立
合計	60	30	30
生活リズムが乱れてきた	4	3	1
最近は何かと頼ることが多くなってきた	12	10	2
食事の量が変わった（減った）☆	13	8	5
食事のペースが変わった	5	3	2
食事のキャンセルが増えた	5	2	3
食事パターン（食堂に行く頻度）が変わった☆	10	7	3
立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	11	10	1
歩く速さがゆっくりになった	28	15	13
自分の足音が変わってきたように思う	11	8	3
閉じこもりがちになっている	7	6	1
声の質が今までと違うように感じる☆	5	2	3
発言に元気・覇気がないと言われるようになった	2	2	0
挨拶されたときに返事するのが面倒に感じるようになってきた	0	0	0
弱気になってきた	11	10	1
髪を染めないようになった	10	6	4
髭を剃るのが面倒に感じる	4	4	0
ファンデーションが上手く塗れない	1	0	1
口紅が上手く塗れない	0	0	0
化粧が億劫	11	7	4
自分の居場所の周りしか掃除しない	15	11	4
整頓はするものの掃除はしていない	16	13	3
埃のたまっているところがある	26	15	11
衣服が散らかっている	7	4	3
衣類や寝具の交換が出来ていない	5	5	0
流し台に洗い物が溜まっている	3	3	0
生ゴミなど捨てるのを忘れて、たまってしまうことがある	0	0	0
新聞を読まずに積んだままになっている	2	2	0
書類の整理が面倒になってきた	18	14	4
仏壇などの管理が大変になってきた☆	6	5	1
季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	13	12	1
忘れないように書類を並べている☆	27	12	15
書類に多くのメモ書きをしている☆	24	10	14
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	3	3	0
買物の時、額の大きなお金を出して釣りをもらう☆	9	6	3
自動車に傷やぶつけた跡がある	4	1	3
自動車を駐車場に駐車するのが、大変になってきた	2	2	0
電気器具をつけっぱなしにしてしまふことが時々ある	2	2	0
照明をつけっぱなしにしてしまうことが時々ある☆	10	6	4
家族と合うのが嫌になってきた	1	1	0
食堂で食事を一人で食べるようになった☆	6	3	3

(4). 入居者調査と職員調査の分析結果からの指標候補項目の抽出

- ・ 1回目 2回目の入居者と職員に対する調査において、自立者と移行期の人の反応に差がある項目と、入居者調査と職員調査で入居者の反応が高く職員調査での反応が低い項目を整理した結果、以下のような項目を指標候補項目群として抽出することができた。

【指標候補項目】

1回目からの項目	
2	こだわりがなくなる・気にしなくなる
3	行動範囲が狭くなる
4	同じ事を繰り返す
6	食べ物の好みが変わる
7	食事中にむせ込むことが多くなる
8	食べこぼしが目立つ
9	歩く時に頻繁に物につかまる
10	歩く速さがゆっくりになった
11	足の出やあげ方が今までと違う
12	歩いている時にふらつきがある
13	階段を怖がる
16	声の質が今までと違う
17	同じ会話を繰り返す
18	表情がとぼしくなる
19	気分の落ち込みが大きくなる
24	洋服に無頓着になる
28	買い物に行かなくなる
30	部屋の掃除ができない
33	買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう
34	行事などの約束を忘れる
36	家族への電話が頻回になる

2回目からの項目	
2	今まで自立生活をしていたのに何かと頼り始めた
3	食事の量が変わった(減った)
6	食事パターン(食堂に来る頻度)が変わった
7	立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった
9	足音が変わってきた
10	閉じこもりがちになっている
14	弱気になってきた
15	白髪が目立つ
19	化粧していない
20	自分の居場所の周りしか掃除しない
21	整頓はするものの掃除はしていない
22	埃のたまっているところがある
24	衣類や寝具の交換が出来ていない
29	書類の整理ができなくなってきた
30	仏壇などの管理をしなくなってきた
31	季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった
32	書類が並べてある
33	書類に多くのメモ書きがある
39	照明のつけっぱなしがある
42	食堂で食事を一人で食べるようになった

- ・ 表中の番号は、職員向け調査における項目番号である。

(5). 最適尺度法と二項ロジスティック法による分析

ここでは、前述の指標候補の 41 項目を用いて、その項目群の構造を把握し、さらに自立から移行期への変化を示す指標としての有効性について評価を試みることにする。

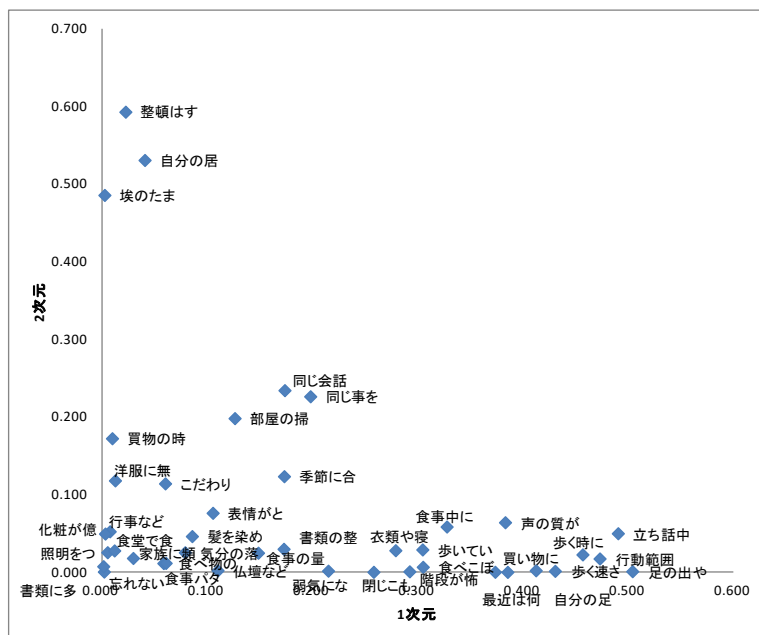
① 最適尺度法（多重コレスポネンス分析）による構造の把握

- ・入居者と職員それぞれ、上記の 41 項目について、最適尺度法により構造化を試みた。
- ・その結果、下のような判別測定結果となった。
- ・入居者については、第一次元は、「足の出やあげ方が今までと違う」「立ち話中にすぐに手すりにつかまるようになった」等、身体機能に関する変化の項目の数値が高くなっている。
- ・第二次元は、「自分の居場所の周りしか掃除しない」「整頓はするものの掃除はしていない」など精神面の意欲の低下、あるいは、「同じ事を繰り返す」「同じ会話を繰り返す」など認知面の項目の数値が高い。以下、第三次元、第四次元なども精神面、認知面の変化と考えられる項目の数値がたかくなっている。
- ・一方、職員についても第一次元は、「歩いている時にふらつきがある」「食事の量が変わった（減った）」「食べこぼしが目立つ」「足の出やあげ方が今までと違う」など身体機能面に関する変化の項目の数値が高くなっている。
- ・第二次元は、「洋服に無頓着になる」「整頓はするものの掃除はしていない」「衣類や寝具の交換が出来ていない」など意欲の低下を示すような精神面に関する項目の数値が高い。

【入居者調査についての分析】

項目	1次元	2次元	3次元	4次元	5次元	6次元	7次元	8次元
1 こだわりがなくなった	0.059	0.114	0.002	0.005	0.000	0.000	0.056	0.027
2 行動範囲が狭くなった	0.472	0.017	0.041	0.000	0.126	0.001	0.016	0.010
3 同じ事を繰り返す	0.197	0.227	0.005	0.074	0.001	0.006	0.142	0.023
4 食べ物の好みが変わった	0.057	0.011	0.032	0.049	0.071	0.114	0.255	0.032
5 食事中にむせ込むことが多くなった	0.327	0.059	0.052	0.009	0.033	0.129	0.043	0.004
6 食べこぼすことが時々ある	0.304	0.007	0.083	0.011	0.046	0.001	0.105	0.035
7 歩く時に頻繁に物につかまる	0.456	0.023	0.038	0.020	0.001	0.003	0.000	0.012
8 歩く速さがゆっくりになった	0.430	0.001	0.126	0.020	0.029	0.034	0.018	0.000
9 足の出や拳げ方が今までと違う	0.503	0.001	0.003	0.023	0.012	0.188	0.014	0.006
10 歩いている時にふらつくことがある	0.304	0.029	0.027	0.047	0.001	0.038	0.009	0.002
11 階段が怖い	0.291	0.001	0.083	0.154	0.028	0.069	0.000	0.074
12 声の質が今までと違うように感じる	0.382	0.064	0.047	0.010	0.007	0.019	0.077	0.001
13 同じ会話を繰り返す	0.173	0.234	0.070	0.095	0.000	0.014	0.156	0.021
14 表情がとぼしいかもしれない	0.104	0.076	0.098	0.030	0.231	0.008	0.000	0.029
15 気分の落ち込みが大きい	0.078	0.025	0.010	0.206	0.084	0.140	0.030	0.174
16 洋服に無頓着になった	0.011	0.118	0.292	0.003	0.020	0.065	0.000	0.039
17 買い物に行かなくなった	0.373	0.000	0.007	0.001	0.000	0.010	0.013	0.100
18 部屋の掃除が億劫	0.125	0.198	0.070	0.010	0.133	0.064	0.035	0.002
19 買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	0.008	0.172	0.080	0.047	0.126	0.046	0.001	0.010
20 行事などの約束を忘れる	0.006	0.052	0.013	0.123	0.319	0.058	0.028	0.009
21 家族に頻繁に電話をする	0.028	0.018	0.196	0.044	0.090	0.039	0.003	0.184
22 最近は何かと頼ることが多くなってきた	0.385	0.000	0.063	0.002	0.264	0.011	0.003	0.006
23 食事の量が変った(減った)	0.147	0.025	0.189	0.074	0.045	0.012	0.013	0.018
24 食事パターン(食堂に行く頻度)が変わった	0.060	0.012	0.187	0.053	0.002	0.028	0.055	0.001
25 立ち話中に直ぐに手すりに捕まるようになった	0.490	0.050	0.000	0.006	0.009	0.000	0.074	0.046
26 自分の足音が変わってきたように思う	0.412	0.002	0.021	0.003	0.122	0.056	0.001	0.023
27 閉じこもりがちになっている	0.257	0.000	0.205	0.083	0.000	0.015	0.002	0.001
28 弱気になってきた	0.214	0.002	0.229	0.019	0.005	0.011	0.038	0.003
29 髪を染めないようになった	0.084	0.046	0.057	0.022	0.153	0.055	0.051	0.000
30 化粧が億劫	0.002	0.049	0.075	0.173	0.001	0.004	0.033	0.332
31 自分の居場所の周りしか掃除しない	0.039	0.531	0.054	0.048	0.001	0.007	0.009	0.019
32 整頓はするものの掃除はしていない	0.021	0.594	0.022	0.125	0.000	0.014	0.002	0.020
33 埃のたまっているところがある	0.001	0.486	0.008	0.000	0.015	0.003	0.012	0.060
34 衣類や寝具の交換が出来ていない	0.278	0.028	0.040	0.045	0.017	0.018	0.105	0.069
35 書類の整理が面倒になってきた	0.172	0.030	0.130	0.110	0.008	0.099	0.023	0.000
36 仏壇などの管理が大変になってきた	0.109	0.002	0.185	0.004	0.053	0.004	0.009	0.085
37 季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	0.172	0.123	0.009	0.121	0.002	0.002	0.097	0.120
38 忘れないように書類を並べている	0.001	0.000	0.016	0.191	0.068	0.143	0.150	0.016
39 書類に多くのメモ書きをしている	0.000	0.007	0.001	0.230	0.081	0.013	0.235	0.046
40 照明をつけっぱなしにしてしまうことが時々ある	0.004	0.025	0.002	0.104	0.000	0.324	0.004	0.009
41 食堂で食事を一人で食べるようになった	0.011	0.028	0.337	0.003	0.036	0.096	0.004	0.030

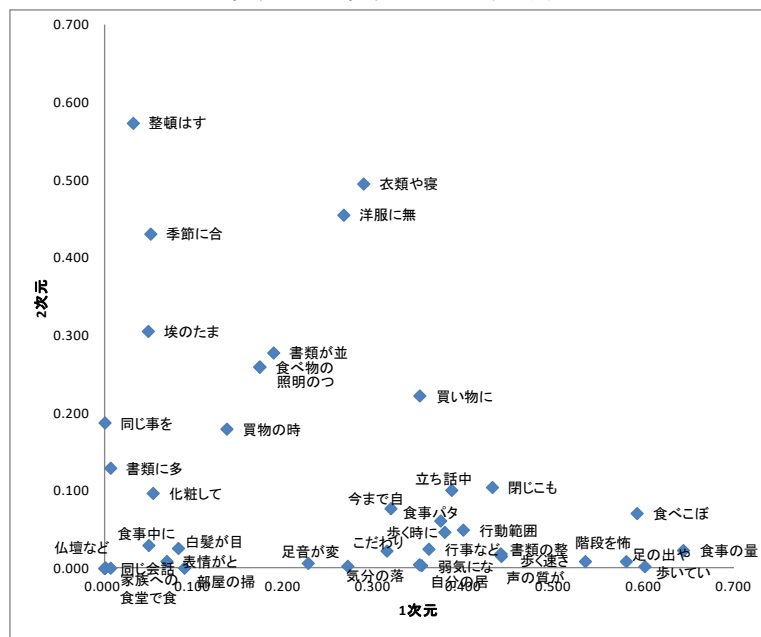
<1次元と2次元による散布図>



【職員調査についての分析】

	1次元	2次元	3次元	4次元	5次元	6次元	7次元	8次元
1 こだわりがなくなる・気にしなくなる	0.314	0.023	0.150	0.038	0.096	0.103	0.017	0.033
2 行動範囲が狭くなる	0.398	0.050	0.061	0.032	0.000	0.045	0.039	0.018
3 同じ事を繰り返す	0.000	0.188	0.001	0.026	0.193	0.013	0.149	0.021
4 食べ物の好みが変わる	0.172	0.260	0.005	0.522	0.005	0.001	0.010	0.005
5 食事中にむせ込むことが多くなる	0.049	0.030	0.246	0.002	0.095	0.098	0.090	0.036
6 食べこぼしが目立つ	0.591	0.071	0.158	0.121	0.002	0.013	0.000	0.019
7 歩く時に頻繁に物につかまる	0.378	0.047	0.116	0.057	0.011	0.006	0.048	0.014
8 歩く速さがゆっくりになった	0.441	0.016	0.116	0.033	0.023	0.056	0.001	0.018
9 足の出や挙げ方が今までと違う	0.580	0.009	0.184	0.030	0.017	0.033	0.002	0.013
10 歩いている時にふらつきがある	0.600	0.002	0.179	0.012	0.000	0.005	0.000	0.054
11 階段を怖がる	0.534	0.009	0.172	0.029	0.000	0.034	0.001	0.076
12 声の質が今までと違う	0.440	0.019	0.398	0.055	0.017	0.016	0.006	0.016
13 同じ会話を繰り返す	0.001	0.001	0.013	0.032	0.384	0.168	0.012	0.019
14 表情がとぼしくなる	0.069	0.009	0.055	0.091	0.498	0.014	0.034	0.006
15 気分の落ち込みが大きくなる	0.270	0.003	0.079	0.121	0.276	0.069	0.008	0.000
16 洋服に無頓着になる	0.266	0.456	0.003	0.014	0.006	0.002	0.052	0.034
17 買い物に行かなくなる	0.350	0.223	0.007	0.000	0.124	0.061	0.060	0.068
18 部屋の掃除ができない	0.089	0.000	0.110	0.004	0.027	0.011	0.139	0.292
19 買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	0.136	0.180	0.004	0.274	0.000	0.042	0.011	0.205
20 行事などの約束を忘れる	0.360	0.025	0.066	0.153	0.014	0.018	0.053	0.056
21 家族への電話が頻回になる	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
22 今まで自立生活をしていたのに、何かと頼り始めた	0.318	0.077	0.038	0.002	0.119	0.001	0.023	0.008
23 食事の量が変わった(減った)	0.643	0.023	0.008	0.006	0.030	0.091	0.056	0.025
24 食事パターン(食堂に来る頻度)が変わった	0.373	0.061	0.152	0.108	0.003	0.013	0.000	0.032
25 立ち話中に直ぐに手すりに捕まるようになった	0.386	0.101	0.025	0.067	0.037	0.040	0.086	0.011
26 足音が変わってきた	0.226	0.007	0.059	0.160	0.012	0.163	0.044	0.042
27 閉じこもりがちになっている	0.431	0.104	0.003	0.010	0.040	0.118	0.000	0.035
28 弱気になってきた	0.352	0.004	0.021	0.096	0.194	0.000	0.003	0.108
29 白髪が目立つ	0.082	0.026	0.137	0.081	0.035	0.024	0.026	0.001
30 化粧していない	0.054	0.097	0.198	0.009	0.010	0.164	0.186	0.037
31 自分の居場所の周りしか掃除しない	0.350	0.005	0.038	0.002	0.152	0.211	0.028	0.012
32 整頓はするものの掃除はしていない	0.032	0.574	0.022	0.144	0.027	0.108	0.000	0.004
33 埃のたまっているところがある	0.048	0.306	0.178	0.026	0.051	0.052	0.000	0.013
34 衣類や寝具の交換が出来ていない	0.288	0.496	0.062	0.030	0.004	0.038	0.003	0.016
35 書類の整理ができなくなってきた	0.440	0.019	0.398	0.055	0.017	0.016	0.006	0.016
36 仏壇などの管理をしなくなってきた	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
37 季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	0.051	0.431	0.125	0.070	0.004	0.014	0.085	0.005
38 書類が並べてある	0.188	0.278	0.166	0.008	0.003	0.002	0.095	0.001
39 書類に多くのメモ書きがある	0.007	0.129	0.000	0.007	0.005	0.143	0.288	0.000
40 照明のつけっぱなしがある	0.172	0.260	0.005	0.522	0.005	0.001	0.010	0.005
41 食堂で食事を一人で食べるようになった	0.007	0.000	0.004	0.000	0.001	0.000	0.004	0.015

<1次元と2次元による散布図>



② 二項ロジスティック分析による指標群の有効性評価

- ・次に、上記の最適尺度法による分析で得られた、各ケースの各次元に対するオブジェクトスコアを用いて、自立者か移行期の人かを示す変数を目的変数として、二項ロジスティック分析を行い、それぞれの次元の有効性を検証した。
- ・入居者については、以下のとおり、これらの変数群を用いて、自立か移行期かを判定すると、83.3%の正確性をもつものとされた。
- ・変数として投入した各次元については、1次元と6次元が意味をもつ軸と分析された。
- ・ただし1次元については符号が負であることから、構成する指標それぞれについて正しく自己評価できること自体が自立期にあることを示しているとも考えられる。
入居者自身の評価としては、6次元のみが有効であるといえよう。

-2 対数 尤度	Cox & Snell R ² 乗	Nagelkerke R ² 乗
43.03994	0.48776	0.650347

観測値	予測値			
	入居者の要介護状況 ²		正分類ハ ーセント	
	自立	移行期		
ステップ ¹	入居者の要 自立	25	5	83.3
	介護状況 移行期	5	25	83.3
	全体のハ ーセント			83.3

	B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp (B)	
ステップ ¹ 1(a)	1次元	-2.821	0.789	12.788	1	0.000	0.060
	2次元	0.321	0.402	0.640	1	0.424	1.379
	3次元	0.701	0.526	1.778	1	0.182	2.015
	4次元	0.389	0.405	0.920	1	0.338	1.475
	5次元	-0.599	0.434	1.905	1	0.167	0.549
	6次元	0.844	0.477	3.122	1	0.077	2.325
	7次元	0.128	0.589	0.047	1	0.829	1.136
	8次元	0.215	0.458	0.220	1	0.639	1.240
	定数	0.489	0.437	1.252	1	0.263	1.631

- ・また、職員についてはこれらの変数群を用いて、自立か移行期かを判定すると、以下のとおり、83.3%の正確性をもつものとされた。
- ・変数として投入した各次元については、1次元と4次元が意味をもつ軸と分析された。
- ・特に1次元では、構成する指標に該当する場合に、移行期となる確率が約330倍にのぼるなど、判別する指標としての有効性の高さが示唆される結果となっている。

-2 対数 尤度	Cox & Snell R ² 乗	Nagelkerke R ² 乗
50.05023	0.424274	0.565699

観測値		予測値		
		入居者の要介護状況 ²		正分類ハ ーセント
		自立	移行期	
ステップ ¹	入居者の要介 護状況 ²	26	4	86.7
	自立 移行期	6	24	80.0
	全体のハ ーセント			83.3

		B	標準誤差	Wald	自由度	有意確率	Exp (B)
ステップ ¹ 1(a)	1次元	5.801	2.955	3.855	1	0.050	330.664
	2次元	-0.646	0.822	0.616	1	0.432	0.524
	3次元	-1.429	1.840	0.602	1	0.438	0.240
	4次元	-2.747	1.614	2.894	1	0.089	0.064
	5次元	0.946	0.959	0.973	1	0.324	2.576
	6次元	0.410	0.946	0.188	1	0.664	1.508
	7次元	-0.067	0.560	0.014	1	0.905	0.935
	8次元	0.017	0.889	0.000	1	0.985	1.017
	定数	2.366	1.232	3.688	1	0.055	10.652

- ・これまでの分析の結果から、入居者の 6 次元、職員の 1 次元 4 次元の数値の高い項目を整理すると、以下の 26 項目となる。
- ・これらの項目が移行期を判別するための項目として有効である可能性があると考えられる。

a	こだわりがなくなる・気にしなくなる	生活全般
b	今まで自立生活をしていたのに、何かと頼り始めた	
c	行動範囲が狭くなる	
d	食事の量が変わった(減った)	食べる
e	食事パターン(食堂に来る頻度)が変わった	
f	食べ物の好みが変わる	
g	食べこぼしが目立つ	
h	立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	移動する(歩行状態)
i	歩く時に頻繁に物につかまる	
j	歩く速さがゆっくりになった	
k	足の出やあげ方が今までと違う	
l	足音が変わってきた	
m	歩いている時にふらつきがある	
n	階段を怖がる	外出
o	閉じこもりがちになっている	
p	声の質が今までと違う	話す・会話する
q	気分の落ち込みが大きくなる	意欲・気分
r	弱気になってきた	
s	洋服に無頓着になる	更衣
t	買い物に行かなくなる	買い物
u	自分の居場所の周りしか掃除しない	掃除
v	衣類や寝具の交換が出来ていない	整理整頓
w	書類の整理ができなくなってきた	
x	買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	金銭管理
y	行事などの約束を忘れる	スケジュール管理
z	照明のつけっぱなしがある	その他

第2節 対応方策について

第1項 職員調査による対応案の整理

アンケート調査において、自立期および移行期の入居者に対して、入居者の状態維持や生活の質の向上につなげるために実施していること、あるいは、これから実施しようとしていることを尋ねた。

(1). 入居者の状態維持や生活の質の向上につなげるために現在実施していること

現在実施していることについては、趣味活動のお手伝いや運動への意識付けなどの支援等と声かけが多く行なわれている。

(件)

	声かけ	行事への誘い	話を聴く (相談を受け る)	こちらから会 話する	役割を担って もらう	見守り	趣味活動 運動(アクティ ビティ)支援	援生活(家事)支
全体	10	2	5	5	3	3	11	4
移行期	5	2	1	2	1	3	3	4
自立	5	0	4	3	2	0	8	0

移行期

- ・すれ違った時などの声かけ。
- ・妻の介護の支援、自分でできない家事援助。
- ・売店に来られた時や、食堂に来られた時など、体調をきかけながら、洋服などについて話をする。
- ・特別に行っていることはない。
- ・健康チェック、食堂でのあいさつ、生活サービス課ステーションに立ち寄られた時に会話。
- ・見かけたら声をかける。その方の好きなもの話をする。おしゃれをほめる。
- ・ご相談を伺う（他の入居者から多く相談されている方のため、その相談の中で職員の対応が必要と思われることを伝えてくださる）。
- ・体調不良のため、居室配膳対応中（体調が良い時はテーブル配膳対応）。
- ・行事への誘いがけ。
- ・自立されているが、歩行が不安定なのでゴミ捨てなど声かけをして援助しています。
- ・売店にみえた時には、お金の出し方、言動の様子を見守っている。
- ・時々泊りがけでお出かけされたりしているので、感想をうかがったり、体調をうかがったりしている。
- ・目が不自由だが、ご主人が援助している。時々困りのことはないか声かけをしている。
- ・自立した生活を送られているので、特に行っていることはない。
- ・歩行状態が不安定なところがあり、配膳の準備、買物代行など支援をしている。
- ・病院の受診付き添い。アクティビティ（折り紙）。
- ・時々パソコン操作の指導や財団の定期刊行誌の記事を依頼しています。杖歩行ではあるが、歩行はしっかりされており、精神的にも落ちつかれている。
- ・非常住のため、里の情報を送っている。アクティビティ（折り紙参加）。
- ・時々デイルームにお誘いする程度で、特にない。
- ・奥様が身の回りを行っている（認知症予防対策は施設側では特に行っていない）。
- ・デイルームに気分がよいときや友人に誘われたときに来ている。
- ・身体的レベル低下がみうけられ、転倒が多くなっており、現在大学病院で検査中である。清掃援助、服薬管理、受診付き添いの援助を行っている。
- ・レストラン食堂での見守り。状態の把握。
- ・居室内が乱雑になっていたが、週一回ずつ清掃援助を開始し、清潔が保てるようになった。
- ・レストランでの食事状況の確認。プールを利用されているため、利用時の様子を見る。

・レストランでの食事状況の確認。目が不自由なため、手紙、重要で手続きが必要なものなどの代行。

自立

- ・趣味の場所、畑などでお会いする時はゆっくりお話を伺っている。
- ・ご夫婦で生活されているため、ご夫人との話の中で、ご主人の様子を聞いている。
- ・夫人が病弱であることが心配となっているため、話をきくように心掛けている。職員が見守っていることで安心され、ご自分の趣味などを楽しくことができると考える。
- ・訴えが多いため、ひたすら傾聴。
- ・役割を担っていただいている。
- ・聖書、賛美歌サークルの講師を行っていただいている。
- ・外出時、帰宅時の確認、声かけ。
- ・体調に関する声かけをする。服装などを変えたらほめる。木の事（得意分野・専門分野）の質問をする。
- ・お話しを傾聴する。掃除支援（居室清掃）。
- ・外出、帰里時の声かけ、確認。
- ・アクティビティ（折り紙）。
- ・行事の声かけ。
- ・行事の声かけ。
- ・パンフラワーサークルの支援（材料購入の手伝い）。
- ・アスレチックジムで筋力強化、柔軟性を高めるようトレーニングしている。生活の中でも、運動を取り入れてもらうよう話をしている。
- ・元々評議員をされる等人前に立つことを苦手としない方。「何か役に立つことを」と常に問題意識を持ち行動され、それを生きがいと考えている。職員や里にも様々な提案や助言をされている。意見をいただいた時に「役に立った」と思っていただけのように、誠実に対応していくよう心掛けている。
- ・ご夫婦で入居されているため、特に支援、サポートの必要は現在なし。ともに外出をよくされていて、楽しまれている。食事だけは全て里でとり、それ以外は全てご自分で生活されている。
- ・サークルの展示のお手伝い。パソコンの操作のアドバイス。
- ・ご自分で、車で買いものや外出すべてをされている。食事の管理もされているため、現在のサービスとしては健康づくりがメインである。
- ・外出機会が多く、東京へもかなりの頻度で行かれる。脚部の筋肉量も多いため、歩行に関しては問題なし。これからも脚部の筋肉量を減らさないように提案していく。
- ・アスレチックジム。相談援助（奥様について）。
- ・アスレチックジムトレーニングで週一マシンを使用しているので、面談等で健康面からアドバイスをし、人間関係を作っている。
- ・施設の中でコミュニティが一番大好きと言われているが、毎日コミュニティに来られ、職員との会話を楽しんでいる。コミュニケーションが上手く取れている間はこのままでよい。
- ・レンタル畑での関わりしかなかったが、フラダンス（男性用）に声かけしたところ、一番上手で積極的に関わり、新しいことにもチャレンジできる方。

(2). 入居者の状態維持や生活の質の向上につなげるために今後実施しようと思うこと

今後実施しようと思うことについては、現在実施していることと同様に、趣味活動のお手伝いや運動への意識付けなどの支援等が多いが、話を聴く（相談を受ける）やこちらから会話する、見守りなども多くなっている。特に移行期の入居者に対しては、話を聴く（相談を受ける）ことやこちらから会話することなどを実施しようとする意見が多い。

(件)

	声かけ	行事への誘い	話を聴く (相談を受ける)	こちらから会話 する	役割を担ってもら う	見守り	趣味活動 運動(アクティビ ティ)支援	生活(家事)支援
全体	3	4	10	13	4	10	12	3
移行期	2	2	6	9	0	3	4	3
自立	1	2	4	4	4	7	8	0

移行期

- ・定期的に訪室し（3ヵ月に1回程度）、日々の生活について聞き取りする。
- ・妻が介護居室に住み替えたため、交流を継続するための支援。
- ・高齢のため、生活相談にのる。
- ・意欲の低下がみられるので、定期的に訪問し、お話しする機会を設ける。
- ・健康に気をつけている方のため、健康相談にのる。
- ・食堂利用頻度を気かけ、いつも明るいあいさつされる方なので、表情の変化などに注意する。
- ・寝具の交換ができていのかさりげなく聞いてみる等。生活状況を観察する。
- ・今までどおり。
- ・サークルや行事等への積極的な参加。
- ・身体的低下（歩行不安定）がみられるので、体操への参加のお誘いや、居室内などで他に不自由がないか、声かけ、お話しする機会を増やしたいと思います。
- ・ひとりの生活をしっかり行っているので、職員のところ、質問や依頼にみえた時は、しっかり対応していきたい。
- ・お部屋の中での生活の様子や、家事のことなどについて、お話しをうかがってみようと思う。
- ・ご主人1人では不安なことがあるようなので、今まで以上に会話を多く持ち、書類の整理など援助できることはしていく。
- ・目の不自由な奥様の援助で、何かお困りごとはないか、物忘れなど普段の会話では気づかないが、不安になられている様なので、会話をもっと増やしていく。
- ・外出希望（食事会など）があるので、希望をよくお聞きして、外出する機会を増やすお手伝いをしたい。
- ・行事等の誘いかけ、見守り（言動や歩行状態）。
- ・積極的な訪室（依頼ごとがなく、情報がつかめていない。職員との信頼関係は良い）。
- ・本人の得意分野を拡大できるような声かけや後押しを行っていききたい。
- ・里にいらした時、近況をうかがう。
- ・耳が遠いこともあり、他入居者との交流があまりない。話ができる場を設定できればよいのではないかと思います。
- ・脳トレなどのトレーニング資料を配布しては？
- ・認知症が少しあるので、定期的にデイルームの利用をして見守っていききたい。
- ・病気で入院している奥様を看取るまで元気でいてあげたいという気持ちをお持ちなので、体力維持向上のため、個別機能訓練を行えるよう援助する。
- ・定期的に体調について話をうかがう（歩行状態、食事、入浴など）。
- ・今まで趣味であったパソコンが壊れて以来パソコンを使用しない。パソコンを修理すれば少し生活に張りができるのではないかと思います。
- ・プールの利用状況の確認。
- ・眼科の受診を止めているため、定期的に受診の付き添い。身元引受人との連絡。

自立

- ・ボランティア精神がある方なので、里での行事などの協力依頼など今後も続けていく。
- ・非常に攻撃的な物言いをされる方のため、言動を観察する。
- ・代表あいさつにとりとめがないように感じる。表情の変化や外出頻度の変化に注意する。
- ・今後も活躍の場を提供していく。お話しを伺う。
- ・ご趣味の押し花や、ご自身のことなどお話を伺う機会を増やす。
- ・体調に関する声かけをする。服装などを変えたらほめる。木の事（得意分野・専門分野）の質問をする。
- ・外出の回数が減少してきたなど、居室や里で過ごされることが多くなったら注意する。
- ・近況をうかがう。
- ・近況うかがい。
- ・見守り（生活状況、言動）。
- ・行事の声かけと身体状況の様子うかがい。
- ・行事の声かけ。
- ・売店へコーヒーを飲みに来るのが楽しみの様。楽しく話し相手をする。
- ・常に身体状態の様子をうかがうこと。
- ・パンフラワー作品展。
- ・痛みやけがない範囲で運動を続けられるよう、運動強度を調整していく。年齢も考え、体調に合わせて行っていく。かるたも指導できる体力を維持する。
- ・畑、サークルと生活を楽しまれている。ご夫婦で生活され職員とも上手くコミュニケーションをとれているので、今は特に無く、見守りで良いと考える。
- ・現在は趣味を楽しむために運動をされているが、今後身体的衰えがでてきた時は、サポートできる体制をつくっておく。また身体的変化がわかるよう見守っていく。
- ・サークルの代表をされており、趣味や体力作り等、職員の手伝い等、現在のところ必要なし。パソコン等の質問によく来られるので、満足していただけるような対応をする。
- ・身体的衰えがでないように、トレーニングのサポートをしていく。今後衰えがでてきた時に、すぐに支援できるよう見守っていく。また衰えを発見できるようにアンテナをはり、見守る。
- ・アスレチックジムだけではなく、プールの利用など他のプログラムをすすめて、自発的にトレーニングするように話しをしていく。
- ・奥様が神経質な方で、気難しいので、今後精神的負担が大きくなることが予想される。ご主人が支えられなくなった時にスムーズに援助できるよう、アスレチックジムトレーニングの面談等を必ず利用しコミュニケーションを図っていく。
- ・転倒の不安を持っているとのことなので、半年に一回の体力測定と三ヶ月に一回の面談を行い、生活面、精神的な不安をそこから見つけ対応する。
- ・外出の機会が減ったり、体力低下により自立が難しくなってきたりしたときに、上手く援助に入れるよう、良好な関係を続けていく。
- ・アスレチックトレーニングを中心に声かけしていく。人前で何かを行うことも苦手ではなさそうなので、役を見つけて参加いただく。

第3章 まとめ

第1節 指標案と対応方策

(1). 抽出した項目の妥当性

第2章の分析の結果、以下の項目が移行期の変化を捉えるアセスメント指標として有効である可能性があることが示された。

コレスポンデンス分析(最適尺度法)および二項ロジスティック分析によって検討したものであるが、それまでの集計・分析の過程でも、重要であると思われた項目が中心となっている。

また、選択した移行期アセスメントのための項目候補であるが、歩行や食事に関する項目が数多いことなど、職員のヒアリングの中でも変化を捉えるポイントとして重視されていた項目群であり、この点などから総合してアセスメント指標として妥当性があると思われる。

老研式活動能力指標と比較しても、本指標は、第三者が気づくための項目が主体となっているものの、その内容はおおむね妥当であり、両者間の整合性はとられていると考えられる。

従って、現時点では、この項目群を移行期アセスメント指標(案)としたい。

	抽出された項目	領域
a	こだわりがなくなる・気にしなくなる	生活意欲
b	今まで自立生活をしていたのに、何かと頼り始めた	
c	行動範囲が狭くなる	
d	食事の量が変わった(減った)	食べる
e	食事パターン(食堂に来る頻度)が変わった	
f	食べ物の好みが変わる	
g	食べこぼしが目立つ	
h	立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	移動する (歩行状態)
i	歩く時に頻繁に物につかまる	
j	歩く速さがゆっくりになった	
k	足の出やあげ方が今までと違う	
l	足音が変わってきた	
m	歩いている時にふらつきがある	
n	階段を怖がる	
o	閉じこもりがちになっている	外出
p	声の質が今までと違う	話す・会話する
q	気分の落ち込みが大きくなる	意欲・心気性
r	弱気になってきた	
s	洋服に無頓着になる	更衣
t	買い物に行かなくなる	買い物
u	自分の居場所の周りしか掃除しない	掃除
v	衣類や寝具の交換が出来ていない	整理整頓
w	書類の整理ができなくなってきた	
x	買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	金銭管理
y	行事などの約束を忘れる	スケジュール管理
z	照明のつけっぱなしがある	その他

移行期の兆候の見える入居者への対応方策については課題も多い。たとえば、自立あるいは、ほぼ自立して生活している方々への、関与や支援の仕方については、お節介にならない程度にどのように接すべきかそのかかわりのタイミングとレベルが有料老人ホームにおいても課題となってきたところである。

今回の調査結果からは、実際に行なわれている内容は、折に触れた「声掛け」や、入居者の行なっている趣味活動や運動に関して、予約や準備等をお手伝いするといった内容が多く、会話や傾聴による「観察」を中心としており、コミュニケーションをとることが中心的な対応策として行なわれていることがわかった。今後行うべき支援についての回答の中でも、これらの項目が挙げられている。特に、会話や傾聴といったコミュニケーションについては、実施しようと考えている職員が多く、自立からの移行期の不安感を和らげ、心身機能改善を図る意味でも、重要視されていることが分かる。

移行期の方々を支援するのは、自分で行おうとする意欲を妨げること無く、依存心が強くなってしまふことに配慮しつつ、まず、コミュニケーションをとって、会話等を増やしていくことで生活全般の活性化を促すことが大切であると考えられる。

ヒアリングにおいても、活動性が低下し移行期に差し掛かったと思われた入居者に対して、職員全員が、廊下でのすれ違いざま、あるいは食堂で出会った時など、注意して声掛けを行うようにしたところ、活動性が上がり、表情が明るくなったという事例も聞くことができた。この時の声かけはあいさつ以上のものであり、相手が必ず返答しなくてはならないオープンクエッション法が現場では用いられている。

まず、上記の指標の何れかの変化を感じたときには、積極的に声掛けを行い、相手が会話に乗ってきた場合には、傾聴して、指標の他の項目にも変化がないかなど、自然な会話のなかで心身状況のアセスメントをしていくことが大切であると思われる。

(2). 項目の一般化

本研究では有料老人ホームでの職員による入居者観察と本人の申告をもとに移行期のアセスメント項目の抽出を試みた。上記のとおり、きわめてコンパクトで高齢期の生活全体をアセスメントする指標が導き出されたと考える。これらの項目の特徴は、高齢者の本人および家族などが日ごろの生活で対象となる高齢者の変化をいち早く理解することが出来る点であり、それに応じた適切な対応をしたり、準備をしたりすることで、重度化を予防すると共に当事者のQOLを心身機能の変化に応じて維持するための指標として活用することが目的である。

したがって、上記の項目を一般の家庭で応用しようとした場合に 26 項目がどのようなようになるかを以下の表に整理した。整理するにあたってのポイントは、在宅生活において確認できること、生活の気づきで判断できることである。

	抽出された項目	領域
a	物事、社会情勢などにこだわりがなくなる・気にしなくなった	生活意欲
b	今まで自分していたことを家族に何かと頼り始めるようになった	
c	日常の生活範囲が狭くなった	
d	毎回の食事の量が減った	食べる
e	食事の時間が変わってきた	
f	食べ物の好みが変わった	
g	食べこぼしが目立つようになった	
h	会話するときの立位保持が難しく、モノにつかまるようになった	移動する(歩行状態)
i	歩く時に壁やいすの背等の物につかまるようになった	
j	歩く速さがゆっくりになった	
k	足の出やあげ方が今までと違って、狭く、低くなった	
l	足音が大きくなるなど今までと変わってきた	
m	歩いている時に時々ふらつきがある	
n	階段の昇降を怖がるようになった	外出
o	自室や家に閉じこもりがちになっている	
p	声の張りなどの声の質が今までと違うようになった	話す・会話する
q	些細なことでも気分の落ち込みが大きくなるようになった	意欲・心気性
r	何かに付けて弱気になってきた	
s	自分自身の着ているものに無頓着になった	更衣
t	買い物に行かなくなった	買い物
u	自分の周りしか掃除しない等生活環境の保持ができなくなった	掃除
v	衣類や寝具の交換をしようとしていない	整理整頓
w	書類の整理ができなくなってきた	
x	買物の時に大きなお金を出して釣りをもらうようになった	金銭管理
y	約束したことを忘れる	スケジュール管理
z	照明の消し忘れが目立つ	その他

第2節 今後の課題

今年度の研究においては、移行期のアセスメント指標の案を作成し、支援方策の方向性を見出すことができた。しかし、指標の有効性や妥当性については、自立期から移行期へ変化していく長期にわたり継続して使用し指標への反応を確認していくという実証実験が必要である。

また、支援方策についても、より詳細な内容を把握していく必要があると考える。従って、来年度も継続して調査研究を行い、より精緻な指標と対応方策の検討を行いたいと思う。

(1). 移行期レベルの確認

本研究では、移行期を要支援や要介護に至るまでの心身機能低下までの間として定義しているが、この移行期においても初期段階と中期段階、要支援認定直前段階と分けることができる。今回の分析では、食事の変化や歩行の変化はまさに心身機能の低下が最初に現れる部分であり、これを契機に移行期に移ることが二項ロジスティック回帰分析によって明らかにされた。

今回の指標は、「はい」「いいえ」で確認できるチェック項目となっているが、どの程度のチェックがつくこと、つまり移行期に関する項目が on になれば、どの程度の移行期レベルにあるのかが今回の研究では明らかにされていない。つまり、1項目にチェックがついた場合と3項目にチェックがついた状態でどの程度の心身機能に差があるのかは実証する必要がある。

さらに、要支援に移行してしまうクリティカルポイントの抽出も今後の課題となろう。26項目のチェック数によって、移行期のレベルは測定できるが、その中においても要支援、要介護に移行が危惧される重点項目についての選定が必要である。

(2). 一般家庭での移行期測定の支援

上記第1節において26項目の一般化を試みたが、一般化に際しての実証が必要となる。有料老人ホームと家庭との違いは、高齢者が家族関係を軸として生活しているのと、生活支援者と生活していることとの違いである。したがって、有料老人ホームの方が高齢者に対する注意の払い方は日常的には多いと考えられるが、心身機能が低下した際には家族の支援は個別性が高く、有料老人ホームに比べ、密着度の高いケアがなされるという特徴がある。したがって、移行期に入り、さらに要支援、要介護になる前への支援は家庭より有料老人ホームの方がきめ細かく対応できる。しかし、高齢期のQOLを維持し、健康寿命を延ばすことを考えるならば家庭においても移行期を把握し、より適切な支援、リハビリなどが必要となる。

今回は自立時点での関わりが比較的多い有料老人ホームでの高齢者の変化を見てきたが、今後は家庭における移行期の兆候を把握するアセスメント項目の抽出も必要である。もちろん、今回の指標はそのまま家庭に適応できることを前提としているため、まずは、家庭で26項目を使って評価確認することが課題となろう。必要に応じて調査対象者をパネル化し、継続的な観察ができればさらに精度の高い項目選択が可能となる。

また、家庭独自の項目も考えられるため今回の調査と同様に複数の高齢者世帯を対象とした事例調査が不可欠であると考えられる。また、有料老人ホームの場合は住環境が一定の水準でコントロール

されているが、一般家庭は北から南まで住環境の差は著しい。そうした住環境、社会環境の違いもアセスメント項目として取り込めることが望ましいと考える。

以上の点を踏まえるならば、今回抽出したアセスメント項目をより精査することに加え、在宅での使用を考慮した居宅調査についても視野に入れるべきと考える。

第4章 参考資料

第1節 アンケート票

第1項 指標アンケート

指標の精緻化アンケート調査
 「厚生労働省「平成23年度 老人保健健康増進等事業」

この調査は、①移行期にある高齢者を見出すアセスメント指標の抽出ならびに②要介護を予防する効果的な支援方法を明らかにすることを目的として実施するものです。
 次ページから掲載されているポイントは、事前に実施したヒアリングから抽出された、移行期に関する気づきのポイントの数々です。それぞれについて、Q1～Q5の間に回答してください。日頃感じているままに、宿まず直感的にご回答いただいで結構です。お忙しい中恐縮ですが、ご協力よろしくお願い致します。

下に掲載されている気づきのポイント毎に、 右にある設問(Q1～Q4、Q4-sq)に回答して下さい。	ポイント 通し ナンバー	Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング) *1～5の該当する欄のいずれか一欄に「○」を記入して下さい。	Q2: このポイントは、多くの方に現れる事(観察することができること)ですか。 (観察の一般性の有無) *1～5の該当する欄のいずれか一欄に「○」を記入して下さい。	Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立度等の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度) *1～5の該当する欄のいずれか一欄に「○」を記入して下さい。	Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関連していると思われますか。 (関連の多さ) *1～5の該当する欄のいずれか一欄に「○」を記入して下さい。	Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関連ありそうなもの全てに○を入れてください。 (発生の要因) *A～Dのうち、当てはまるもの全てに「○」を記入して下さい。																																										
		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> </tr> <tr> <td>自立から要支援への移行期</td><td>要支援の時期</td><td>要介護の時期</td><td>要介護の時期</td><td>要介護の時期</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	自立から要支援への移行期	要支援の時期	要介護の時期	要介護の時期	要介護の時期	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> </tr> <tr> <td>ほとんど現れない</td><td>ほとんど現れる</td><td>半数程度の方に現れる</td><td>多くの方に現れる</td><td>ほとんどの方に現れる</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	ほとんど現れない	ほとんど現れる	半数程度の方に現れる	多くの方に現れる	ほとんどの方に現れる	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th> </tr> <tr> <td>非常に急激に低下していく</td><td>急激に低下していく</td><td>徐々に低下していく</td><td>ゆっくりと低下する</td><td>ほとんど低下しない</td> </tr> </table>	1	2	3	4	5	非常に急激に低下していく	急激に低下していく	徐々に低下していく	ゆっくりと低下する	ほとんど低下しない	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>1</th><th>2</th><th>3</th> </tr> <tr> <td>多くの特異点と関連がある</td><td>少数の他のポイントと関連がある</td><td>ほとんど他のポイントと関連しない</td> </tr> </table>	1	2	3	多くの特異点と関連がある	少数の他のポイントと関連がある	ほとんど他のポイントと関連しない	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th> </tr> <tr> <td>身体機能</td><td>精神機能</td><td>認知機能</td><td>生活環境</td> </tr> </table>	A	B	C	D	身体機能	精神機能
1	2	3	4	5																																												
自立から要支援への移行期	要支援の時期	要介護の時期	要介護の時期	要介護の時期																																												
1	2	3	4	5																																												
ほとんど現れない	ほとんど現れる	半数程度の方に現れる	多くの方に現れる	ほとんどの方に現れる																																												
1	2	3	4	5																																												
非常に急激に低下していく	急激に低下していく	徐々に低下していく	ゆっくりと低下する	ほとんど低下しない																																												
1	2	3																																														
多くの特異点と関連がある	少数の他のポイントと関連がある	ほとんど他のポイントと関連しない																																														
A	B	C	D																																													
身体機能	精神機能	認知機能	生活環境																																													
		○ここに挙げられているポイントは、職員の方々へのヒアリングから出た、自立から要支援、あるいは要介護への移行期の気づきのポイントです。 ○それぞれのポイント毎に、右のQ1～Q4、Q4-sq に回答して下さい。	○Q1からQ4のそれぞれについて、1～5の段階の中で、最も近いと思う段階1箇所○印を付けて下さい。 ○自分の経験からの感覚で付けて下さって結構です。	A～Dの当てはまるもの全てに○印を付けて下さい。																																												

1 生活全般での変化の気づきのポイント
 (今までと違うという、どこか違和感を感じるポイント)

1-1生活リズム	1-1-1生活リズム(サイクル、スケジュール)の乱れが見られる(車窓でない繰り返し見られる乱れ)	1	1	2	3	4	5	1	1	2	3	4	5	1	1	2	3	A	B	C	D
	1-1-2生活リズム(サイクル、スケジュール)が崩れる(一日の生活が自分で割り上げられない)	2	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
1-2こだわり	1-2-1こだわりがなくなる 気がしなくなる	3	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	1-2-2こだわりが多くなる	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
1-3その他全般的変化	1-3-1今まで自立生活をしてた人が、何かと頼り始める	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	1-3-2今までやってたことをやらなくなる	6	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	1-3-3いままでもやらなかったことを、強くこだわりをもちやるようになった	7	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	1-3-4行動範囲が狭くなる	8	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	1-3-5同じ事を繰り返す	9	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		

Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。
(観察のタイミング)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q2: このポイントは、多くの方に認められる事(観察することができると)ですか。
(観察の一般性の有無)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立支援下の進み具合はどのようなものになりますか。
(変化の速度)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。
(関係の多さ)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全て「O」を付けてください。
(発生の要因)
*A~Dのうち、当てはまるものを全て「O」を記入してください。

1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
自立から食事準備への移行期	食事準備の時期	食事準備の時期	食事準備の時期	食事準備の時期	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	身体機能	精神機能	認知機能	生活環境

下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4, Q4-sq)に回答して下さい。

2 基本動作に関する変化の気づきのポイント

2-1取る

2-1-1 状態機軸がなくなる

2-1-2 状態機軸が増える

2-2食べる

2-2-1 量が変わる(減る)

2-2-2 ペースが変わる

2-2-3 食事の合図(チャイム)の誘発があっても、そのことに関わらず食事にやってくる

2-2-4 食事のキャンセルが増える

2-2-5 食事時刻の不安定化(食事の時刻、いつも早い人が来ない)

2-2-6 食事パターン(食事に来る頻度の変化)

2-2-7-1 好きなものだけを食べる

2-2-7-2 固いものを食べず食べやすいものだけを食べる

2-2-7-3 好きが変わる(いつもの食の方が和食に変わって肉を食べた方が食べなくなる、魚がけいから焼いどまになって食べなくなる)

2-2-7-4 (好きの変化というわけではないが)今までと違う食べ方をする(パンに醤油をかける など)

2-2-8 忘れ込むことが多くなる

2-2-9 食べたことがわからなくなる

2-2-10 食事の居残り

2-2-11 入れ歯が合わなくなる

10	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
11	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
12	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
13	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
14	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
15	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
16	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
17	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
18	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
19	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
20	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
21	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
22	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
23	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
24	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
25	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D

Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。
(観察のタイミング)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q2: このポイントは、多くの方に認められる事(観察することができると)ですか。
(観察の一般性の有無)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立支援下の進み具合はどのようなものになりますか。
(変化の速度)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。
(関係の多さ)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「O」を記入してください。

Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全て「O」を付けてください。
(発生の要因)
*A~Dのうち、当てはまるものを全て「O」を記入してください。

1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
自立から食事準備への移行期	食事準備の時期	食事準備の時期	食事準備の時期	食事準備の時期	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	多くの方に認められる	ほとんど認められない	身体機能	精神機能	認知機能	生活環境

下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4, Q4-sq)に回答して下さい。

2-3 歩行する

2-3-12 食べこぼしが目立つ

2-3-13 箸を持つなくなる

2-3-14 食事で自分の声が変わる

2-3-15 食事で脱臼を繰り返す

2-3-16 トイレに聲に合わない

2-3-17 トイレに声に合わない

2-3-18 トイレに声に合わない

2-3-19 トイレに声に合わない

2-3-20 トイレに声に合わない

2-3-21 トイレに声に合わない

2-3-22 トイレに声に合わない

2-3-23 トイレに声に合わない

2-3-24 トイレに声に合わない

2-3-25 トイレに声に合わない

2-4 移動する(歩行等)

2-4-1 立ち話中に驚くに手すりに捕まる

2-4-1-2 歩幅が狭くなる

2-4-1-3 歩幅が狭くなる

2-4-1-4 歩幅が狭くなる

2-4-1-5 足の出、歩幅の変化(歩幅が狭くなる、引きずる)

2-4-1-6 足音の変化

2-4-1-7 歩く ぶらつき

2-4-1-8 階段を怖がる(踏む)

2-4-1-9 杖を使うようになる

26	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
27	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
28	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
29	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
30	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
31	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
32	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
33	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
34	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
35	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
36	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
37	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
38	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
39	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
40	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
41	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
42	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D
43	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D

		Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)					Q2: このポイントは、多くの方に現れる事(観察すること)ができることですか。 (観察の一般性の有無)					Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立生活下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)					Q4: このポイントは他の変化ポイントとどのような関連関係していると思われるか。 (関係の多さ)					Q5: このポイントは、なぜ起こると思われるか。関係ありそうなもの全てに○を入れてください。 (発生の要因)				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D			
2-5外出	2-4-2 転倒	2-4-2-1廊などのアザ、擦り傷などから	44	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-4-2-2転倒事故の頻度が短い(対策を考える前にまた転んでしまう。)	45	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-4-2-3振り向きと向きにふらつき、転倒。立位保持が難しい。そのことで自分で気づかない	46	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-4-2-4自宅内での転倒が増える。アザが出来る	47	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
	2-4-3移動の途中の足取り	48	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-1閉じこもりがちになる。	49	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-2部屋にいらなくなる頻度が減る	50	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-3外出をしなくなり、デイルーム等で過ごす	51	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-4迷子になる	52	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-5ウロウロしている。	53	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-6夜間によく歩く	54	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
	2-5-7いつもと違う時間帯(ふつなら、ないような生活時間帯)に人に会いに行く	55	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
2-5-8外出先で忘れ物をしてきて、そのことで連絡がある家で気づかないことが複数回みられるようになる	56	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D			

5/14

		Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)					Q2: このポイントは、多くの方に現れる事(観察すること)ができることですか。 (観察の一般性の有無)					Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立生活下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)					Q4: このポイントは他の変化ポイントとどのような関連関係していると思われるか。 (関係の多さ)					Q5: このポイントは、なぜ起こると思われるか。関係ありそうなもの全てに○を入れてください。 (発生の要因)				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D			
2-6パーソナルコミュニケーション(話す、挨拶する)	2-6-3 発声内容の変化	2-6-3-1声の質が変わる(電話の声のトーンが今までと違う。)	57	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-6-3-2発声に緊張がない。(攻撃的であった方が穏やかになる。涙や話す)	58	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-6-3-3「わからなくなっちゃった」という言葉ができる	59	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-6-3-4同じ会話を繰り返す	60	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-6-3-5おまがなくなった、あるのか といった不安を訴える。(まず おまの心配が先になる。)	61	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-6-3-6住んでいていいの 「道い出さないでほしい」と訴える	62	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
	2-7-1 表情	2-7-1-1表情が乏しくなる	65	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-7-1-2険しい顔になっている。眉間にシワがよっている	66	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-7-1-3不安な表情(目が動く、泳ぐ。これでもいいのか?という表情と動き)	67	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-7-2-1気分が落ち込みが大きくなる	68	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-7-2-2鬱然になる	69	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		2-7-2-3攻撃的になる	70	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
2-7-2-4 意に怒り出すようになる(男性)	71	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D			
	2-7-2-5できないことを出来るだけ隠すようになる(女性)	72	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		

6/14

下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4、Q4-sq)に回答して下さい。

2-8入浴	2-8-1 体臭がする。浴のような臭い入浴していない、入浴が億劫になっている)	73	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	A	B	C	D	
	2-8-2 衣類を洗濯する。	74	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-3 衣服や靴を磨く。	75	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-4 履物を洗濯する。	76	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-5 どの服を入れたかわからない。	77	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-6 洗えない、石鹸を付けたまま入浴する。	78	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-7 便汚染。	79	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-8 入浴の準備ができない(タオルだけ持参し、タオルを忘れる)	80	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-8-9 入浴介助が必要になる	81	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-9整容	2-9-1 髪、髪の色、髪型がきていない	82	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-1-1 乱れ 伸び放題	82	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-1-2 白髪が目立つ(髪を染めない)	83	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-1-3 かつらがズレている	84	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-1-4 無精髪	85	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-1-5 顔面に髭・鬚に髭をみかけようになった	86	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-1-6 美容院(床屋)に行く感覚がなくなる	87	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-2 爪が伸びている(特に足指)	88	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-3 歯の汚れ(入れ歯の管理ができていない)	89	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-4 口臭が強くなる	90	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)	Q2: このポイントは、多くの方に認められる事(観察すること)ですか。 (観察の一般的な特徴)	Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立度や下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)	Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関連していると思われますか。 (関係の多さ)	Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。観察ありそうなものを全て○をつけてください。 (発生の要因)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*A~Dのうち、当てはまるものを全て「○」を記入してください。
1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	A B C D
自立から車支援への移行期	車支援の時期	車支援の時期	車支援の時期	身体機能
移行期の初期	移行期の中期	移行期の後期	移行期の後期	精神機能
移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	認知機能
移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	生活環境

下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4、Q4-sq)に回答して下さい。

2-10更衣	2-9-5 (女性)化粧が上手にできない	91	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-5-2 口紅が上手にできない	92	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-9-5-3 化粧していない	93	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-1 同じ衣類を続けて着ている。	94	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-2 日中同じ服装 洗濯物が着替えられない	95	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-3 季節感のない服装(夏にセーター、真冬に薄着)	96	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-4 種類着のような状態	97	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-5 服の結び(ストッキングが切れていても気づかない)	98	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-6 衣服の汚れ(男性の場合、革靴やベルトをしてもスポンジが汚れている。)	99	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-7 服の乱れ(シャツがズボンから出ている)	100	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-8 履物がおかしい(冬場にサンダルなど)	101	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-1-9 衣服に季節感がなくなる	102	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-10-2 衣類臭がする(汗の匂い、臭)	103	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-11体臭管理	3-8-1 自分の体臭がわからない 顔色がわるく熱があっても気づかない	104	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
2-12服薬管理	2-11-1 薬を薬局に取りにいけない	105	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-11-2 薬の管理ができない。どこにおいたかわからなくなる。	106	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-11-3 薬の管理ができない。薬をよく飲み間違える 飲んだかどうか忘れる	107	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	2-11-4 薬の管理ができない。勝手に薬を飲まなくなる	108	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)	Q2: このポイントは、多くの方に認められる事(観察すること)ですか。 (観察の一般的な特徴)	Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立度や下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)	Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関連していると思われますか。 (関係の多さ)	Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。観察ありそうなものを全て○をつけてください。 (発生の要因)
*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*1~5の該当する欄のいずれか一箇所「○」を記入してください。	*A~Dのうち、当てはまるものを全て「○」を記入してください。
1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	A B C D
自立から車支援への移行期	車支援の時期	車支援の時期	車支援の時期	身体機能
移行期の初期	移行期の中期	移行期の後期	移行期の後期	精神機能
移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	認知機能
移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	移行期の後期	生活環境

		Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)					Q2: このポイントは、多くの方に読まれる事(観察することができること)ですか。 (観察の一般性の有無)					Q3: このポイントが観察されると、その後の自立度下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)					Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。 (関係の多さ)					Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全てに○をつけてください。 (発生の要因)				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D			
3 家事に関する変化の気づきのポイント	3-1 買い物	3-1-1 店のもをもらって帰ろう	109	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-1-2 同じものを何度も購入する	110	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-1-3 数財する(服など)を買いまくる、通販の品物がやたらと届くようになる	111	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-1-4 贈り物を同じ回数届けてしまう	112	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-1-5 買い物に行かなくなる	113	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
	3-2 調理	3-2-1 食品の賞味期限管理ができなくなる	114	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-2-2 食事を作るのが億劫になり、食量利用に切り替わる	115	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-2-3 鍋(オーブントースター、電子レンジ)を焦がす	116	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-2-4 料理の手順がわからなくなる	117	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-2-5 同じメニューばかり作る	118	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
	3-3 洗濯	3-3-1 大きなものは洗濯するが、小さなもの(下着など)は洗濯せず、しまひ込む。	119	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-3-2 洗濯がしなくなる(できなくなる。)	120	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	

9/14

		Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)					Q2: このポイントは、多くの方に読まれる事(観察することができること)ですか。 (観察の一般性の有無)					Q3: このポイントが観察されると、その後の自立度下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)					Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。 (関係の多さ)					Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全てに○をつけてください。 (発生の要因)				
		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D			
3-4 掃除	3-4-1 部屋の自分の居場所の周りが掃除しない。	121	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
		3-4-2 部屋の掃除ができない	122	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-4-3 整理してあるのに掃除していない	123	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-4-4 床のたまってるところがある	124	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-4-5 トイレが汚い(尿汚染)	125	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-4-6 トイレの臭い(尿臭)	126	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-4-7 部屋の臭い(尿臭以外)	127	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
	3-5 整理収納	3-5-1 衣類が散らかっている	128	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-2 衣類や道具(シーツ等)の交換が出来ていない	129	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-3 洗し台に洗い物が溜まっている	130	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-4 生ゴミの臭い	131	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-5 室内に臭いがあり、コバエなどがみられる。	132	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-6 身の回りの整理を始める(迷惑を散らかさないという意識が植え、タンスの中を整理し始める)	133	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-7 新聞を読まずに讀んだまま	134	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
		3-5-8 書類の整理ができない	135	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	

10/14

下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4、Q4-sq)に回答して下さい。

ポイント通しナンバー	Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)					Q2: このポイントは、多くの方に認められる事(観察することができると)ですか。 (観察の一般性の有無)					Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立生活下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速さ)					Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。 (関係の多さ)			Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全てに○を付けてください。 (発生の要因)					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
3-6物品管理	3-6-1 仏壇などの管理をしなくなる(閉じっぱなし、あるいは開けっ放しで埃が溜まっている。など)	136	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-6-2 造花を利用していても、季節に合わない造花の家並になっている	137	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-6-3 書類が登ってある(忘れてはいけないという観念か)	138	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-6-4 書類に多くのメモ書きがある。	139	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-6-5 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、床や引出でこない	140	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-6-6 どこに物を置いておくかといったこだわりがなくなる(歯ブラシは、ここ、コップはここといったもの)	141	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
3-7食料管理	3-7-1 買物の時、額が大きなお金を出して、釣りもらう	142	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-7-2 お金の管理ができない	143	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
3-9スケジュール管理	3-9-1 曜日、時間を気にしなくなる	144	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-9-2 約束を忘れる(行事など)	145	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	3-9-3 カレンダーに経過日を書き添える×印が付けられなくなる(日時がわからない)	146	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D

下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4、Q4-sq)に回答して下さい。

ポイント通しナンバー	Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)					Q2: このポイントは、多くの方に認められる事(観察することができると)ですか。 (観察の一般性の有無)					Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立生活下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速さ)					Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。 (関係の多さ)			Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全てに○を付けてください。 (発生の要因)					
	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D		
4-1 物の操作・運転に関する変化の気づきのポイント																								
4-1-1 自動車の操、ぶつけた時	147	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
4-1-2 駐車場への駐車が困難 斜めになっている	148	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
4-1-3 車の鍵が開けられない。	149	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
4-1-4 運転して道に迷う	150	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
4-1-5 何度か車の鍵をなくす。	151	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D	
4-2 電話	4-2-1 電話の操作がわからなくなる(ゼロ発着ができない、壊れたと誤解する。)	152	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-2-2 (家宅への)電話が頻回になる	153	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
4-3 その他	4-3-1 電気器具のつけっぱなしがある	154	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-2 照明のつけっぱなしがある	155	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-3 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある(例えば、ティッシュを壁から開けている。)	156	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-4 照明を点けない電球が切れていてもそのまま	157	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-5 カーテンを開けない(部屋が暗くてもそのまま)	158	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-6 湯水を起こす(湯煎)使用方法がわからなくなるというのではなく、していることを忘れる	159	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-7 火災報知機を鳴らして(警報)使用方法がわからなくなるというのではなく、していることを忘れる	160	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-8 緊急コールが頻回になる	161	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-9 緊急コールを自分で押さなくなる	162	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D
	4-3-10 駐入用紙への記入ができなくなる(例えば、食事申し込みを何度も間違える。)	163	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	1	2	3	A	B	C	D

<p>下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4、Q4-sq)に回答して下さい。</p>	<p>ポイント通しナンバー</p>	<p>Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)</p>	<p>Q2: このポイントは、多くの方に現れる事(観察することができること)ですか。 (観察の一般性の有無)</p>	<p>Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立学習下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)</p>	<p>Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。 (関係の多さ)</p>	<p>Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全てに○をつけてください。 (発生の要因)</p>																																										
		<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※A~Dのうち、当てはまるものを全てに「○」を記入してください。</p>																																										
		<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> <tr><td>自立から学習への移行期</td><td>学習の初期</td><td>学習の中期</td><td>学習の後期</td><td>学習の完了期</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	自立から学習への移行期	学習の初期	学習の中期	学習の後期	学習の完了期	<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> <tr><td>ほとんどの方に共通して現れることと違う</td><td>多くのの方に共通して現れることと違う</td><td>半数程度の方に共通して現れることと違う</td><td>少ないが一定程度の方に現れることと違う</td><td>ほとんど見当たらない</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	ほとんどの方に共通して現れることと違う	多くのの方に共通して現れることと違う	半数程度の方に共通して現れることと違う	少ないが一定程度の方に現れることと違う	ほとんど見当たらない	<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> <tr><td>非常に急激に低下していく</td><td>急激に低下していく</td><td>徐々に低下していく</td><td>ゆっくりと低下する</td><td>ほとんど低下しない</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	非常に急激に低下していく	急激に低下していく	徐々に低下していく	ゆっくりと低下する	ほとんど低下しない	<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr> <tr><td>多くの他のポイントと関係がある</td><td>少数の他のポイントと関係がある</td><td>ほとんど他のポイントと関係しない</td></tr> </table>	1	2	3	多くの他のポイントと関係がある	少数の他のポイントと関係がある	ほとんど他のポイントと関係しない	<table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>身体機能</td><td>精神機能</td><td>認知機能</td><td>生活環境</td></tr> </table>	A	B	C	D	身体機能	精神機能
1	2	3	4	5																																												
自立から学習への移行期	学習の初期	学習の中期	学習の後期	学習の完了期																																												
1	2	3	4	5																																												
ほとんどの方に共通して現れることと違う	多くのの方に共通して現れることと違う	半数程度の方に共通して現れることと違う	少ないが一定程度の方に現れることと違う	ほとんど見当たらない																																												
1	2	3	4	5																																												
非常に急激に低下していく	急激に低下していく	徐々に低下していく	ゆっくりと低下する	ほとんど低下しない																																												
1	2	3																																														
多くの他のポイントと関係がある	少数の他のポイントと関係がある	ほとんど他のポイントと関係しない																																														
A	B	C	D																																													
身体機能	精神機能	認知機能	生活環境																																													

5人間関係に関する変化の気づきのポイント

5-1人間関係	5-1-1 家族を離れたがる	164	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-2 食事で食事を一人で食べるようになる	165	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-3 対1の会話が続くものの、複数の仲間の中に入れなくなる	166	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-4 1異音がある。音がうるさい	167	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-4 被害妄想がある(詳細なことが他人のせいになる)	168	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-4-2 物取られ妄想(メカ、鍵)がなくなる。自分が別な場所においたのを盗まれた。理解できず泣かれたと認識。お菓子がなくなったという場合もある)	169	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-4-3 「誰かに監視されている」と言う。	170	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	5-1-4-4 その他の被害妄想がある。		1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D

<p>下に掲載されている気づきのポイント毎に、右にある設問(Q1~Q4、Q4-sq)に回答して下さい。</p>	<p>ポイント通しナンバー</p>	<p>Q1: このポイントは、どのような時期に観察されるようになりますか。 (観察のタイミング)</p>	<p>Q2: このポイントは、多くの方に現れる事(観察することができること)ですか。 (観察の一般性の有無)</p>	<p>Q3: このポイントが、観察されると、その後の自立学習下の進み具合はどのようなものになりますか。 (変化の速度)</p>	<p>Q4: このポイントは他の変化ポイントとどの程度関係していると思われますか。 (関係の多さ)</p>	<p>Q5: このポイントは、なぜ起こると思われますか。関係ありそうなものを全てに○をつけてください。 (発生の要因)</p>																																										
		<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※1~5の該当する欄のいずれか一箇所に「○」を記入してください。</p>	<p>※A~Dのうち、当てはまるものを全てに「○」を記入してください。</p>																																										
		<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> <tr><td>自立から学習への移行期</td><td>学習の初期</td><td>学習の中期</td><td>学習の後期</td><td>学習の完了期</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	自立から学習への移行期	学習の初期	学習の中期	学習の後期	学習の完了期	<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> <tr><td>ほとんどの方に共通して現れることと違う</td><td>多くのの方に共通して現れることと違う</td><td>半数程度の方に共通して現れることと違う</td><td>少ないが一定程度の方に現れることと違う</td><td>ほとんど見当たらない</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	ほとんどの方に共通して現れることと違う	多くのの方に共通して現れることと違う	半数程度の方に共通して現れることと違う	少ないが一定程度の方に現れることと違う	ほとんど見当たらない	<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th><th>4</th><th>5</th></tr> <tr><td>非常に急激に低下していく</td><td>急激に低下していく</td><td>徐々に低下していく</td><td>ゆっくりと低下する</td><td>ほとんど低下しない</td></tr> </table>	1	2	3	4	5	非常に急激に低下していく	急激に低下していく	徐々に低下していく	ゆっくりと低下する	ほとんど低下しない	<table border="1"> <tr><th>1</th><th>2</th><th>3</th></tr> <tr><td>多くの他のポイントと関係がある</td><td>少数の他のポイントと関係がある</td><td>ほとんど他のポイントと関係しない</td></tr> </table>	1	2	3	多くの他のポイントと関係がある	少数の他のポイントと関係がある	ほとんど他のポイントと関係しない	<table border="1"> <tr><th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr><td>身体機能</td><td>精神機能</td><td>認知機能</td><td>生活環境</td></tr> </table>	A	B	C	D	身体機能	精神機能
1	2	3	4	5																																												
自立から学習への移行期	学習の初期	学習の中期	学習の後期	学習の完了期																																												
1	2	3	4	5																																												
ほとんどの方に共通して現れることと違う	多くのの方に共通して現れることと違う	半数程度の方に共通して現れることと違う	少ないが一定程度の方に現れることと違う	ほとんど見当たらない																																												
1	2	3	4	5																																												
非常に急激に低下していく	急激に低下していく	徐々に低下していく	ゆっくりと低下する	ほとんど低下しない																																												
1	2	3																																														
多くの他のポイントと関係がある	少数の他のポイントと関係がある	ほとんど他のポイントと関係しない																																														
A	B	C	D																																													
身体機能	精神機能	認知機能	生活環境																																													

6上記に掲載したポイント以外の変化の気づきのポイント(あれば、ご記入ください。)

	171	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	172	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	173	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	174	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	175	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	176	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	177	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	178	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	179	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	180	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	181	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	182	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	183	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	184	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D
	185	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3 4 5	1 2 3	A B C D

第2項 第一回入居者職員アンケート調査票

(1). 入居者調査票

生活状況に関する調査

- この調査は、高齢期に健康で過ごしていただくために、周囲の人たち等が、どのような点に注意していけばよいかについて整理していくための調査です。
- ご回答いただきました内容については、次のように取り扱います。
 - ・ 調査目的以外には使用いたしません。
 - ・ 統計的に処理し、ご回答者が特定されないよう配慮します。
 - ・ 調査への拒否や一部の調査項目への回答拒否も、そのことで不利益が生ずることはありません。
- 調査票の回答期限は、平成24年2月21日(火)です。

問1. あなたのお名前

様 (イニシャルでも結構です)

問2. あなたの性別

- 1.男性 2.女性

問3. あなたは、現在おいくつですか。

- 1.60～64歳 2.65～69歳 3.70～74歳 4.75～79歳 5.80～84歳 6.85歳以上

問4. あなたの健康状態はいかがですか。この中から1つ選んでお答えください。

- 1.良い 2.まあ良い 3.普通 4.あまり良くない 5.良くない

問5. 現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。どちらか選んでお答えください。

- 1.ある 2.ない

問6. あなたは、ご自分の日常生活全般について満足していますか。この中から1つ選んでお答えください。

- 1.満足している 2.まあ満足している 3.やや不満である 4.不満である

問7. あなたは、現在どの程度生きがい(喜びや楽しみ)を感じていますか。この中から1つ選んでお答えください。

- 1.十分感じている 2.多少感じている 3.あまり感じていない
4.まったく感じていない 5.わからない

問8. あなたは、ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていますか。この中から1つ選んでお答えください。

- 1.親しくつきあっている 2.あいさつをする程度 3.付き合いはほとんどない 4.わからない

問9. あなたは、ふだん親しくしている友人・仲間をどの程度もっていますか。この中から1

つ選んでお答えください。

1. 沢山もっている 2. 普通 3. 少しもっている 4. 友人・仲間はもっていない

問10. あなたは、将来の自分の日常生活全般について不安を感じますか。この中から1つ選んでお答えください。

1. とても不安を感じる 2. 多少不安を感じる 3. 不安は感じない

問11. あなたは、おしゃれについてどの程度関心がありますか。この中では、どうですか。この中から1つ選んでお答えください。

1. 積極的におしゃれをしたい 2. ある程度はおしゃれをしたい
3. あまり関心はない 4. 関心はない

問12. 最近の1ヵ月間、あなたの食事（食事とは朝食・昼食・夕食を指し、間食・夜食は除く）の回数を教えてください。この中から1つ選んでお答えください。

1. 毎日かならず3食を食べている 2. 週に1～2食、欠食することがある
3. 週に3～6食、欠食することがある 4. 週に7食以上、欠食することがある

問13. あなたは、何かの用（散歩なども含めます）で出かけることが、週に何日くらいありますか。この中から1つ選んでお答えください。

1. ほとんど毎日 2. 週に4～5日 3. 週に2～3日 4. 週に1日程度 5. 月に2～3日以下

問14. あなたは、日常生活の中で買物や散歩などを含め外出についてはどのように行動していますか。この中から1つ選んでお答えください。

1. 自分から積極的に外出する方である
2. 家族や他人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である
3. 家族や他人から誘われれば仕方なく外出する方である
4. 家族や他人から誘われても極力外出はしない方である
5. 外出することはほとんどない

問15. あなたは、ご自身が日ごろ暮らしていく中で、特に心がけている点はどこでしょうか。この中から、主なものを3つまで選び、○をつけてください。

1. 衣服（時候、場所、目的にあった服、おしゃれなど）
2. 食事（食べ物、回数、時間など）
3. 住まい（清掃、補修、庭や外周の管理、温度調節など）
4. 家族・親戚とのつきあい
5. 近隣、友人、仲間とのつきあい
6. 外に出ること
7. 健康管理（睡眠、運動、健康診断、早期治療など）
8. 仕事（職業、家業）
9. 家事（掃除、洗濯など家の中、家のまわりの仕事）
10. 社会奉仕、ボランティア活動
11. 教養、学習、趣味、スポーツ活動
12. その他
13. 特にない

問16. あなたは、次にあげるようなことができますか

質問内容	回答欄	
①バスや電車など公共交通機関を使って外出できますか？	1.出来る	2.出来ない
②日用品の買い物ができますか？	1.出来る	2.出来ない
③自分で食事の用意ができますか？	1.出来る	2.出来ない
④請求書などの支払いができますか？	1.出来る	2.出来ない
⑤預貯金の出し入れができますか？	1.出来る	2.出来ない
⑥年金などの書類が書けますか？	1.出来る	2.出来ない
⑦新聞を読みますか？	1.出来る	2.出来ない
⑧雑誌・書籍を読みますか？	1.出来る	2.出来ない
⑨健康に関心がありますか？	1.出来る	2.出来ない
⑩友人を訪問しますか？	1.出来る	2.出来ない
⑪家族の相談にのりますか？	1.出来る	2.出来ない
⑫病人を見舞いますか？	1.出来る	2.出来ない
⑬若い人に話しかけますか？	1.出来る	2.出来ない

問17. あなたは、次にあげるようなことを自分で感じるがありますか

質問内容	回答欄	
生活リズムが乱れてきた	1.はい	2.いいえ
こだわりがなくなった	1.はい	2.いいえ
行動範囲が狭くなった	1.はい	2.いいえ
同じ事を繰り返す	1.はい	2.いいえ
食事のペースが変わった	1.はい	2.いいえ
食べ物の好みが変わった	1.はい	2.いいえ
食事中に、むせ込むことが多くなった	1.はい	2.いいえ
食べこぼすことが時々ある	1.はい	2.いいえ
歩く時に、頻繁に物につかまる	1.はい	2.いいえ
歩く速さがゆっくりになった	1.はい	2.いいえ
足の出、あげ方が今までと違う（歩幅が狭くなった）	1.はい	2.いいえ
歩いている時に、ふらつくことがある	1.はい	2.いいえ
階段が怖い	1.はい	2.いいえ
閉じこもりがち	1.はい	2.いいえ
外出先で忘れ物をしてきて、そのことに連絡があるまで気がつかないことが何度もある	1.はい	2.いいえ
声の質が今までと違うように感じる	1.はい	2.いいえ
同じ会話を繰り返す	1.はい	2.いいえ
表情がとぼしいかもしれない	1.はい	2.いいえ
気分の落ち込みが大きい	1.はい	2.いいえ
体臭が強くなった気がする	1.はい	2.いいえ
髪・髭を整えるのが億劫	1.はい	2.いいえ
口臭が強くなった気がする	1.はい	2.いいえ
化粧が上手く行かない	1.はい	2.いいえ
洋服に無頓着になった	1.はい	2.いいえ
薬をよく飲み間違える 飲んだかどうか忘れる	1.はい	2.いいえ

店で同じものを何度も購入してしまった	1.はい	2.いいえ
買い物に行かなくなる	1.はい	2.いいえ
同じメニューの料理ばかり作る	1.はい	2.いいえ
部屋の掃除が億劫	1.はい	2.いいえ
流し台に洗い物が溜まっている	1.はい	2.いいえ
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	1.はい	2.いいえ
買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	1.はい	2.いいえ
約束を忘れる（行事など）	1.はい	2.いいえ
駐車場への駐車が困難に感じられる	1.はい	2.いいえ
家族に頻繁に電話をする	1.はい	2.いいえ
照明を点けずに過ごすことがある	1.はい	2.いいえ
家族と合うのが嫌になってきた	1.はい	2.いいえ

質問は、以上です。
ご回答ありがとうございます。

(2). 職員調査票

○この調査票は、ご入居者調査票に回答した特定の1名の方について、その方を念頭に回答して下さい。

問18. この調査票の回答にあたり、念頭においたご入居者調査票の回答者（ご入居者）はどなたですか

施設名 _____

_____ 様（他の方と区別できればイニシャルで結構です）のことに關して回答

問19. そのご入居者の現在の健康状態はいかがですか。（○はひとつ）

1. 良 い 2. まあ良 い 3. 普 通 4. あまり良くない 5. 良くない

問20. そのご入居者は、現在、健康上の問題で日常生活に何か影響がありますか。（○はひとつ）

1. ある 2. ない

問21. そのご入居者は、ご自分の日常生活全般について満足していると思いませんか。（○はひとつ）

1. 満足している 2. まあ満足している 3. やや不満である 4. 不満である

問22. そのご入居者は、現在どの程度生きがい（喜びや楽しみ）を感じていると思いませんか。（○はひとつ）

1. 十分感じている 2. 多少感じている 3. あまり感じていない
4. まったく感じていない 5. わからない

問23. そのご入居者は、ふだん、近所の人とどの程度のつきあいをしていると思いませんか。（○はひとつ）

1. 親しくつきあっている 2. あいさつをする程度 3. つきあいはほとんどない 4. わからない

問24. そのご入居者は、ふだん親しくしている友人・仲間をどの程度もっていると思いませんか。（○はひとつ）

1. 沢山もっている 2. 普通 3. 少しもっている 4. 友人・仲間はもっていない 5. わからない

問25. そのご入居者は、将来の自分の日常生活全般について不安を感じていると思いませんか。（○はひとつ）

1. とても不安を感じる 2. 多少不安を感じる 3. 不安は感じない

問26. そのご入居者は、おしゃれについてどの程度関心があると思いませんか。（○はひとつ）

1. 積極的におしゃれをしたい 2. ある程度はおしゃれをしたい
3. あまり関心はない 4. 関心はない

問27. 最近の1ヵ月間、そのご入居者の食事（食事とは朝食・昼食・夕食を指し、間食・夜食は除

く)の回数を教えてください。(○はひとつ)

- 1.毎日かならず3食を食べている 2.週に1～2食、欠食することがある
3.週に3～6食、欠食することがある 4.週に7食以上、欠食することがある

問28. そのご入居者は、何かの用事(散歩なども含めます)で出かけることが、週に何日くらいありますか。(○はひとつ)

- 1.ほとんど毎日 2.週に4～5日 3.週に2～3日 4.週に1日程度 5.月に2～3日以下

問29. そのご入居者は、日常生活の中で買物や散歩などを含め外出についてはどのように行動していますか。(○はひとつ)

- 1.自分から積極的に外出する方である
2.家族や他人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である
3.家族や他人から誘われれば仕方なく外出する方である
4.家族や他人から誘われても極力外出はしない方である
5.外出することはほとんどない

問30. そのご入居者は、ご自身が日ごろ暮らしていく中で、特に心がけている点はどこでしょうか。(○は3つまで)

- 1.衣服(時候、場所、目的にあった服、おしゃれなど)
2.食事(食べ物、回数、時間など)
3.住まい(清掃、補修、庭や外周の管理、温度調節など)
4.家族・親戚とのつきあい
5.近隣、友人、仲間とのつきあい
6.外に出ること
7.健康管理(睡眠、運動、健康診断、早期治療など)
8.仕事(職業、家業)
9.家事(掃除、洗濯など家の中、家のまわりの仕事)
10.社会奉仕、ボランティア活動
11.教養、学習、趣味、スポーツ活動
12.その他
13.特にない

問31. そのご入居者は、次にあげるようなことができそうですか

質問内容	解答欄	
①バスや電車など公共交通機関を使って外出できますか?	1.出来る	2.出来ない
②日用品の買い物ができますか?	1.出来る	2.出来ない
③自分で食事の用意ができますか?	1.出来る	2.出来ない
④請求書などの支払いができますか?	1.出来る	2.出来ない
⑤預貯金の出し入れができますか?	1.出来る	2.出来ない
⑥年金などの書類が書けますか?	1.出来る	2.出来ない
⑦新聞を読みますか?	1.出来る	2.出来ない
⑧雑誌・書籍を読みますか?	1.出来る	2.出来ない
⑨健康に関心がありますか?	1.出来る	2.出来ない
⑩友人を訪問しますか?	1.出来る	2.出来ない
⑪家族の相談にのりますか?	1.出来る	2.出来ない
⑫病人を見舞いますか?	1.出来る	2.出来ない

⑬若い人に話しかけますか？

1.出来る

2.出来ない

問32. そのご入居者は、次にあげるような感じが感じられますか

質問内容	解答欄
生活リズムの乱れが何度も見られる	1.はい 2.いいえ
こだわりがなくなる 気にしなくなる	1.はい 2.いいえ
行動範囲が狭くなる	1.はい 2.いいえ
同じ事を繰り返す	1.はい 2.いいえ
食事のペースが変わる	1.はい 2.いいえ
食べ物の好みが変わる	1.はい 2.いいえ
食事中に、むせ込むことが多くなる	1.はい 2.いいえ
食べこぼしが目立つ	1.はい 2.いいえ
歩く時に、頻繁に物につかまる	1.はい 2.いいえ
歩く速さがゆっくりになった	1.はい 2.いいえ
足の出、あげ方が今までと違う（歩幅が狭い、引きずる）	1.はい 2.いいえ
歩いている時に、ふらつきがある	1.はい 2.いいえ
階段を怖がる（嫌がる）	1.はい 2.いいえ
閉じこもりがち	1.はい 2.いいえ
外出先で忘れ物をしてきて、そのことに連絡があるまで気がつかないことが複数回みられる	1.はい 2.いいえ
声の質が今までと違う（例えば、電話の声のトーンが今までと違う。）	1.はい 2.いいえ
同じ会話を繰り返す	1.はい 2.いいえ
表情がとぼしくなる	1.はい 2.いいえ
気分の落ち込みが大きくなる	1.はい 2.いいえ
体臭が強くなる	1.はい 2.いいえ
髪・髭の整容ができていない	1.はい 2.いいえ
口臭が強くなる	1.はい 2.いいえ
化粧が上手く行かなくなる	1.はい 2.いいえ
洋服に無頓着になる	1.はい 2.いいえ
衣類臭がする（汚れの匂い、尿臭）	1.はい 2.いいえ
薬をよく飲み間違える 飲んだかどうか忘れる	1.はい 2.いいえ
店で同じものを何度も購入する	1.はい 2.いいえ
買い物に行かなくなる	1.はい 2.いいえ
同じメニューの料理ばかり作る	1.はい 2.いいえ
部屋の掃除ができない	1.はい 2.いいえ
流し台に洗い物が溜まっている	1.はい 2.いいえ
印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	1.はい 2.いいえ
買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	1.はい 2.いいえ
約束を忘れる（行事など）	1.はい 2.いいえ
駐車場への駐車が困難 斜めになっている。	1.はい 2.いいえ
（家族への）電話が頻回になる	1.はい 2.いいえ
照明を点けない（電球が切れていてもそのまま）	1.はい 2.いいえ
家族を煙たがる	1.はい 2.いいえ

問33. 　そのご入居者に対する考えや対応の仕方についてお尋ねします。

(1). 　どうすれば、このご入居者の今の状態の維持や生活の質の向上につながるとおもいますか？

(2). 　そのためにはそのご入居者の何に注意し、どのような関わりをしようと思えますか？

第3項 第二回入居者職員アンケート調査票

(1). 入居者調査票

生活状況に関する調査

- この調査は、高齢期に健康で過ごしていただくために、周囲の人たち等が、どのような点に注意していけばよいかについて整理していくための調査です。
- ご回答いただきました内容については、次のように取り扱います。
 - ・ 調査目的以外には使用いたしません。
 - ・ 統計的に処理し、ご回答者が特定されないよう配慮します。
 - ・ 調査への拒否や一部の調査項目への回答拒否も、そのことで不利益が生ずることはありません。
- 調査票の回答期限は、平成24年3月8日（木）です。

調査者：財団法人日本老人福祉財団

問1. あなたのお名前

様（イニシャルでも結構です）

問2. あなたは、次にあげるようなことができますか

質問内容	回答欄
A) バスや電車で1人で外出していますか	0.はい 1.いいえ
B) 日用品の買物をしていますか	0.はい 1.いいえ
C) 預貯金の出し入れをしていますか	0.はい 1.いいえ
D) 友人の家を訪ねていますか	0.はい 1.いいえ
E) 家族や友人の相談にのっていますか	0.はい 1.いいえ
F) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0.はい 1.いいえ
G) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0.はい 1.いいえ
H) 15分位続けて歩いていますか	0.はい 1.いいえ
I) この1年間に転んだことがありますか	1.はい 0.いいえ
J) 転倒に対する不安は大きいですか	1.はい 0.いいえ
K) 6ヵ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい 0.いいえ
L) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい 0.いいえ
M) お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい 0.いいえ
N) 口の渇きが気になりますか	1.はい 0.いいえ
O) 週に1回以上は外出していますか	0.はい 1.いいえ
P) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい 0.いいえ
Q) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	1.はい 0.いいえ
R) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0.はい 1.いいえ
S) 今日が何月何日かわからない時がありますか	1.はい 0.いいえ
T) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1.はい 0.いいえ
U) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1.はい 0.いいえ
V) (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1.はい 0.いいえ
W) (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1.はい 0.いいえ
X) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1.はい 0.いいえ

(裏面に続きます。)

問3. あなたは、次あげるようなことを自分で感じるがありますか

質問内容	解答欄
1. 生活リズムが乱れてきた	1.はい 0.いいえ
2. 最近は何かと頼ることが多くなってきた	1.はい 0.いいえ
3. 食事の量が変わった(減った)	1.はい 0.いいえ
4. 食事のペースが変わった	1.はい 0.いいえ
5. 食事のキャンセルが増えた	1.はい 0.いいえ
6. 食事パターン(食堂に行く頻度)が変わった	1.はい 0.いいえ
7. 立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	1.はい 0.いいえ
8. 歩く速さがゆっくりになった	1.はい 0.いいえ
9. 自分の足音が変わってきたように思う	1.はい 0.いいえ
10. 閉じこもりがちになっている	1.はい 0.いいえ
11. 声の質が今までと違うように感じる	1.はい 0.いいえ
12. 発言に元気(覇気)がないと言われるようになった。	1.はい 0.いいえ
13. 挨拶されたときに返事するのが面倒に感じるようになってきた	1.はい 0.いいえ
14. 弱気になってきた	1.はい 0.いいえ
15. 髪を染めないようになった	1.はい 0.いいえ
16. 髭を剃るのが面倒に感じる	1.はい 0.いいえ
17. ファンデーションが上手く塗れない	1.はい 0.いいえ
18. 口紅が上手く塗れない	1.はい 0.いいえ
19. 化粧が億劫	1.はい 0.いいえ
20. 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない	1.はい 0.いいえ
21. 部屋の整頓はするものの掃除はしていない	1.はい 0.いいえ
22. 部屋に埃のたまっているところがある	1.はい 0.いいえ
23. 部屋に衣服が散らかっている	1.はい 0.いいえ
24. 衣類や寝具(シーツ等)の交換が出来ていない	1.はい 0.いいえ
25. 流し台に洗い物が溜まっている	1.はい 0.いいえ
26. 生ゴミなど捨てるのを忘れて、たまってしまうことがある	1.はい 0.いいえ
27. 新聞を読まずに積んだままになっている	1.はい 0.いいえ
28. 書類の整理が面倒になってきた	1.はい 0.いいえ
29. 仏壇などの管理が大変になってきた	1.はい 0.いいえ
30. 季節に合わせて部屋の飾り(造花など)を変えることをしなくなった	1.はい 0.いいえ
31. (忘れないように)書類を並べている	1.はい 0.いいえ
32. 書類に多くのメモ書きをしている	1.はい 0.いいえ
33. 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	1.はい 0.いいえ
34. 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらう	1.はい 0.いいえ
35. 自動車に、傷やぶつけた跡がある	1.はい 0.いいえ
36. 自動車を駐車場に駐車するのが、大変になってきた。(まっすぐに駐車するのが難しく感じることもある。)	1.はい 0.いいえ
37. 電気器具をつけっぱなしにしてしまことが時々ある	1.はい 0.いいえ
38. 照明をつけっぱなしにしてしまことが時々ある	1.はい 0.いいえ
39. 家族と合うのが嫌になってきた	1.はい 0.いいえ
40. 食堂で食事を一人で食べるようになった	1.はい 0.いいえ

質問は、以上です。ご回答ありがとうございました。

(2). 職員調査票

○この調査票は、ご入居者調査票に回答した特定の1名の方について、その方を念頭に回答して下さい。

問1. この調査票の回答にあたり、念頭においたご入居者調査票の回答者（ご入居者）はどなたですか

施設名 _____

_____ 様（他の方と区別できればイニシャルで結構です）のことにに関して回答

問2. そのご入居者は、次にあげるようなことができそうですか

質問内容	回答欄
A) バスや電車で1人で外出していますか	0.はい 1.いいえ
B) 日用品の買物をしていますか	0.はい 1.いいえ
C) 預貯金の出し入れをしていますか	0.はい 1.いいえ
D) 友人の家を訪ねていますか	0.はい 1.いいえ
E) 家族や友人の相談にのっていますか	0.はい 1.いいえ
F) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	0.はい 1.いいえ
G) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0.はい 1.いいえ
H) 15分位続けて歩いていますか	0.はい 1.いいえ
I) この1年間に転んだことがありますか	1.はい 0.いいえ
J) 転倒に対する不安は大きいですか	1.はい 0.いいえ
K) 6ヵ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	1.はい 0.いいえ
L) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1.はい 0.いいえ
M) お茶や汁物等でむせることがありますか	1.はい 0.いいえ
N) 口の渇きが気になりますか	1.はい 0.いいえ
O) 週に1回以上は外出していますか	0.はい 1.いいえ
P) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1.はい 0.いいえ
Q) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	1.はい 0.いいえ
R) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0.はい 1.いいえ
S) 今日が何月何日かわからない時がありますか	1.はい 0.いいえ
T) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	1.はい 0.いいえ
U) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1.はい 0.いいえ
V) (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	1.はい 0.いいえ
W) (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	1.はい 0.いいえ
X) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	1.はい 0.いいえ

問3. そのご入居者は、次にあげるような様子が感じられますか

質問内容	解答欄
1. 生活リズムの乱れが見られる（単発でない繰り返し見られる乱れ）	1.はい 0.いいえ
2. 今まで自立生活をしていたのに、何かと頼り始めた	1.はい 0.いいえ
3. 食事の量が変わった（減った）	1.はい 0.いいえ
4. 食事のペースが変わった	1.はい 0.いいえ
5. 食事のキャンセルが増えた	1.はい 0.いいえ
6. 食事パターン（食堂に来る頻度）が変わった	1.はい 0.いいえ
7. 立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった	1.はい 0.いいえ

8. 歩く速さがゆっくりになった	1.はい	0.いいえ
9. 足音が変わってきた	1.はい	0.いいえ
10. 閉じこもりがちになっている	1.はい	0.いいえ
11. 声の質が今までと違う（例えば、電話の声のトーンが今までと違う）	1.はい	0.いいえ
12. 発言に覇気がない（攻撃的であった方が穏やかになる、淡々と話す）	1.はい	0.いいえ
13. こちらの挨拶に対する返事の仕方が今までと違ってきた	1.はい	0.いいえ
14. 弱気になってきた	1.はい	0.いいえ
15. 白髪が目立つ（髪を染めない）	1.はい	0.いいえ
16. 無精髭がある	1.はい	0.いいえ
17. ファンデーションにムラがある	1.はい	0.いいえ
18. 口紅が上手く塗れていない	1.はい	0.いいえ
19. 化粧していない	1.はい	0.いいえ
20. 部屋の中の自分の居場所の周りしか掃除しない	1.はい	0.いいえ
21. 整頓してあるのに掃除していない	1.はい	0.いいえ
22. 埃のたまっているところがある	1.はい	0.いいえ
23. 衣服が散らかっている	1.はい	0.いいえ
24. 衣類や寝具（シーツ等）の交換が出来ていない	1.はい	0.いいえ
25. 流し台に洗い物が溜まっている	1.はい	0.いいえ
26. 室内に生ゴミの臭いがする	1.はい	0.いいえ
27. 身の回りの整理を始めた	1.はい	0.いいえ
28. 新聞を読まずに積んだままになっている	1.はい	0.いいえ
29. 書類の整理ができなくなってきた	1.はい	0.いいえ
30. 仏壇などの管理をしなくなってきた	1.はい	0.いいえ
31. 季節に合わせて部屋の飾り（造花など）を変えることをしなくなった	1.はい	0.いいえ
32. 書類が並べてある（忘れてはいけないという観念か）	1.はい	0.いいえ
33. 書類に多くのメモ書きがある	1.はい	0.いいえ
34. 印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	1.はい	0.いいえ
35. 買物の時、額の大きなお金を出して、釣りをもらうようになった	1.はい	0.いいえ
36. 自動車に、傷やぶつけた跡がある	1.はい	0.いいえ
37. 駐車場への駐車が困難・斜めになっている	1.はい	0.いいえ
38. 電気器具のつけっぱなしがある	1.はい	0.いいえ
39. 照明のつけっぱなしがある	1.はい	0.いいえ
40. 居室内はきれいに整理されているのに、一箇所だけ普通と異なるように思われるところがある	1.はい	0.いいえ
41. 家族を煙たがる	1.はい	0.いいえ
42. 食堂で食事を一人で食べるようになった	1.はい	0.いいえ

問4. そのご入居者に、どのような関わりをすれば、現在の状態の維持や生活の質の維持・向上に繋がるとお思いますか。現在行なっていること、あるいは、これからやってみようと思うことを、具体的にご記入ください。

【現在おこなっていること】
【これから、やってみようと思うこと】

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

第2節 アンケート集計表

第1項 指標アンケート

7 ページあり。横長の表を 90 度左回転して添付する。

第2項 入居者アンケート

入居者の要介護状況

		合計	移行期	自立	無回答
全体	N	60	30	30	0
	%	100.0	50.0	50.0	0.0
浜松	N	20	10	10	0
	%	100.0	50.0	50.0	0.0
湯河原	N	20	10	10	0
	%	100.0	50.0	50.0	0.0
佐倉	N	20	10	10	0
	%	100.0	50.0	50.0	0.0

性別

		合計	男性	女性	無回答
全体	N	60	21	38	1
	%	100.0	35.0	63.3	1.7
移行期	N	30	10	19	1
	%	100.0	33.3	63.3	3.3
自立	N	30	11	19	0
	%	100.0	36.7	63.3	0.0

年齢

		合計	60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳以上	無回答
全体	N	60	0	1	7	14	17	20	1
	%	100.0	0.0	1.7	11.7	23.3	28.3	33.3	1.7
移行期	N	30	0	0	0	3	9	17	1
	%	100.0	0.0	0.0	0.0	10.0	30.0	56.7	3.3
自立	N	30	0	1	7	11	8	3	0
	%	100.0	0.0	3.3	23.3	36.7	26.7	10.0	0.0

健康状態

		合計	良い	まあ良い	普通	あまり良くない	良くない	無回答
全体	N	60	10	21	22	3	4	0
	%	100.0	16.7	35.0	36.7	5.0	6.7	0.0
移行期	N	30	2	8	13	3	4	0
	%	100.0	6.7	26.7	43.3	10.0	13.3	0.0
自立	N	30	8	13	9	0	0	0
	%	100.0	26.7	43.3	30.0	0.0	0.0	0.0

健康問題の日常生活への影響の有無

		合計	ある	ない	無回答
全体	N	60	19	41	0
	%	100.0	31.7	68.3	0.0
移行期	N	30	15	15	0
	%	100.0	50.0	50.0	0.0
自立	N	30	4	26	0
	%	100.0	13.3	86.7	0.0

日常生活全般についての満足感

		合計	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
全体	N	60	21	34	3	2	0
	%	100.0	35.0	56.7	5.0	3.3	0.0
移行期	N	30	7	18	3	2	0
	%	100.0	23.3	60.0	10.0	6.7	0.0
自立	N	30	14	16	0	0	0
	%	100.0	46.7	53.3	0.0	0.0	0.0

生きがい

		合計	十分感じている	多少感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	無回答
全体	N	60	26	27	5	0	2	0
	%	100.0	43.3	45.0	8.3	0.0	3.3	0.0
移行期	N	30	6	19	3	0	2	0
	%	100.0	20.0	63.3	10.0	0.0	6.7	0.0
自立	N	30	20	8	2	0	0	0
	%	100.0	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0

近所の人とのつきあい

		合計	親しくつきあっている	あいさつをする程度	付き合いはほとんどない	わからない	無回答
全体	N	60	27	31	1	0	1
	%	100.0	45.0	51.7	1.7	0.0	1.7
移行期	N	30	9	19	1	0	1
	%	100.0	30.0	63.3	3.3	0.0	3.3
自立	N	30	18	12	0	0	0
	%	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0

親しい友人・仲間

		合計	沢山もっている	普通	少しもっている	友人・仲間をもっていない	無回答
全体	N	60	8	30	18	4	0
	%	100.0	13.3	50.0	30.0	6.7	0.0
移行期	N	30	0	14	13	3	0
	%	100.0	0.0	46.7	43.3	10.0	0.0
自立	N	30	8	16	5	1	0
	%	100.0	26.7	53.3	16.7	3.3	0.0

将来の日常生活全般についての不安感

		合計	とても不安を感じる	多少不安を感じる	不安は感じない	無回答
全体	N	60	4	34	21	1
	%	100.0	6.7	56.7	35.0	1.7
移行期	N	30	4	16	9	1
	%	100.0	13.3	53.3	30.0	3.3
自立	N	30	0	18	12	0
	%	100.0	0.0	60.0	40.0	0.0

おしゃれについての関心

		合計	積極的に おしゃれ をしたい	ある程度 はおしゃ れをした い	あまり関 心はない	関心はな い	無回答
全体	N	60	6	35	12	7	0
	%	100.0	10.0	58.3	20.0	11.7	0.0
移行期	N	30	1	17	6	6	0
	%	100.0	3.3	56.7	20.0	20.0	0.0
自立	N	30	5	18	6	1	0
	%	100.0	16.7	60.0	20.0	3.3	0.0

最近1ヵ月間の食事回数

		合計	毎日かな らず3食 を食べて いる	週に1～ 2食、欠食 すること がある	週に3～ 6食、欠食 すること がある	週に7食 以上、欠食 すること がある	無回答
全体	N	60	55	3	0	2	0
	%	100.0	91.7	5.0	0.0	3.3	0.0
移行期	N	30	28	1	0	1	0
	%	100.0	93.3	3.3	0.0	3.3	0.0
自立	N	30	27	2	0	1	0
	%	100.0	90.0	6.7	0.0	3.3	0.0

外出頻度

		合計	ほとんど 毎日	週に4～ 5日	週に2～ 3日	週に1日 程度	月に2～ 3日以下	無回答
全体	N	60	19	12	18	6	5	0
	%	100.0	31.7	20.0	30.0	10.0	8.3	0.0
移行期	N	30	6	6	8	5	5	0
	%	100.0	20.0	20.0	26.7	16.7	16.7	0.0
自立	N	30	13	6	10	1	0	0
	%	100.0	43.3	20.0	33.3	3.3	0.0	0.0

外出についての積極性

		合計	自分から 積極的に 外出する 方である	家族や他 人から誘 われたり、 仲間がい れば外出 する方だ る	家族や他 人から誘 われれば 仕方なく 外出する 方である	家族や他 人から誘 われても 極力外出 はしない 方である	外出する ことはほ とんどな い	無回答
全体	N	60	43	7	3	1	6	0
	%	100.0	71.7	11.7	5.0	1.7	10.0	0.0
移行期	N	30	17	3	3	1	6	0
	%	100.0	56.7	10.0	10.0	3.3	20.0	0.0
自立	N	30	26	4	0	0	0	0
	%	100.0	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0

日常生活で特に心がけている点（複数回答）

		合計	衣服	食事	住まい	家族・親戚とのつきあい	近隣・友人・仲間とのつきあい	外に出ること	健康管理
全体	N	60	16	31	4	7	12	11	41
	%	100.0	26.7	51.7	6.7	11.7	20.0	18.3	68.3
移行期	N	30	8	13	3	6	2	4	21
	%	100.0	26.7	43.3	10.0	20.0	6.7	13.3	70.0
自立	N	30	8	18	1	1	10	7	20
	%	100.0	26.7	60.0	3.3	3.3	33.3	23.3	66.7
仕事	家事	社会奉仕・ボランティア活動	教養・学習・趣味・スポーツ活動	その他	特にない	無回答			
0	6	1	20	0	3	2			
0.0	10.0	1.7	33.3	0.0	5.0	3.3			
0	3	0	6	0	3	0			
0.0	10.0	0.0	20.0	0.0	10.0	0.0			
0	3	1	14	0	0	2			
0.0	10.0	3.3	46.7	0.0	0.0	6.7			

できない行為（1回目）（複数回答）

		合計	公共交通機関を使った外出	日用品の買い物	食事の用意	請求書などの支払い	預貯金の出し入れ	年金などの書類記入	新聞を読むこと
全体	N	60	8	3	11	2	1	3	3
	%	100.0	13.3	5.0	18.3	3.3	1.7	5.0	5.0
移行期	N	30	8	3	10	2	1	3	2
	%	100.0	26.7	10.0	33.3	6.7	3.3	10.0	6.7
自立	N	30	0	0	1	0	0	0	1
	%	100.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	3.3
雑誌・書籍を読むこと	健康に関心をもつこと	友人を訪問	家族の相談にのること	病人の見舞い	若い人に話しかけること	できない行為はない	無回答		
6	3	17	11	9	7	35	0		
10.0	5.0	28.3	18.3	15.0	11.7	58.3	0.0		
6	3	15	10	8	5	9	0		
20.0	10.0	50.0	33.3	26.7	16.7	30.0	0.0		
0	0	2	1	1	2	26	0		
0.0	0.0	6.7	3.3	3.3	6.7	86.7	0.0		

自覚している行動・感覚（1回目）（複数回答）

		合計	生活リズム が乱れてきた	こだわりが なくなった	行動範囲が 狭くなった	同じ事を繰 り返す	食事のペー スが変った	食べ物の好 みが変った	食事中にむ せ込むこと が多くなっ た
全体	N	60	4	24	32	10	7	6	11
	%	100.0	6.7	40.0	53.3	16.7	11.7	10.0	18.3
移行期	N	30	4	15	24	9	4	4	9
	%	100.0	13.3	50.0	80.0	30.0	13.3	13.3	30.0
自立	N	30	0	9	8	1	3	2	2
	%	100.0	0.0	30.0	26.7	3.3	10.0	6.7	6.7
食べこぼす ことが時々 ある	歩く時に頻 繁に物につ かまる	歩く速さが ゆっくりに なった	足の出やあ げ方が今ま でと違う	歩いている 時にふらつ くことがある	階段が怖い	閉じこもり がち	外出先で忘れ 物をして連絡 があるまで気 がつかないこ とが何度もあ る	声の質が今 までと違う ように感じる	
19 31.7	20 33.3	32 53.3	29 48.3	19 31.7	22 36.7	8 13.3	2 3.3	11 18.3	
13 43.3	16 53.3	20 66.7	20 66.7	14 46.7	15 50.0	8 26.7	1 3.3	9 30.0	
6 20.0	4 13.3	12 40.0	9 30.0	5 16.7	7 23.3	0 0.0	1 3.3	2 6.7	
同じ会話を繰 り返す	表情がと ぼしいか もしれない	気分の落ち 込みが 大きい	体臭が強 くなった 気がする	髪・髭を整 えるのが 億劫	口臭が強 くなった 気がする	化粧が上 手く行か ない	洋服に無 頓着にな った	菓をよく 飲み間違 える・飲ん だかどう か忘れる	
9 15.0	8 13.3	7 11.7	3 5.0	4 6.7	5 8.3	4 6.7	7 11.7	4 6.7	
7 23.3	7 23.3	7 23.3	2 6.7	4 13.3	2 6.7	2 6.7	5 16.7	3 10.0	
2 6.7	1 3.3	0 0.0	1 3.3	0 0.0	3 10.0	2 6.7	2 6.7	1 3.3	
店で同じもの を何度も 購入してしま った	買い物に行 かなくなる	同じメニュー の料理ば かり作る	部屋の掃除 が億劫	流し台に洗 い物が溜ま っている	印鑑や保険証 など使用頻度 の低いものが 直ぐに出てこ ない	買物の時額 の大きなお 金を出して 釣りをもら う	行事などの 約束を忘れ る	駐車場への 駐車が困難 に感じられ る	
1 1.7	8 13.3	3 5.0	33 55.0	2 3.3	3 5.0	9 15.0	2 3.3	1 1.7	
1 3.3	8 26.7	1 3.3	21 70.0	2 6.7	2 6.7	5 16.7	2 6.7	1 3.3	
0 0.0	0 0.0	2 6.7	12 40.0	0 0.0	1 3.3	4 13.3	0 0.0	0 0.0	
家族に頻 繁に電話 をする	照明を点 けずに過 ごすこと がある	家族と合 うのが嫌 になって きた	自覚して いる行 動・感覚は ない	無回答					
10 16.7	2 3.3	0 0.0	5 8.3	1 1.7					
5 16.7	2 6.7	0 0.0	0 0.0	1 3.3					
5 16.7	0 0.0	0 0.0	5 16.7	0 0.0					

できない行為（2回目）（複数回答）

		合計	バスや電 車で1人で 外出する	日用品の 買物をする	預貯金の 出し入れ をする	友人の家 を訪ねる	家族や友 人の相談 にのる	階段を手 すりや壁 をつたわ らずに昇 る	椅子に座 った状態 から何も つかまら ずに立ち 上がる
全体	N %	60 100.0	11 18.3	6 10.0	3 5.0	24 40.0	12 20.0	25 41.7	16 26.7
移行期	N %	30 100.0	11 36.7	6 20.0	2 6.7	21 70.0	11 36.7	18 60.0	12 40.0
自立	N %	30 100.0	0 0.0	0 0.0	1 3.3	3 10.0	1 3.3	7 23.3	4 13.3
15分位続 けて歩く	この1年間 に転んだ ことがある	転倒に対 する不安 は大きい	6ヵ月間で 2~3kg以 上の体重 減少があ る	半年前に 比べて固 いものが 食べにく くなる	お茶や汁 物等でむ せること がある	口の渴き が気になる	週に1回 以上は外 出してい る	昨年と比 べて外出 の回数が 減ってい る	
10 16.7	14 23.3	33 55.0	6 10.0	9 15.0	13 21.7	14 23.3	11 18.3	19 31.7	
8 26.7	11 36.7	20 66.7	3 10.0	5 16.7	7 23.3	10 33.3	11 36.7	15 50.0	
2 6.7	3 10.0	13 43.3	3 10.0	4 13.3	6 20.0	4 13.3	0 0.0	4 13.3	
周りの人 から「いつ も同じ事 を聞く」な どの物忘 れがある と言われ る	自分で電 話番号を 調べて、電 話をかけ る	今日が何 月何日か わからない 時がある	ここ2週 間、毎日の 生活に充 実感がな い	ここ2週 間、これま で楽しんで やれて いたこと が楽しめ なくなる	ここ2週 間、以前は 楽にでき ていたこと が今では おっくう に感じる				
3 5.0	5 8.3	8 13.3	6 10.0	4 6.7	19 31.7				
3 10.0	4 13.3	7 23.3	6 20.0	4 13.3	16 53.3				
0 0.0	1 3.3	1 3.3	0 0.0	0 0.0	3 10.0				
ここ2週 間、自分が 役に立つ 人間だと 思えない	ここ2週 間、わけも なく疲れ たように 感じる	できない 行為はな い	無回答						
14 23.3	11 18.3	8 13.3	0 0.0						
10 33.3	10 33.3	1 3.3	0 0.0						
4 13.3	1 3.3	7 23.3	0 0.0						

自覚している行動・感覚（2回目）（複数回答）

		合計	生活リズムが乱れてきた	最近は何かと頼ることが多くなってきた	食事の量が変わった（減った）	食事のペースが変わった	食事のキャンセルが増えた	食事パターン（食堂に行く頻度）が変わった	立ち話中に直ぐに手すりにつかまるようになった
全体	N	60	4	12	13	5	5	10	11
	%	100.0	6.7	20.0	21.7	8.3	8.3	16.7	18.3
移行期	N	30	3	10	8	3	2	7	10
	%	100.0	10.0	33.3	26.7	10.0	6.7	23.3	33.3
自立	N	30	1	2	5	2	3	3	1
	%	100.0	3.3	6.7	16.7	6.7	10.0	10.0	3.3
歩く速さがゆっくりになった	自分の足音が変わってきたように思う	閉じこもりがちになっている	声の質が今までと違うように感じる	発言に元気・覇気がないと言われるようになった	挨拶されたときに返事するのが面倒に感じるようになった	弱気になってきた	髪を染めないようになった	髭を剃るのが面倒に感じる	
28 46.7	11 18.3	7 11.7	5 8.3	2 3.3	0 0.0	11 18.3	10 16.7	4 6.7	
15 50.0	8 26.7	6 20.0	2 6.7	2 6.7	0 0.0	10 33.3	6 20.0	4 13.3	
13 43.3	3 10.0	1 3.3	3 10.0	0 0.0	0 0.0	1 3.3	4 13.3	0 0.0	
ファンデーションが上手く塗れない	口紅が上手く塗れない	化粧が億劫	自分の居場所の周りしか掃除しない	整頓はするものの掃除はしていない	埃のたまっているところがある	衣服が散らかっている	衣類や寝具の交換が出ていない	流し台に洗い物が溜まっている	
1 1.7	0 0.0	11 18.3	15 25.0	16 26.7	26 43.3	7 11.7	5 8.3	3 5.0	
0 0.0	0 0.0	7 23.3	11 36.7	13 43.3	15 50.0	4 13.3	5 16.7	3 10.0	
1 3.3	0 0.0	4 13.3	4 13.3	3 10.0	11 36.7	3 10.0	0 0.0	0 0.0	
生ゴミなど捨てるのを忘れて、たまってしまふことがある	新聞を読まずに積んだままになっている	書類の整理が面倒になってきた	仏壇などの管理が大変になってきた	季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	忘れないように書類を並べている	書類に多くのメモ書きをしている	印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	買物の時、額の大きなお金を出して釣りをもらう	
0 0.0	2 3.3	18 30.0	6 10.0	13 21.7	27 45.0	24 40.0	3 5.0	9 15.0	
0 0.0	2 6.7	14 46.7	5 16.7	12 40.0	12 40.0	10 33.3	3 10.0	6 20.0	
0 0.0	0 0.0	4 13.3	1 3.3	1 3.3	15 50.0	14 46.7	0 0.0	3 10.0	
自動車に傷やぶつけた跡がある	自動車を駐車場に駐車するのが、大変になってきた	電気器具をつけっぱなしにしてしまふことが時々ある	照明をつけっぱなしにしてしまふことが時々ある	家族と合るのが嫌になってきた	食堂で食事を一人で食べるようになった	自覚している行動・感覚はない	無回答		
4 6.7	2 3.3	2 3.3	10 16.7	1 1.7	6 10.0	3 5.0	0 0.0		
1 3.3	2 6.7	2 6.7	6 20.0	1 3.3	3 10.0	0 0.0	0 0.0		
3 10.0	0 0.0	0 0.0	4 13.3	0 0.0	3 10.0	3 10.0	0 0.0		

第3項 職員アンケート

入居者の健康状態

		合計	良い	まあ良い	普通	あまり良くない	良くない	無回答
全体	N	60	18	15	18	9	0	0
	%	100.0	30.0	25.0	30.0	15.0	0.0	0.0
移行期	N	30	3	7	13	7	0	0
	%	100.0	10.0	23.3	43.3	23.3	0.0	0.0
自立	N	30	15	8	5	2	0	0
	%	100.0	50.0	26.7	16.7	6.7	0.0	0.0

入居者の健康問題の日常生活への影響の有無

		合計	ある	ない	無回答
全体	N	60	16	44	0
	%	100.0	26.7	73.3	0.0
移行期	N	30	12	18	0
	%	100.0	40.0	60.0	0.0
自立	N	30	4	26	0
	%	100.0	13.3	86.7	0.0

入居者の日常生活全般についての満足感

		合計	満足している	まあ満足している	やや不満である	不満である	無回答
全体	N	60	18	38	2	1	1
	%	100.0	30.0	63.3	3.3	1.7	1.7
移行期	N	30	5	23	0	1	1
	%	100.0	16.7	76.7	0.0	3.3	3.3
自立	N	30	13	15	2	0	0
	%	100.0	43.3	50.0	6.7	0.0	0.0

入居者の生きがい

		合計	十分感じている	多少感じている	あまり感じていない	まったく感じていない	わからない	無回答
全体	N	60	20	27	10	0	2	1
	%	100.0	33.3	45.0	16.7	0.0	3.3	1.7
移行期	N	30	2	16	9	0	2	1
	%	100.0	6.7	53.3	30.0	0.0	6.7	3.3
自立	N	30	18	11	1	0	0	0
	%	100.0	60.0	36.7	3.3	0.0	0.0	0.0

入居者の近所の人とのつきあい

		合計	親しくつきあっている	あいさつをする程度	付き合いはほとんどない	わからない	無回答
全体	N	60	28	30	2	0	0
	%	100.0	46.7	50.0	3.3	0.0	0.0
移行期	N	30	9	19	2	0	0
	%	100.0	30.0	63.3	6.7	0.0	0.0
自立	N	30	19	11	0	0	0
	%	100.0	63.3	36.7	0.0	0.0	0.0

入居者の親しい友人・仲間

		合計	沢山もっている	普通	少しもっている	友人・仲間はもっていない	わからない	無回答
全体	N	60	16	28	11	4	1	0
	%	100.0	26.7	46.7	18.3	6.7	1.7	0.0
移行期	N	30	5	11	9	4	1	0
	%	100.0	16.7	36.7	30.0	13.3	3.3	0.0
自立	N	30	11	17	2	0	0	0
	%	100.0	36.7	56.7	6.7	0.0	0.0	0.0

入居者の将来の日常生活全般についての不安感

		合計	とても不安を感じる	多少不安を感じる	不安は感じない	無回答
全体	N	60	4	40	16	0
	%	100.0	6.7	66.7	26.7	0.0
移行期	N	30	3	23	4	0
	%	100.0	10.0	76.7	13.3	0.0
自立	N	30	1	17	12	0
	%	100.0	3.3	56.7	40.0	0.0

入居者のおしゃれについての関心

		合計	積極的におしゃれをしたい	ある程度はおしゃれをしたい	あまり関心はない	関心はない	無回答
全体	N	60	12	33	11	4	0
	%	100.0	20.0	55.0	18.3	6.7	0.0
移行期	N	30	3	16	8	3	0
	%	100.0	10.0	53.3	26.7	10.0	0.0
自立	N	30	9	17	3	1	0
	%	100.0	30.0	56.7	10.0	3.3	0.0

入居者の最近1ヵ月間の食事回数

		合計	毎日かならず3食を食べている	週に1～2食、欠食することがある	週に3～6食、欠食することがある	週に7食以上、欠食することがある	無回答
全体	N	60	40	15	4	1	0
	%	100.0	66.7	25.0	6.7	1.7	0.0
移行期	N	30	16	12	2	0	0
	%	100.0	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0
自立	N	30	24	3	2	1	0
	%	100.0	80.0	10.0	6.7	3.3	0.0

入居者の外出頻度

		合計	ほとんど毎日	週に4～5日	週に2～3日	週に1日程度	月に2～3日以下	無回答
全体	N	60	14	20	15	3	8	0
	%	100.0	23.3	33.3	25.0	5.0	13.3	0.0
移行期	N	30	3	8	8	3	8	0
	%	100.0	10.0	26.7	26.7	10.0	26.7	0.0
自立	N	30	11	12	7	0	0	0
	%	100.0	36.7	40.0	23.3	0.0	0.0	0.0

入居者の外出についての積極性

		合計	自分から積極的に外出する方である	家族や他人から誘われたり、仲間がいれば外出する方である	家族や他人から誘われれば仕方なく外出する方である	家族や他人から誘われても極力外出はしない方である	外出することはほとんどない	無回答
全体	N	60	39	12	1	1	7	0
	%	100.0	65.0	20.0	1.7	1.7	11.7	0.0
移行期	N	30	13	8	1	1	7	0
	%	100.0	43.3	26.7	3.3	3.3	23.3	0.0
自立	N	30	26	4	0	0	0	0
	%	100.0	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0

入居者が日常生活で特に心がけている点（複数回答）

		合計	衣服	食事	住まい	家族・親戚とのつきあい	近隣・友人・仲間とのつきあい	外に出ること
全体	N	60	19	28	3	8	19	9
	%	100.0	31.7	46.7	5.0	13.3	31.7	15.0
移行期	N	30	10	14	1	7	9	3
	%	100.0	33.3	46.7	3.3	23.3	30.0	10.0
自立	N	30	9	14	2	1	10	6
	%	100.0	30.0	46.7	6.7	3.3	33.3	20.0
健康管理	仕事	家事	社会奉仕・ボランティア活動	教養・学習・趣味・スポーツ活動	その他	特になし	無回答	
38	1	3	1	21	2	1	4	
63.3	1.7	5.0	1.7	35.0	3.3	1.7	6.7	
18	0	2	0	6	1	1	1	
60.0	0.0	6.7	0.0	20.0	3.3	3.3	3.3	
20	1	1	1	15	1	0	3	
66.7	3.3	3.3	3.3	50.0	3.3	0.0	10.0	

できなさそうな入居者の行為（1回目）（複数回答）

		合計	公共交通機関を使った外出	日用品の買い物	食事の用意	請求書などの支払い	預貯金の出し入れ	年金などの書類記入	新聞を読むこと
全体	N	60	7	1	12	1	1	0	4
	%	100.0	11.7	1.7	20.0	1.7	1.7	0.0	6.7
移行期	N	30	7	1	11	1	1	0	4
	%	100.0	23.3	3.3	36.7	3.3	3.3	0.0	13.3
自立	N	30	0	0	1	0	0	0	0
	%	100.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0
雑誌・書籍を読むこと	健康に関心をもつこと	友人を訪問	家族の相談にのること	病人の見舞い	若い人に話しかけること	できなさそうな入居者の行為はない	無回答		
1	1	11	4	6	4	42	0		
1.7	1.7	18.3	6.7	10.0	6.7	70.0	0.0		
1	1	10	4	6	4	13	0		
3.3	3.3	33.3	13.3	20.0	13.3	43.3	0.0		
0	0	1	0	0	0	29	0		
0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	96.7	0.0		

気がついた入居者の様子（1回目）（複数回答）

		合計	生活リズムの乱れが何度も見られる	こだわりがなくなる・気にしなくなる	行動範囲が狭くなる	同じ事を繰り返す	食事のペースが変わる	食べ物の好みが変わる	食事中にむせ込むことが多い
全体	N	60	1	2	13	3	3	1	1
	%	100.0	1.7	3.3	21.7	5.0	5.0	1.7	1.7
移行期	N	30	1	2	11	2	3	1	1
	%	100.0	3.3	6.7	36.7	6.7	10.0	3.3	3.3
自立	N	30	0	0	2	1	0	0	0
	%	100.0	0.0	0.0	6.7	3.3	0.0	0.0	0.0
食べこぼしが目立つ	歩く時に頻繁に物につかまる	歩く速さがゆっくりになった	足の出やあげ方が今までと違う	歩いている時にふらつきがある	階段を怖がる	閉じこもりがち	外出先で忘れ物をして連絡があるまで気がつかないことが複数回みられる	声の質が今までと違う	
	2	14	17	13	9	11	6	1	1
	3.3	23.3	28.3	21.7	15.0	18.3	10.0	1.7	1.7
	2	14	16	12	9	11	6	1	1
	6.7	46.7	53.3	40.0	30.0	36.7	20.0	3.3	3.3
0	0	1	1	0	0	0	0	0	
0.0	0.0	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
同じ会話を繰り返す	表情がとぼしくなる	気分の落ち込みが大きくなる	体臭が強くなる	髪・髭の整容ができていない	口臭が強くなる	化粧が上手く行かなくなる	洋服に無頓着になる	衣類臭がする	
	6	1	3	0	1	0	5	2	
	10.0	1.7	5.0	0.0	1.7	0.0	8.3	3.3	
	4	1	2	0	1	0	5	2	
	13.3	3.3	6.7	0.0	3.3	0.0	16.7	6.7	
2	0	1	0	0	0	0	0		
6.7	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
薬をよく飲み間違える・飲んだかどうか忘れる	店で同じものを何度も購入する	買い物に行かなくなる	同じメニューの料理ばかり作る	部屋の掃除ができない	流し台に洗い物が溜まっている	印鑑や保険証など使用頻度の低いものがない	買物の時額の大きなお金を出して釣りをもらう	行事などの約束を忘れる	
	4	1	5	1	6	1	4	2	5
	6.7	1.7	8.3	1.7	10.0	1.7	6.7	3.3	8.3
	4	1	5	1	5	1	3	2	5
	13.3	3.3	16.7	3.3	16.7	3.3	10.0	6.7	16.7
0	0	0	0	1	0	1	0	0	
0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	0.0	
駐車場への駐車が困難・斜めになっている	家族への電話が頻回になる	照明を点けない	家族を煙たがる	気がついた入居者の様子はない	無回答				
	1	0	0	1	29	0			
	1.7	0.0	0.0	1.7	48.3	0.0			
	1	0	0	0	4	0			
	3.3	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0			
0	0	0	1	25	0				
0.0	0.0	0.0	3.3	83.3	0.0				

できなさそうな入居者の行為（2回目）（複数回答）

		合計	バスや電 車で1人で 外出する	日用品の 買物をす る	預貯金の 出し入れ をする	友人の家 を訪ねる	家族や友 人の相談 にのる	階段を手 すりや壁 をつたわ らずに昇 る	椅子に座 った状態 から何も つかまら ずに立ち 上がる
全体	N	60	13	6	2	14	5	26	19
	%	100.0	21.7	10.0	3.3	23.3	8.3	43.3	31.7
移行期	N	30	13	5	2	13	5	20	14
	%	100.0	43.3	16.7	6.7	43.3	16.7	66.7	46.7
自立	N	30	0	1	0	1	0	6	5
	%	100.0	0.0	3.3	0.0	3.3	0.0	20.0	16.7
15分位続 けて歩く	この1年間 に転んだ ことがある	転倒に対 する不安 は大きい	6ヵ月間で 2~3kg以 上の体重 減少があ る	半年前に 比べて固 いものが 食べにく くなる	お茶や汁 物等でむ せること がある	口の渇き が気にな る	週に1回 以上は外 出してい る	昨年と比 べて外出 の回数が 減ってい る	
9	13	27	2	8	2	5	11	15	
15.0	21.7	45.0	3.3	13.3	3.3	8.3	18.3	25.0	
8	10	17	2	6	0	3	11	13	
26.7	33.3	56.7	6.7	20.0	0.0	10.0	36.7	43.3	
1	3	10	0	2	2	2	0	2	
3.3	10.0	33.3	0.0	6.7	6.7	6.7	0.0	6.7	
周りの人 から「いつ も同じ事 を聞く」な どの物忘れ がある と言われ る	自分で電 話番号を 調べて、電 話をかけ る	今日が何 月何日か わからない 時がある	ここ2週 間、毎日の 生活に充 実感がな い	ここ2週 間、これま で楽しんで やれて いたこと が楽しめ なくなる	ここ2週 間、以前は 楽にでき ていたこと が今では おっく うに感じ る				
5	6	2	2	5	14				
8.3	10.0	3.3	3.3	8.3	23.3				
5	6	2	2	5	14				
16.7	20.0	6.7	6.7	16.7	46.7				
0	0	0	0	0	0				
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
ここ2週 間、自分が 役に立つ 人間だと 思えない	ここ2週 間、わけも なく疲れ たように 感じる	できなさ そうな入 居者の行 為はない	無回答						
4	5	21	0						
6.7	8.3	35.0	0.0						
3	5	4	0						
10.0	16.7	13.3	0.0						
1	0	17	0						
3.3	0.0	56.7	0.0						

気がついた入居者の様子（2回目）（複数回答）

		合計	生活リズムが乱れてきた	今まで自立生活をしてきたのに、何かと頼り始めた	食事の量が変わった（減った）	食事のペースが変わった	食事のキャンセルが増えた	食事パターン（食堂に来る頻度）が変わった	立ち話中に直ぐに手すりにつかまらなくなった
全体	N	60	1	6	4	3	1	11	
	%	100.0	1.7	10.0	6.7	5.0	1.7	18.3	
移行期	N	30	1	4	4	3	1	10	
	%	100.0	3.3	13.3	13.3	10.0	3.3	33.3	
自立	N	30	0	2	0	0	0	1	
	%	100.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	3.3	
歩く速さがゆっくりになった	足音が変わってきた	閉じこもりがちになっている	声の質が今までと違うように感じる	発言に覇気がない	こちらの挨拶に対する返事の仕方が今までと違って来た	弱気になって来た	白髪が目立つ	無精髭がある	
17 28.3	4 6.7	7 11.7	0 0.0	4 6.7	0 0.0	6 10.0	15 25.0	2 3.3	
13 43.3	4 13.3	7 23.3	0 0.0	3 10.0	0 0.0	6 20.0	8 26.7	2 6.7	
4 13.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	7 23.3	0 0.0	
ファンデーションにムラがある	口紅が上手く塗れていない	化粧していない	自分の居場所の周りしか掃除しない	整頓はするものの掃除はしていない	埃のたまっているところがある	衣服が散らかっている	衣類や寝具の交換が出来ていない	流し台に洗剤が溜まっている	
0 0.0	1 1.7	11 18.3	8 13.3	2 3.3	8 13.3	3 5.0	3 5.0	2 3.3	
0 0.0	1 3.3	7 23.3	7 23.3	2 6.7	7 23.3	3 10.0	3 10.0	2 6.7	
0 0.0	0 0.0	4 13.3	1 3.3	0 0.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
室内に生ゴミの臭いがする	身の回りの整理を始めた	新聞を読まずに積んだままになっている	書類の整理ができなくなって来た	仏壇などの管理をしなくなって来た	季節に合わせて部屋の飾りを変えることをしなくなった	書類が並べられている	書類に多くのメモ書きがある	印鑑や保険証など使用頻度の低いものが、直ぐに出てこない	
0 0.0	3 5.0	1 1.7	1 1.7	0 0.0	4 6.7	3 5.0	4 6.7	1 1.7	
0 0.0	3 10.0	1 3.3	1 3.3	0 0.0	4 13.3	2 6.7	2 6.7	1 3.3	
0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.3	2 6.7	0 0.0	

買物の時、額の大きなお金を出して釣りをもらう	自動車に傷やぶつけた跡がある	駐車場への駐車が困難・斜めになっている	電気器具のつけっぱなしがある	照明のつけっぱなしがある	居室内はきれいに整理されているが、1箇所だけ普通と異なるところがある
2 3.3	3 5.0	4 6.7	1 1.7	1 1.7	1 1.7
2 6.7	0 0.0	1 3.3	1 3.3	1 3.3	1 3.3
0 0.0	3 10.0	3 10.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
家族を煙たがる	食堂で食事を一人で食べるようになった	気がついた入居者の様子は無い	無回答		
2 3.3	1 1.7	23 38.3	0 0.0		
1 3.3	0 0.0	7 23.3	0 0.0		
1 3.3	1 3.3	16 53.3	0 0.0		

自立から要介護期への移行把握のための
アセスメント項目の抽出と効果的な支援方法に関する
基礎調査研究報告書
～有料老人ホームをフィールドとして～

2012年3月発行

発行 財団法人 日本老人福祉財団
東京都中央区日本橋堀留町 1-7-7
TEL03(3662)3611 FAX03(3662)3656

禁無断転載